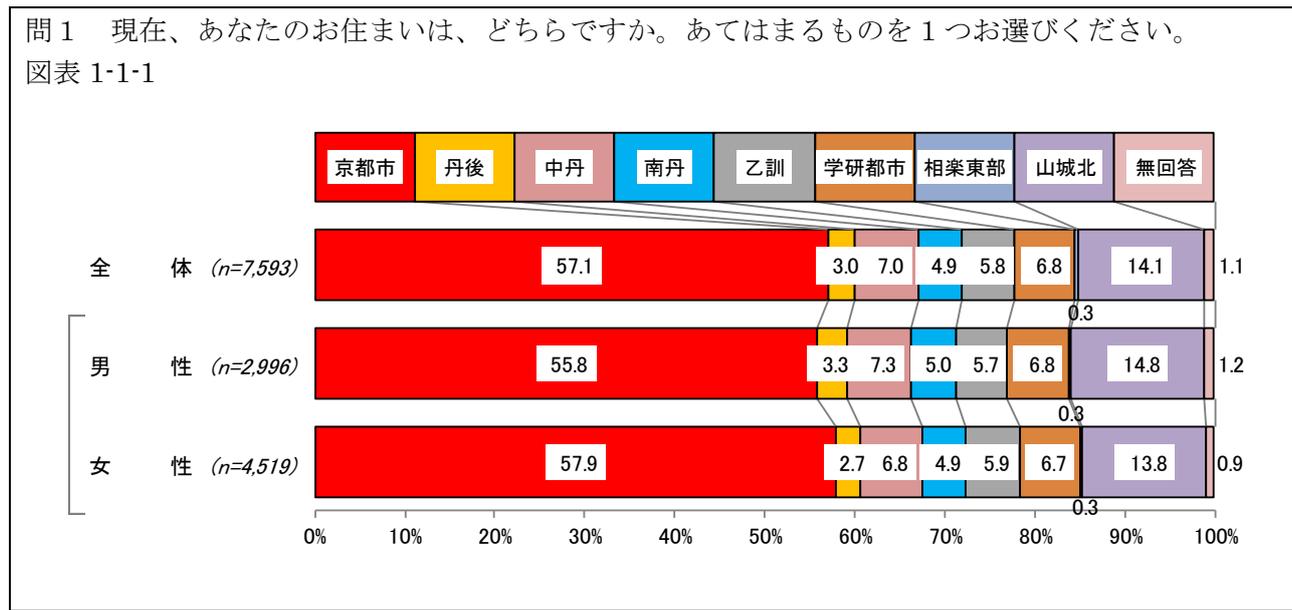


1. 現在の居住地に対する意識等

(1) 現在居住地



現在の居住地は、「京都市」が57.1%で最も多く、次いで、宇治市・城陽市・八幡市・久御山町・井手町・宇治田原町からなる「山城北」地域が14.1%、福知山市・舞鶴市・綾部市からなる「中丹」地域が7.0%、京田辺市・木津川市・精華町からなる「学研都市」が6.8%などの順となっている（図表 1-1-1）。

男女別にみると（図表 1-1-1）、男女とも「京都市」（男性55.8%、女性57.9%）が6割近くを占めている。次いで、「山城北」地域（同14.8%、13.8%）に1割以上が居住している。

〈参考：全国調査〉

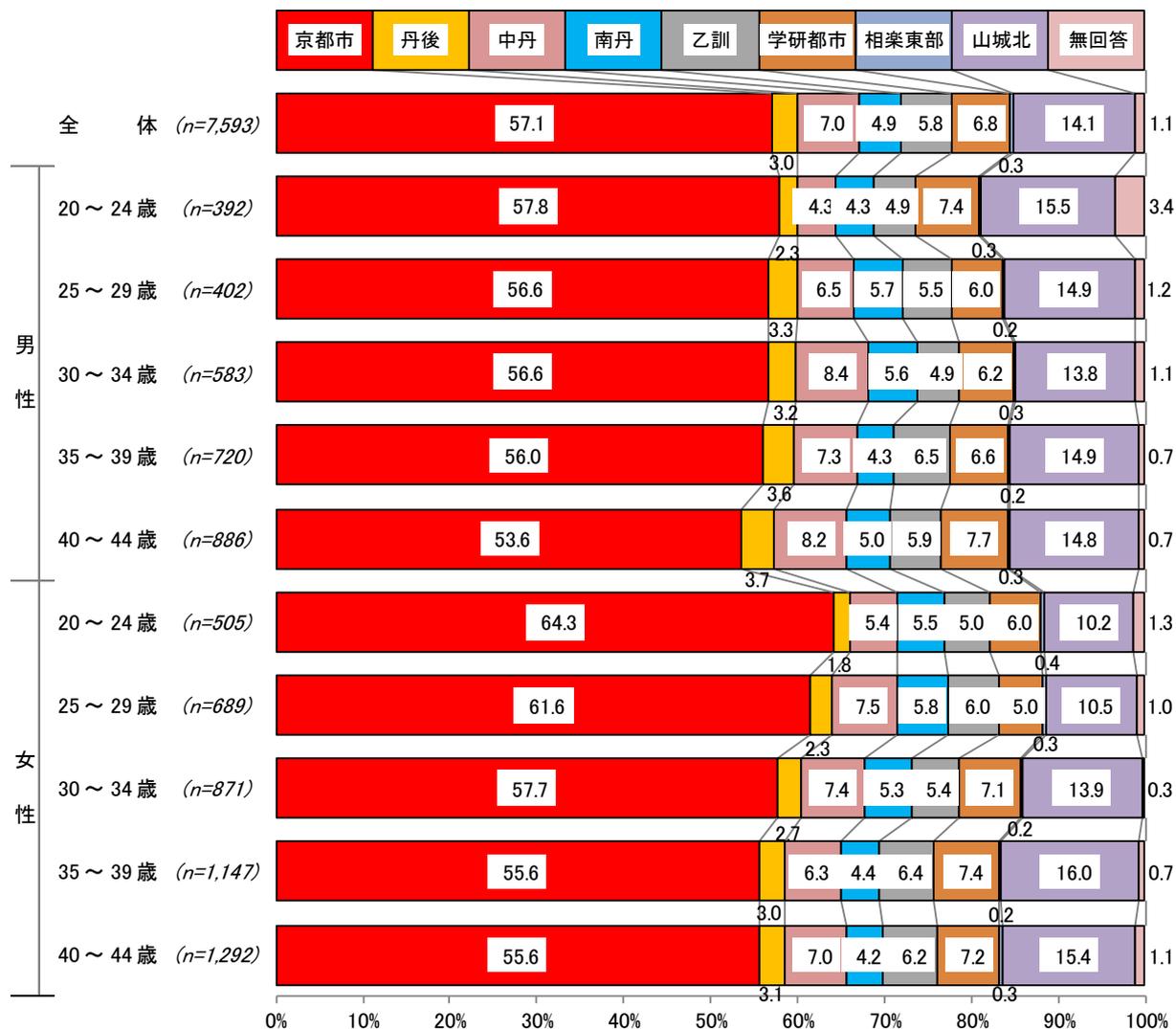
全国調査の回答者の地域分布は、「関東」（38.0%）が4割近くで最も多く、次いで「近畿」（17.9%）、「東海」（10.4%）、「北九州」（6.3%）、「東北」（6.0%）などの順となっている。

参考 1-1 現在居住地

	北海道	東北	関東	北陸	東山	東海	近畿	中国	四国	北九州	南九州	無回答
全体 (n=1,226)	3.8	6.0	38.0	3.8	3.6	10.4	17.9	5.8	2.7	6.3	1.4	0.4
男性 (n=558)	3.2	6.1	38.9	3.4	3.9	9.7	19.2	5.7	1.8	6.1	1.6	0.4
女性 (n=668)	4.2	5.8	37.3	4.0	3.3	11.1	16.9	5.8	3.4	6.4	1.2	0.4

性・年代別にみると（図表 1-1-2）、20～24 歳の女性は「京都市」居住者が 64.3%と、他の性・年代層より多くなっている。

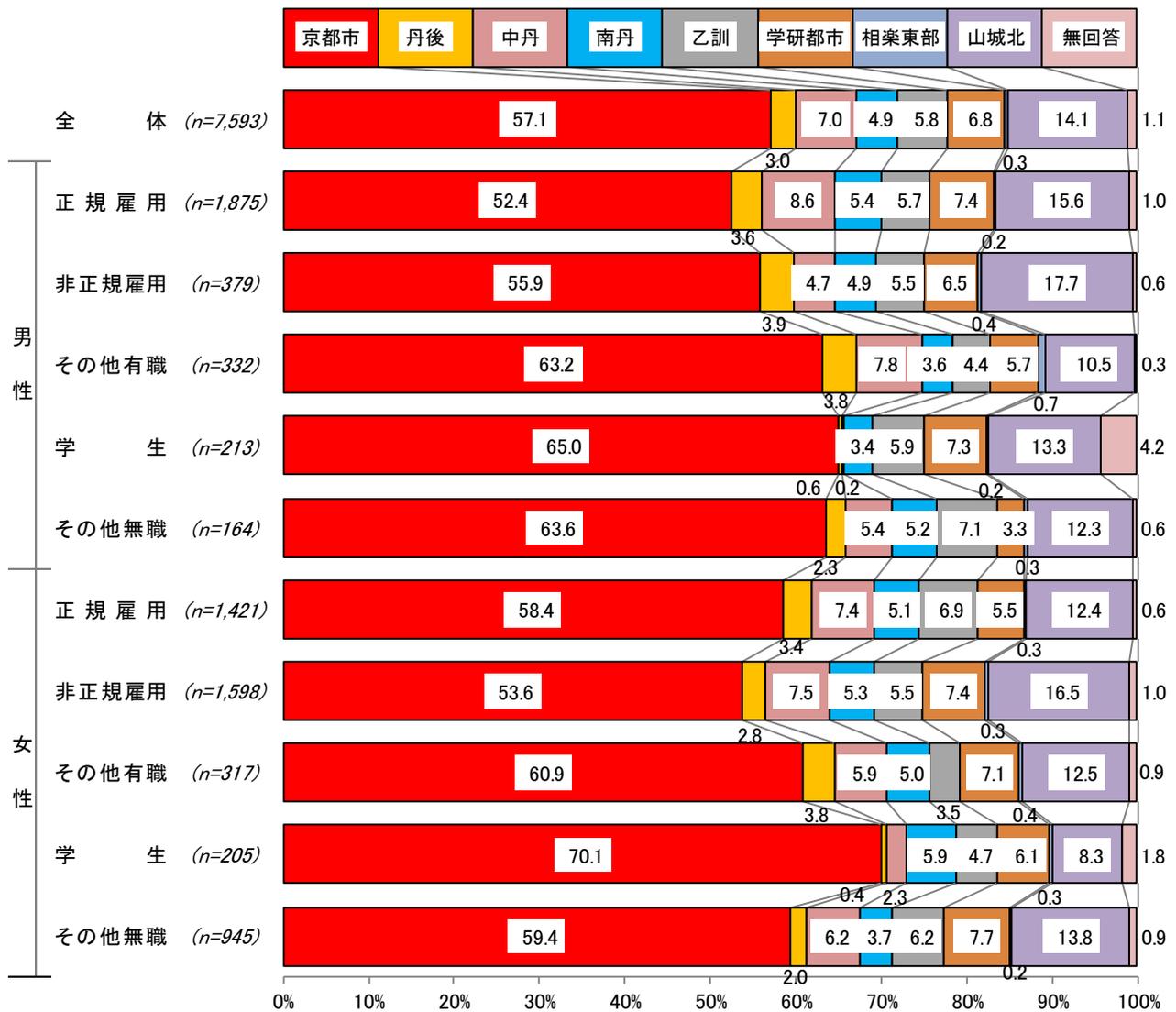
図表 1-1-2 居住地域（性・年代別）



性・就労状況別にみると（図表 1-1-3）、女性は学生の 7 割が「京都市」（70.1%）に集中している。また、自営業や内職を含むその他有職（60.9%）と学生以外の無職（59.4%）も 6 割前後が「京都市」居住である。非正規雇用者は、「山城北」地域（16.5%）にやや多くなっている。

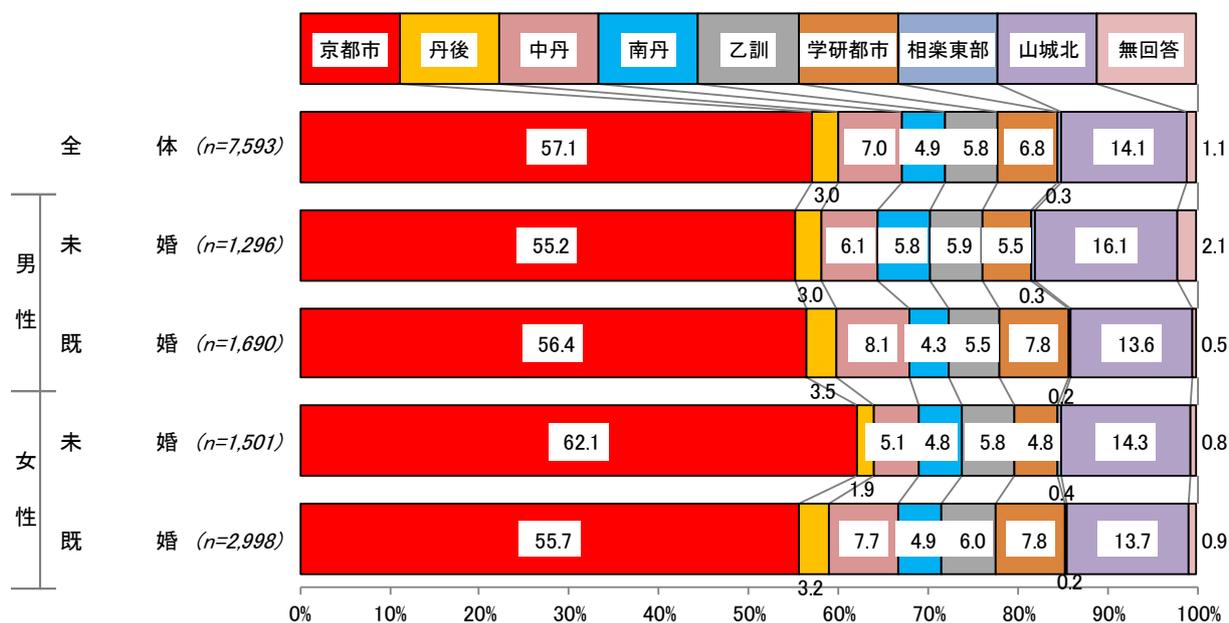
一方、男性は学生の「京都市」居住者が 65.0%を占め、学生以外の無職（63.6%）と自営業や内職を含むその他有職（63.2%）も、6 割以上が「京都市」居住である。非正規雇用者も、「山城北」地域（17.7%）にやや多い。

図表 1-1-3 居住地域（性・就労状況別）



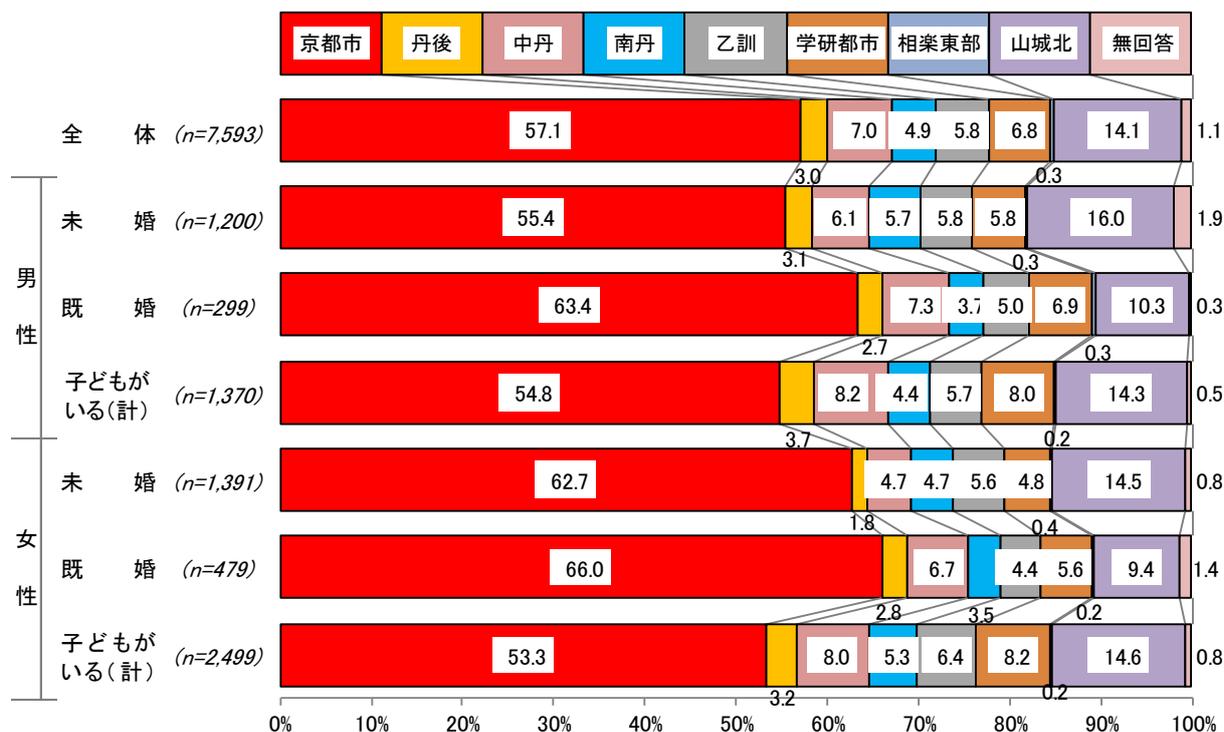
性・婚姻状況別にみると（図表 1-1-4）、未婚女性は 62.1%が「京都市」に居住している。一方、未婚男性は、「山城北」地域（16.1%）にやや多くなっている。

図表 1-1-4 居住地域（性・婚姻状況別）



さらに、性・子どもの有無別にみると（図表 1-1-5）、男女とも既婚で子どものいない者は「京都市」（男性 63.4%、女性 66.0%）に 6 割以上が居住しているが、子どもがいる者は居住地域がやや分散している。

図表 1-1-5 居住地域（性・子どもの有無別）



(2) 居住年数

【現在住んでいる市区町村以外にお住まいの経験がある方にお聞きします。】

問2 あなたは、現在の市区町村にどのくらいお住まいですか。転居などで転出した期間を除いた、通算の期間をお答えください。

図表 1-2-1

												(%)	
		1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20年以上	生まれてからずっと現在の市区町村に住んでいる	無回答	平均		
全体	(n=7,593)	5.1	10.6	8.4	15.5	11.4	7.7	19.7	19.7	2.0	16年9ヶ月		
男性	(n=2,996)	5.0	11.0	8.5	14.4	9.9	6.2	22.0	21.0	2.0	17年7ヶ月		
女性	(n=4,519)	5.2	10.5	8.3	16.3	12.3	8.5	18.1	19.0	1.8	16年4ヶ月		

現在居住する自治体への居住年数を聞いたところ（図 1-2-1）、「生まれてからずっと、現在の市区町村に住んでいる」もしくは「20年以上」という者がともに19.7%で最も多く、次いで「5～10年未満」が15.5%である。平均すると16年9ヶ月である。8割近い者には移動経験がある。

男女別にみると（図表 1-2-1）、「生まれてからずっと」（男性21.0%、女性19.0%）もしくは「20年以上」（同22.0%、18.1%）と回答した長期居住者は、女性より男性にやや多い。平均居住年数は、男性17年7ヶ月、女性は16年4ヶ月である。

〈参考：全国調査〉

全国調査の回答者は、「生まれてからずっと、現在の市区町村に住んでいる」という者が34.0%で最も多く、「20年以上」（25.2%）を合わせると、ほぼ6割は同じ市区町村に長期にわたって居住している。

男女別の平均居住年数は、男性24年5ヶ月、女性は22年6ヶ月である。

参考 1-2 居住年数

												(%)	
		1年未満	1～3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10～15年未満	15～20年未満	20年以上	生まれてからずっと現在の市区町村に住んでいる	無回答	平均		
全体	(n=1,226)	1.4	2.5	2.7	8.9	13.2	9.3	25.2	34.0	2.8	23年5ヶ月		
男性	(n=558)	0.9	2.5	3.2	9.5	10.4	7.7	27.2	36.6	2.0	24年5ヶ月		
女性	(n=668)	1.8	2.5	2.2	8.4	15.6	10.6	23.5	31.9	3.4	22年6ヶ月		

性・地域別にみると（図表 1-2-2）、「生まれてからずっと、現在の市区町村に住んでいる」者は、男女とも、笠置町・和束町・南山城村からなる相楽東部（男性 30.3%、女性 34.6%）で 3 割以上と多くなっている。また、「20 年以上」の居住者は、男女とも、京丹後市・伊根町・与謝野町からなる丹後（同 49.4%、37.1%）、福知山市・舞鶴市・綾部市からなる中丹（同 36.8%、38.5%）、相楽東部（同 33.6%、26.3%）が多い。

平均居住年数は、丹後地方の男性が 25 年 7 ヶ月、相楽東部の男性が 24 年 8 ヶ月と、長くなっている。これに対して、男女とも、京田辺市・木津川市・精華町からなる学研都市（同 14 年 8 ヶ月、13 年 3 ヶ月）と京都市（同 15 年 9 ヶ月、14 年 9 ヶ月）は、他の地域に比べ平均居住年数が短い。

図表 1-2-2 居住年数（性・地域別）

		居住年数 (%)										平均
		1 年未満	1 ~ 3 年未満	3 ~ 5 年未満	5 ~ 10 年未満	10 ~ 15 年未満	15 ~ 20 年未満	20 年以上	生まれてからずっと現在の市区町村に住んでいる	無回答		
全	体 (n=7,593)	5.1	10.6	8.4	15.5	11.4	7.7	19.7	19.7	2.0	16年9ヶ月	
男	京都市 (n=905)	6.3	13.5	8.4	17.0	10.2	5.6	17.4	19.6	2.0	15年9ヶ月	
	丹後 (n=368)	4.1	3.8	1.3	4.3	7.2	5.1	49.4	22.7	2.2	25年7ヶ月	
	中丹 (n=266)	3.3	11.1	7.0	9.1	10.4	6.0	36.8	14.6	1.8	19年9ヶ月	
	南丹 (n=252)	1.4	6.5	5.9	9.5	10.7	6.4	28.8	27.2	3.7	21年9ヶ月	
	乙訓 (n=259)	3.4	3.9	11.9	17.2	8.6	8.3	24.4	21.8	0.4	19年2ヶ月	
	学研都市 (n=278)	6.1	11.2	12.3	17.5	12.3	8.2	17.1	14.5	0.8	14年8ヶ月	
	相楽東部 (n=156)	3.9	4.4	3.7	2.7	8.8	7.1	33.6	30.3	5.5	24年8ヶ月	
	山城北 (n=477)	2.5	7.2	8.0	9.4	8.8	7.3	25.3	29.8	1.7	20年8ヶ月	
女	京都市 (n=1,478)	6.8	12.6	9.2	17.1	12.3	7.6	14.5	18.4	1.6	14年9ヶ月	
	丹後 (n=458)	2.9	6.6	4.4	8.2	9.6	9.3	37.1	19.4	2.4	22年4ヶ月	
	中丹 (n=374)	3.0	7.6	6.1	10.6	7.7	5.5	38.5	18.7	2.4	21年4ヶ月	
	南丹 (n=374)	4.6	6.5	4.6	12.8	9.1	10.3	24.0	26.6	1.6	19年10ヶ月	
	乙訓 (n=429)	3.4	8.0	10.5	13.4	15.5	11.6	18.0	18.4	1.3	16年9ヶ月	
	学研都市 (n=447)	4.2	10.4	10.5	25.0	14.6	10.9	11.3	12.1	1.0	13年3ヶ月	
	相楽東部 (n=230)	3.0	5.7	4.5	7.9	8.5	6.7	26.3	34.6	2.8	21年3ヶ月	
	山城北 (n=689)	1.6	6.0	6.0	16.2	13.6	11.0	20.5	22.5	2.6	19年0ヶ月	

移動経験を性・年代別にみると（図表 1-3-5）、これまで「転出入経験なし」の者は、男女とも 20～24 歳（男性 32.2%、女性 33.0%）と女性の 25～29 歳（27.2%）で 3 割前後である。

年代が高い層ほど、『京都府内での移動』が多くなっている。

図表 1-3-5 これまでの移動経験（性・年代別）

		京都府内					京都府外									(%)
		転 出 入 経 験 な し	府 内 移 動 （ 計 ）	京 都 市 内 移 動	同 一 地 域 か ら 転 入	府 内 他 地 域 か ら 転 入	他 府 県 か ら 転 入 （ 計 ）	滋 賀 県 内 の 市 町 村	大 阪 府 内 の 市 区 町 村	兵 庫 県 内 の 市 区 町 村	奈 良 県 内 の 市 町 村	福 井 県 内 の 市 町 村	三 重 県 内 の 市 町 村	そ の 他 都 道 県 の 市 区 町 村	無 回 答	
全	体 (n=7,593)	19.7	39.7	17.7	4.0	17.9	31.8	3.2	8.8	3.0	2.3	0.5	0.5	13.6	8.8	
男 性	20～24 歳 (n=392)	32.2	23.8	5.6	2.2	16.0	25.1	4.3	5.3	0.8	0.5	0.3	0.7	13.2	18.9	
	25～29 歳 (n=402)	22.4	33.4	14.2	1.8	17.4	35.5	4.1	8.2	3.8	2.8	0.6	1.7	14.3	8.7	
	30～34 歳 (n=583)	17.8	37.8	19.6	3.2	15.1	33.5	2.6	7.0	4.4	1.2	0.3	1.1	16.8	10.9	
	35～39 歳 (n=720)	21.4	41.5	20.3	4.5	16.7	29.8	2.7	9.3	2.0	2.4	0.1	0.1	13.2	7.2	
	40～44 歳 (n=886)	16.8	41.3	18.0	5.1	18.2	33.5	2.7	11.9	2.1	2.1	0.3	0.3	14.1	8.3	
女 性	20～24 歳 (n=505)	33.0	29.7	10.8	2.2	16.7	24.1	2.7	3.8	4.2	1.5	0.7	-	11.3	13.1	
	25～29 歳 (n=689)	27.2	37.0	17.9	3.1	15.9	27.9	2.9	8.2	2.7	1.2	0.6	0.3	12.0	8.0	
	30～34 歳 (n=871)	20.1	40.6	19.6	3.8	17.3	32.5	3.6	8.7	2.8	2.6	0.7	0.8	13.3	6.7	
	35～39 歳 (n=1,147)	14.3	44.8	19.9	5.2	19.6	34.4	3.4	11.0	2.9	3.3	0.5	0.7	12.7	6.6	
	40～44 歳 (n=1,292)	12.2	45.8	20.0	5.1	20.6	35.2	3.3	9.5	3.9	3.2	0.5	0.0	14.7	6.8	

性・地域別にみると(図表 1-3-6)、これまで「転出入経験なし」という者は、女性の相楽東部で 34.6%と、他の地域より高くなっている。男性では、相楽東部(30.3%)と山城北(29.8%)で、約 3 割である。

『他府県から転入』した者は、男性は中丹(46.0%)と学研都市居住者(45.0%)で 4 割台、女性の学研都市居住者(50.9%)では半数を占める。

図表 1-3-6 これまでの移動経験(性・地域別)

		京都市内					京都市外										(%)
		転出入経験なし	府内移動(計)	京都市内移動	同一地域へ転入	府内他地域から転入	他府県から転入(計)	滋賀県内の市町村	大阪府内の市区町村	兵庫県内の市区町村	奈良県内の市町村	福井県内の市町村	三重県内の市町村	その他都道府県の市区町村	無回答		
全	体 (n=7,593)	19.7	39.7	17.7	4.0	17.9	31.8	3.2	8.8	3.0	2.3	0.5	0.5	13.6	8.8		
男	京都市 (n=905)	19.6	40.6	29.9	-	10.7	31.0	4.0	6.2	1.8	0.9	0.2	0.7	17.2	8.9		
	丹後 (n=368)	22.7	31.0	-	8.9	22.1	34.4	2.8	10.7	6.5	0.6	-	0.2	13.7	11.9		
	中丹 (n=266)	14.6	28.7	-	9.4	19.3	46.0	1.4	15.0	7.7	0.7	1.1	1.9	18.1	10.7		
	南丹 (n=252)	27.2	38.7	-	9.1	29.7	16.0	0.9	5.6	3.1	1.1	0.2	-	5.0	18.1		
	乙訓 (n=259)	21.8	40.7	-	12.1	28.6	29.1	2.2	11.2	1.7	0.6	1.1	-	12.3	8.3		
	学研都市 (n=278)	14.5	36.8	-	5.4	31.4	45.0	1.8	15.8	3.2	15.0	-	0.9	8.4	3.7		
	相楽東部 (n=156)	30.3	17.2	-	2.9	14.3	34.5	2.2	12.0	-	9.8	-	1.9	8.6	17.9		
	山城北 (n=477)	29.8	32.9	-	8.4	24.5	29.1	2.5	13.2	2.3	1.2	0.1	0.6	9.2	8.2		
女	京都市 (n=1,478)	18.4	43.3	31.9	-	11.4	31.2	3.9	7.1	2.7	0.9	0.6	0.5	15.5	7.1		
	丹後 (n=458)	19.4	43.1	-	12.6	30.5	28.7	1.0	9.6	11.2	1.1	0.5	-	5.3	8.8		
	中丹 (n=374)	18.7	38.1	-	9.7	28.4	35.8	1.2	12.7	8.6	0.3	2.4	-	10.5	7.4		
	南丹 (n=374)	26.6	41.5	-	10.0	31.6	23.2	2.6	6.2	2.6	1.4	0.5	0.6	9.2	8.7		
	乙訓 (n=429)	18.4	42.8	-	10.5	32.3	32.4	4.7	13.2	2.4	1.3	-	-	10.8	6.3		
	学研都市 (n=447)	12.1	33.0	-	6.4	26.6	50.9	3.3	14.0	2.1	20.3	-	0.7	10.6	4.0		
	相楽東部 (n=230)	34.6	22.3	-	0.5	21.8	31.4	2.0	8.2	0.7	10.8	0.5	2.0	7.3	11.7		
	山城北 (n=689)	22.5	39.7	-	12.1	27.6	30.6	1.8	11.4	2.7	3.3	0.1	0.2	11.0	7.2		

(4) 現居住地への転入理由

【現在住んでいる市区町村以外にお住まいの経験がある方にお聞きします。】

問4 あなたが、現在お住まいの市区町村に住むようになったのは、なぜですか。あてはまるものを3つまでお選びください。

図表 1-4-1

		結	住	家	通	就	入	転	親	親	通	転	親	豊	子	離	家	健	ど	近	保	そ	無
		婚	宅	族	勤	職	学	動	と	と	学	職	と	かな	ども	婚	業	康	人	所	育	の	回
		婚	事	の	通	職	進	学	近	近	学	職	同	自然	の	承	上	間	との	サ	他	答	
		婚	情	移	学	職	学	動	居	居	習	職	居	環境	学	承	の	関	付	ー	の	答	
		婚	情	動	の	職	進	動	す	す	環	職	す	境	環	承	理	係	き	ビ	他	答	
		婚	情	に	の	職	学	動	る	る	境	職	る	境	境	由	係	合	ス	の	答	答	
		婚	情	伴	便	職	学	動	た	た	境	職	た	境	境	由	係	い	の	の	答	答	
		婚	情	っ	便	職	学	動	め	め	境	職	め	境	境	由	係	な	利	の	答	答	
		婚	情	て	便	職	学	動	ため	ため	境	職	ため	境	境	由	係	い	用	他	答	答	
		婚	情	て	便	職	学	動	ため	ため	境	職	ため	境	境	由	係	い	用	他	答	答	
全	体 (n=5,924)	30.6	15.0	13.6	9.8	8.4	7.8	6.9	6.9	5.9	5.2	3.6	3.1	1.9	1.2	1.0	0.9	0.8	0.8	3.2	5.1		
男	性 (n=2,292)	23.2	16.0	13.7	11.2	10.7	8.8	9.6	6.3	7.3	5.7	4.4	2.9	0.9	2.1	1.5	0.9	0.7	0.7	2.8	5.8		
女	性 (n=3,571)	35.4	14.6	13.4	8.8	7.0	7.1	5.3	7.2	5.0	4.9	3.1	3.2	2.5	0.6	0.7	0.9	0.8	0.8	3.5	4.5		

現在居住している市区町村以外からの移動経験がある者（5,924人）の、現在の市区町村への転入理由としては（図表 1-4-1）、「結婚」が 30.6%で最も多くあげられ、次いで「住宅事情」が 15.0%、「家族の移動に伴って」が 13.6%となっている。

男女別にみると（図表 1-4-1）、他の市区町村からの転入理由としては、男女とも「結婚」（男性 23.2%、女性 35.4%）が最も多くあげられ、女性が男性を 12 ポイント上回っている。次いで、男女とも「住宅事情」（同 16.0%、14.6%）、「家族の移動に伴って」（同 13.7%、13.4%）の順となっており、男女差はみられない。

〈参考：全国調査〉

移動経験のある全国調査の回答者（775人）の現在居住地への転入理由としては、「結婚」が 26.6%で最も多くあげられ、次いで「家族の移動に伴って」（15.1%）、「住宅事情」（11.0%）、「就職」（10.5%）、「入学・進学」（8.6%）の順となっている。

男女別にみると、「結婚」は男性 19.0%に対して、女性では 32.6%と差が大きい。一方、「就職」（男性 14.0%、女性 7.6%）は、男性が女性を 6 ポイント上回っている。

参考 1-4 現居住地への転入理由

		結	家	住	就	入	転	親	親	通	転	子	豊	家	離	保	ど	近	健	そ	無
		婚	族	宅	職	学	動	と	と	勤	職	ども	かな	業	婚	育	人	所	康	の	回
		婚	の	事	職	進	動	同	同	学	職	の	自然	継	サ	間	との	上	の	の	答
		婚	移	情	職	学	動	居	居	学	職	学	環境	承	ー	関	付	の	理	他	答
		婚	動	情	職	学	動	す	す	習	職	環	境	承	ビ	係	き	の	由	の	答
		婚	に	情	職	学	動	る	る	環	職	境	境	承	ス	係	合	利	の	の	答
		婚	伴	情	職	学	動	た	た	境	職	境	境	承	の	係	い	用	他	の	答
		婚	っ	情	職	学	動	め	め	境	職	境	境	承	理	係	な	の	の	の	答
		婚	て	情	職	学	動	ため	ため	境	職	境	境	承	由	係	い	の	の	の	答
		婚	て	情	職	学	動	ため	ため	境	職	境	境	承	由	係	い	の	の	の	答
全	体 (n=775)	26.6	15.1	11.0	10.5	8.6	7.2	7.1	7.0	6.1	5.2	2.7	2.6	1.9	1.3	0.5	0.5	0.3	0.3	2.7	11.9
男	性 (n=343)	19.0	13.7	13.4	14.0	9.9	9.0	8.5	7.0	9.0	7.9	2.9	2.3	3.8	0.6	0.6	-	0.3	0.3	1.5	11.7
女	性 (n=432)	32.6	16.2	9.0	7.6	7.6	5.8	6.0	6.9	3.7	3.0	2.5	2.8	0.5	1.9	0.5	0.9	0.2	0.2	3.7	12.0

性・年代別にみると（図表 1-4-2）、男女とも 20～24 歳の年代では、「入学・進学」（男性 33.8%、女性 23.5%）と「家族の移動に伴って」（同 31.8%、28.4%）が上位 2 項目となっている。また、「住宅事情」は、男性で年代が高い層ほど多くあげられている。

図表 1-4-2 現居住地への転入理由（性・年代別）

(%)

		結 婚	住 宅 事 情	家 族 の 移 動 に 伴 っ て	通 勤 通 学 の 便	就 職	入 学 ・ 進 学	転 勤	親 と 近 居 す る た め	転 職	親 と 同 居 す る た め	豊 か な 自 然 環 境	子 ど も の 学 習 環 境	離 婚	家 業 継 承	健 康 上 の 理 由	近 所 と の 付 き 合 い な ど 人 間 関 係	保 育 サ ー ビ ス の 利 用	そ の 他	無 回 答
全	体 (n=5,924)	30.6	15.0	13.6	9.8	8.4	7.8	6.9	6.9	5.9	5.2	3.6	3.1	1.9	1.2	1.0	0.9	0.8	3.2	5.1
男 性	20～24歳 (n=248)	0.6	5.9	31.8	8.1	13.4	33.8	4.6	0.2	1.6	2.4	1.5	0.6	0.8	0.1	0.6	1.4	-	0.6	12.0
	25～29歳 (n=298)	16.0	7.4	15.9	10.8	21.2	12.8	9.4	2.9	4.9	6.3	1.6	1.4	0.5	1.4	1.6	-	0.1	3.9	5.3
	30～34歳 (n=457)	24.7	16.4	10.4	13.4	11.5	4.0	10.6	6.0	10.9	5.4	5.2	1.9	0.8	1.4	2.1	1.1	0.4	4.1	7.9
	35～39歳 (n=558)	30.1	19.0	10.4	10.7	7.1	4.1	9.9	8.8	7.7	6.9	5.2	4.3	1.2	3.1	1.1	1.1	1.3	1.6	4.1
	40～44歳 (n=725)	28.2	20.6	11.1	11.4	7.3	5.1	10.8	8.3	7.6	6.0	5.5	3.9	0.9	2.9	1.8	0.7	1.1	3.0	3.7
女 性	20～24歳 (n=307)	5.6	11.2	28.4	7.8	14.7	23.5	3.2	2.7	1.0	3.9	1.2	1.3	1.8	1.0	0.6	0.6	0.4	3.6	8.7
	25～29歳 (n=481)	32.6	11.3	11.3	10.5	14.9	8.7	2.5	3.2	9.2	5.1	3.1	0.8	0.7	0.1	0.6	1.4	0.5	5.3	5.3
	30～34歳 (n=683)	39.2	14.4	12.7	8.9	7.7	4.8	6.3	8.9	6.8	4.6	2.5	1.9	1.7	0.3	0.5	0.9	0.8	4.2	3.4
	35～39歳 (n=971)	42.3	17.0	11.4	8.4	3.5	4.9	6.8	7.7	4.3	5.1	3.7	4.1	1.8	0.4	1.0	0.5	0.8	3.1	3.8
	40～44歳 (n=1,118)	37.0	15.0	12.1	8.8	3.7	4.9	4.9	9.0	3.8	5.1	3.4	5.0	4.7	1.0	0.5	1.2	1.0	2.7	4.1

性・地域別にみると（図表 1-4-3）、中丹居住男性では、「就職」（28.1%）、「転勤」（20.5%）、「転職」（12.6%）など就労に関する理由が、他地域より多くあげられている。「就職」を理由とする転入は、丹後居住の男女（男性 23.8%、女性 16.7%）と中丹居住の女性（13.8%）にも多くあげられている。学研都市居住者では、男女とも「住宅事情」（男性 26.1%、女性 23.0%）が多くあげられ、男性では、「通勤通学の便」（16.9%）も多くなっている。

「親と同居するため」の転入は、男女とも丹後（男性 18.0%、女性 15.4%）と相楽東部（同 19.1%、17.4%）の居住者で、他地域より多くなっている。

山城北居住の男性では、「住宅事情」（22.6%）と「家族の移動に伴って」（22.4%）が 2 割台で上位にあげられている。

図表 1-4-3 現居住地への転入理由（性・地域別）

		結婚	住宅事情	家族の移動に伴って	通勤通学の便	就職	入学・進学	転勤	親と同居するため	転職	親と同居するため	豊かな自然環境	子どもの学習環境	離婚	家業継承	健康上の理由	近所との付き合いがない	保育サービスの利用	その他	無回答
全体	(n=5,924)	30.6	15.0	13.6	9.8	8.4	7.8	6.9	6.9	5.9	5.2	3.6	3.1	1.9	1.2	1.0	0.9	0.8	3.2	5.1
京都市	(n=709)	25.4	14.7	12.6	11.9	9.5	10.4	9.3	5.2	7.5	4.8	3.4	2.3	0.8	2.2	1.5	0.7	0.9	3.2	4.8
丹後	(n=282)	13.0	5.5	5.8	4.6	23.8	13.9	8.6	4.6	9.4	18.0	3.9	0.8	1.4	7.4	3.2	0.7	0.4	1.8	10.5
中丹	(n=221)	10.6	7.2	5.2	5.7	28.1	10.2	20.5	6.7	12.6	7.8	2.1	1.2	1.0	4.3	1.2	0.4	-	1.9	6.4
男性																				
南丹	(n=176)	21.1	15.0	17.2	7.7	4.0	8.3	5.2	9.2	10.4	7.3	7.8	4.1	0.7	1.1	1.6	3.0	0.7	3.3	17.9
乙訓	(n=207)	30.4	20.1	16.8	11.3	8.1	4.3	8.8	9.6	4.5	4.3	5.6	2.4	1.5	-	1.9	1.1	1.3	1.5	6.3
学研都市	(n=238)	29.2	26.1	16.0	16.9	4.1	7.0	7.4	9.4	5.6	5.5	12.3	12.2	0.5	1.7	0.9	0.7	0.2	1.7	3.0
相楽東部	(n=103)	20.3	10.6	10.6	0.7	5.7	7.3	3.1	6.6	8.7	19.1	11.0	2.3	1.2	6.9	-	3.1	-	1.9	17.9
山城北	(n=332)	19.4	22.6	22.4	11.7	8.0	1.6	7.7	7.6	4.1	5.0	3.4	1.7	0.9	1.0	1.7	1.2	0.8	2.2	5.7
女性																				
京都市	(n=1,184)	36.3	14.6	12.0	10.6	7.5	7.9	5.8	6.5	4.9	3.7	2.6	3.5	2.6	0.6	0.7	1.0	0.8	4.0	4.2
丹後	(n=379)	37.6	4.9	5.7	1.8	16.7	12.2	3.8	5.8	4.8	15.4	2.4	1.6	2.7	1.9	2.6	0.4	0.1	6.5	7.1
中丹	(n=296)	25.9	4.2	12.2	5.1	13.8	12.5	7.7	6.7	8.9	8.0	2.4	0.6	3.5	0.4	0.8	0.2	0.4	3.2	6.1
南丹	(n=273)	34.9	13.5	14.4	6.0	6.1	5.1	3.7	9.2	7.7	7.4	6.8	1.1	3.6	1.0	1.7	0.8	1.5	2.3	5.6
乙訓	(n=351)	37.6	17.2	13.5	10.3	3.7	1.9	3.9	9.4	3.7	3.6	2.4	2.1	2.4	-	0.4	1.3	1.3	4.3	4.8
学研都市	(n=388)	35.4	23.0	17.4	9.5	1.7	4.5	3.9	10.9	3.2	4.9	8.3	8.7	1.8	0.3	0.6	-	1.1	1.5	1.7
相楽東部	(n=148)	31.0	5.9	16.2	2.4	2.7	4.0	2.9	9.6	2.4	17.4	8.8	2.9	4.0	1.9	0.8	0.5	-	4.0	13.4
山城北	(n=521)	36.0	16.0	18.9	3.8	3.8	3.6	4.1	7.6	4.0	5.6	1.8	2.2	1.7	0.3	-	1.4	0.3	2.2	5.4

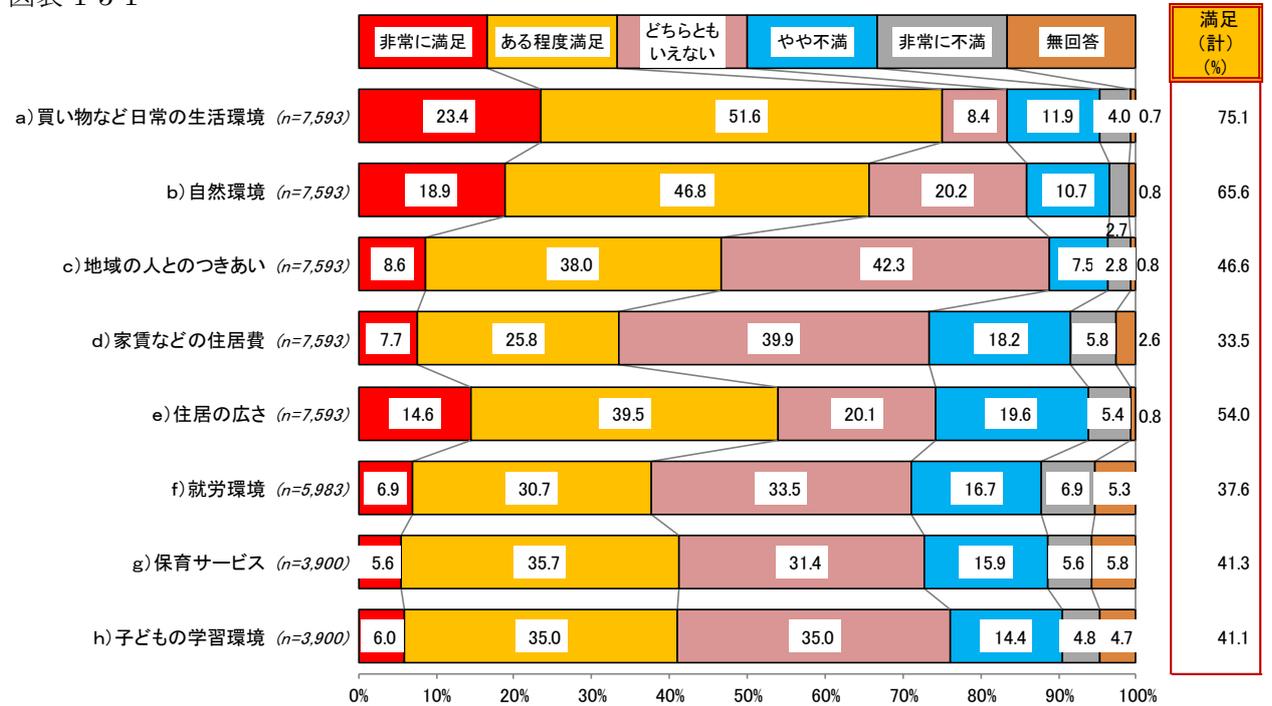
(5) 現居住地の満足度

【全員の方にお聞きします。】

問5 あなたがお住まいの市区町村について、どの程度満足していますか。

下記のa)～h)について、あてはまるものをそれぞれ1つずつお選びください。

図表 1-5-1



* “f) 就労環境”は「有職者」(5,983人)を、“g) 保育サービス”と“h) 子どもの学習環境”は「子どものいる者」(3,900人)を回答者条件として再集計している。

現居住地について、“買い物など日常の生活環境”“自然環境”“地域の人とのつきあい”“家賃などの住居費”“住居の広さ”“就労環境”“保育サービス”“子どもの学習環境”の8項目をあげ、それぞれの満足度を聞いた(図表 1-5-1)。

8項目のうち、満足度が最も高いのは“買い物など日常の生活環境”で、「非常に満足」(23.4%)もしくは「ある程度満足」(51.6%)という回答を合わせると、4人に3人は『満足』と回答している。次いで“自然環境”の満足度が65.6%、“住居の広さ”の満足度が54.0%となっている。

“地域の人とのつきあい”(46.6%)、と、子どものいる者(3,900人)の“保育サービス”(41.3%)、“子どもの学習環境”(41.1%)への満足度は、いずれも4割台である。

有職者(5,983人)の“就労環境”に対する満足度は37.6%である。

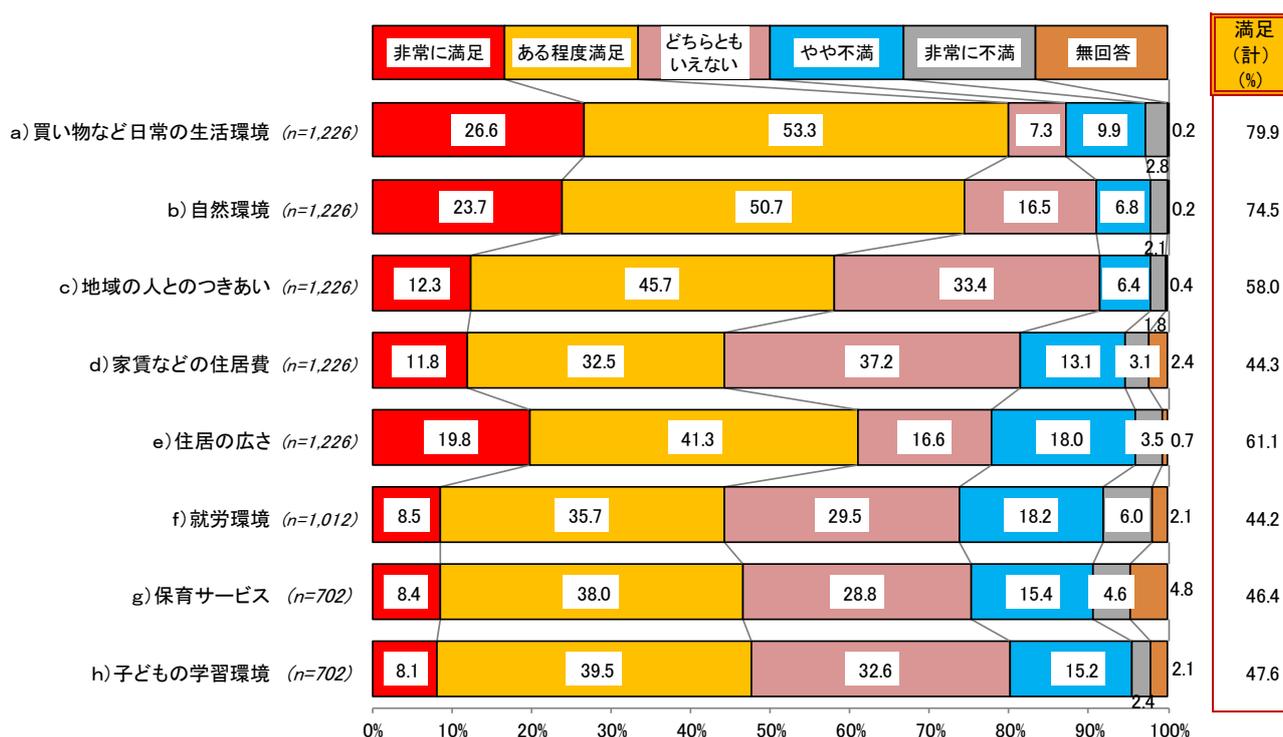
また、“家賃などの住居費”に対する満足度は33.5%で、最も低くなっている。

〈参考：全国調査〉

全国調査でも、満足度が最も高いのは“買い物など日常の生活環境”で、「非常に満足」(26.6%)もしくは「ある程度満足」(53.3%)という回答を合わせると、8割が『満足』(79.9%)と回答している。次いで“自然環境”の満足度(「非常に満足」と「ある程度満足」の計)が74.5%、“住居の広さ”の満足度が61.1%、“地域の人とのつきあい”の満足度が58.0%となっている。

そのほか、子どものいる者(702人)の“保育サービス”(46.4%)と“子どもの学習環境”(47.6%)に対する満足度、“家賃などの住居費”(44.3%)と有職者(1,012人)の“就労環境”(44.2%)に対する満足度は、いずれも4割台で、京都府民よりもやや高い。

参考 1-5 現居住地の満足度

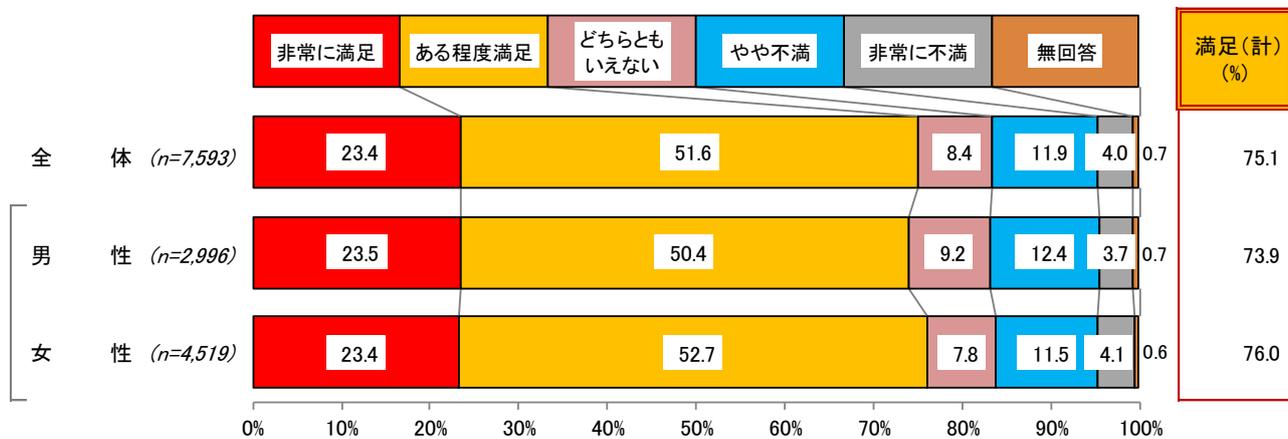


* “f) 就労環境”は「有職者」(1,012人)を、“g) 保育サービス”と“h) 子どもの学習環境”は「子どものいる者」(702人)を回答者条件として再集計している。

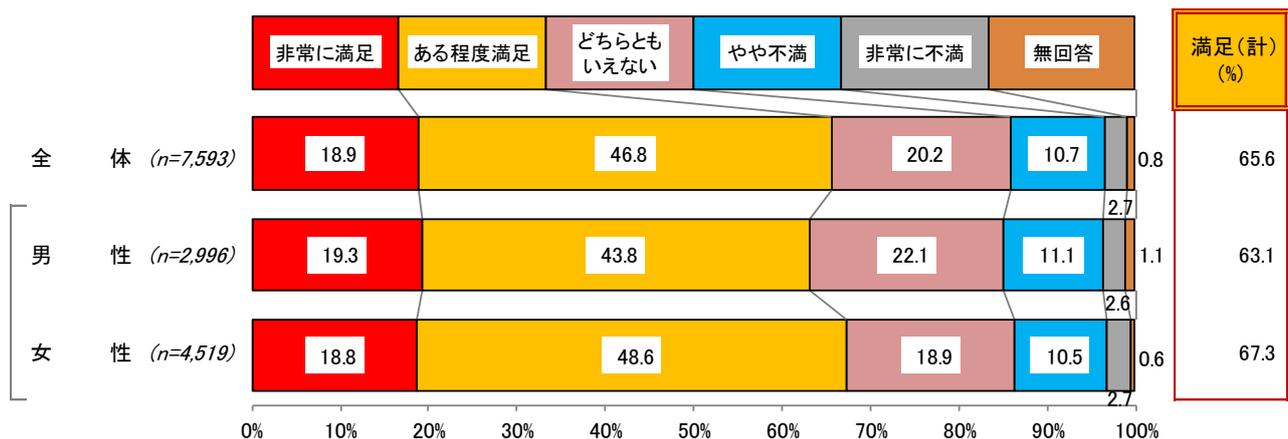
それぞれの項目に対する満足度を男女別にみても（図表 1-5-2・32～34 ページ）、大きな差はみられない。

図表 1-5-2 現居住地の満足度

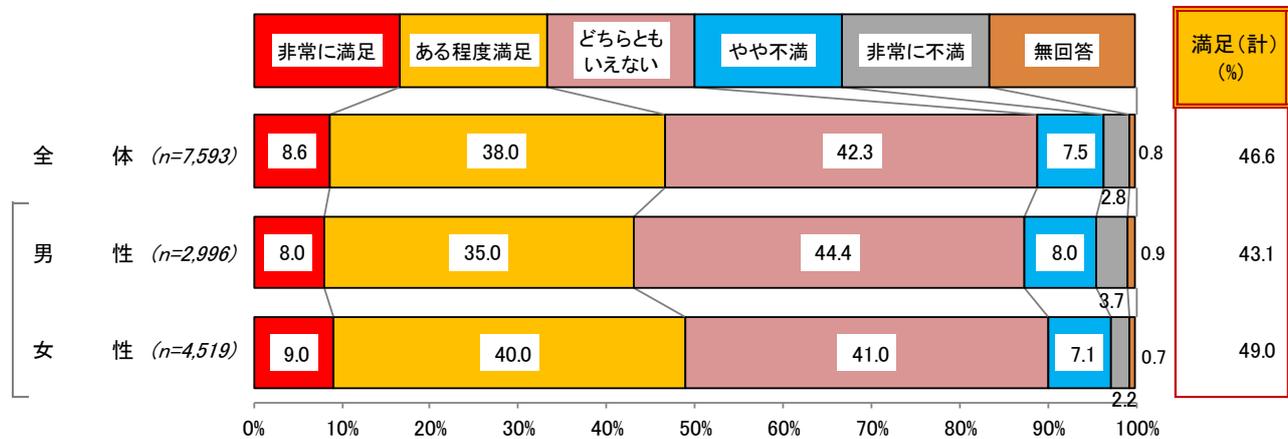
<買い物など日常の生活環境>



<自然環境>

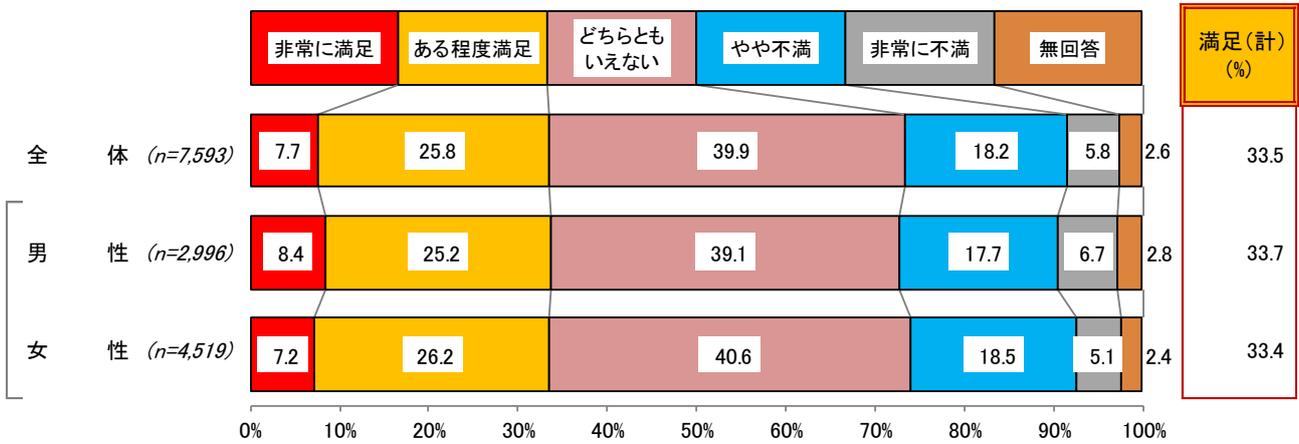


<地域の人とのつきあい>

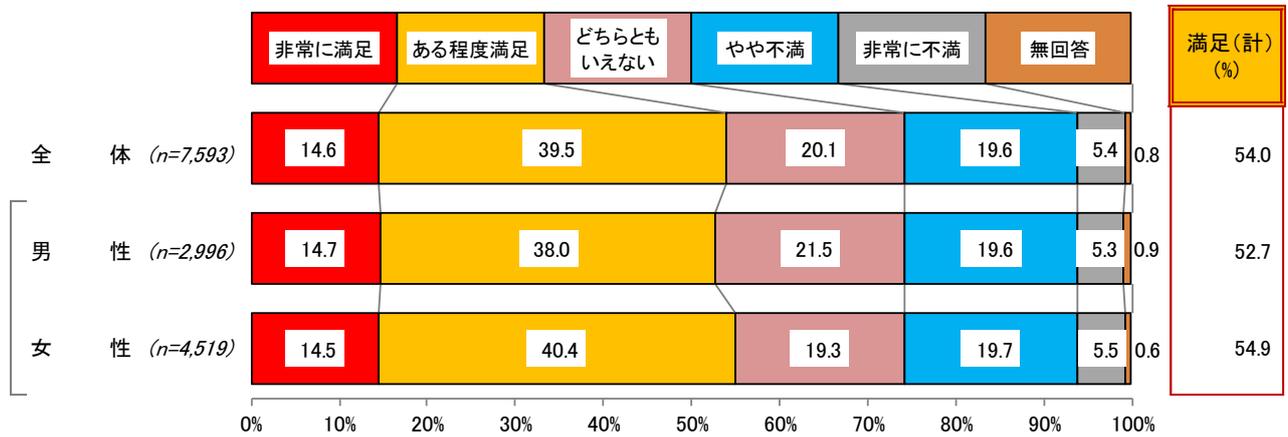


図表 1-5-2・つづき 現居住地の満足度

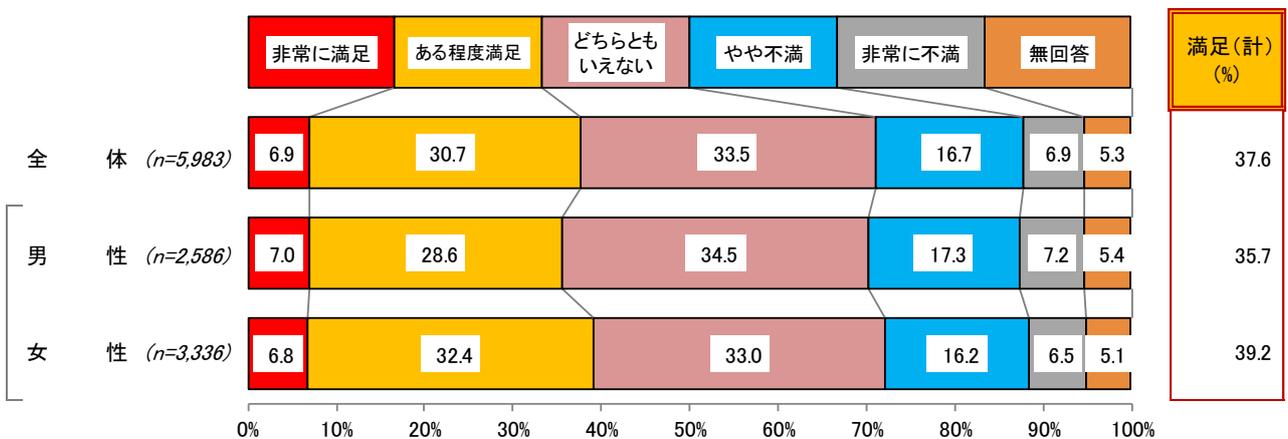
<家賃などの住居費>



<住居の広さ>

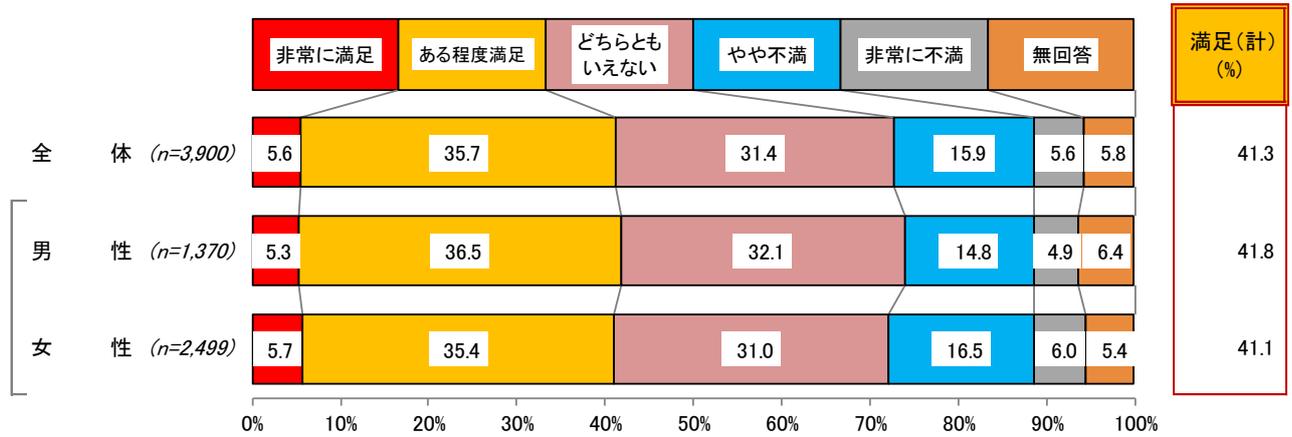


<就労環境>

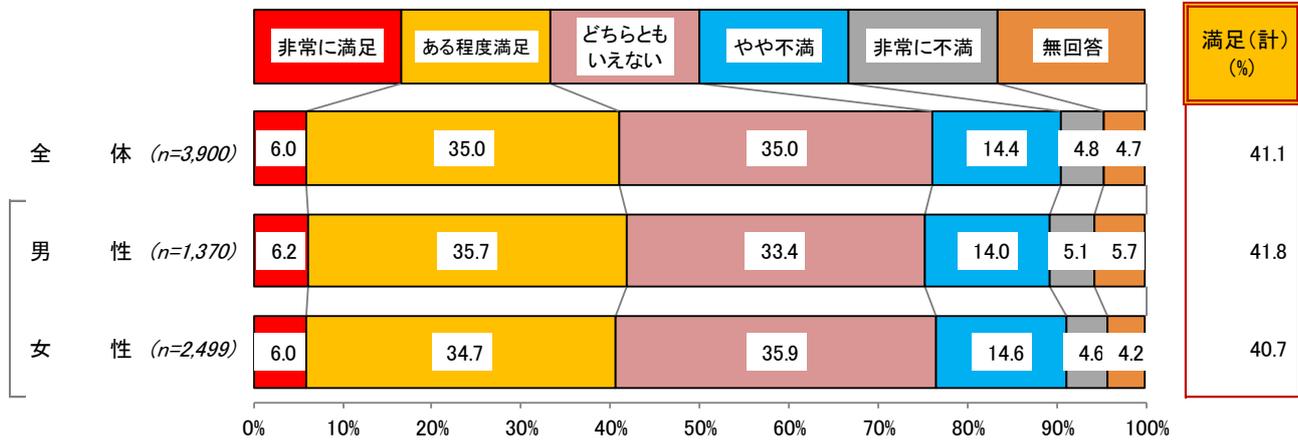


図表 1-5-2・つづき 現居住地の満足度

<保育サービス>

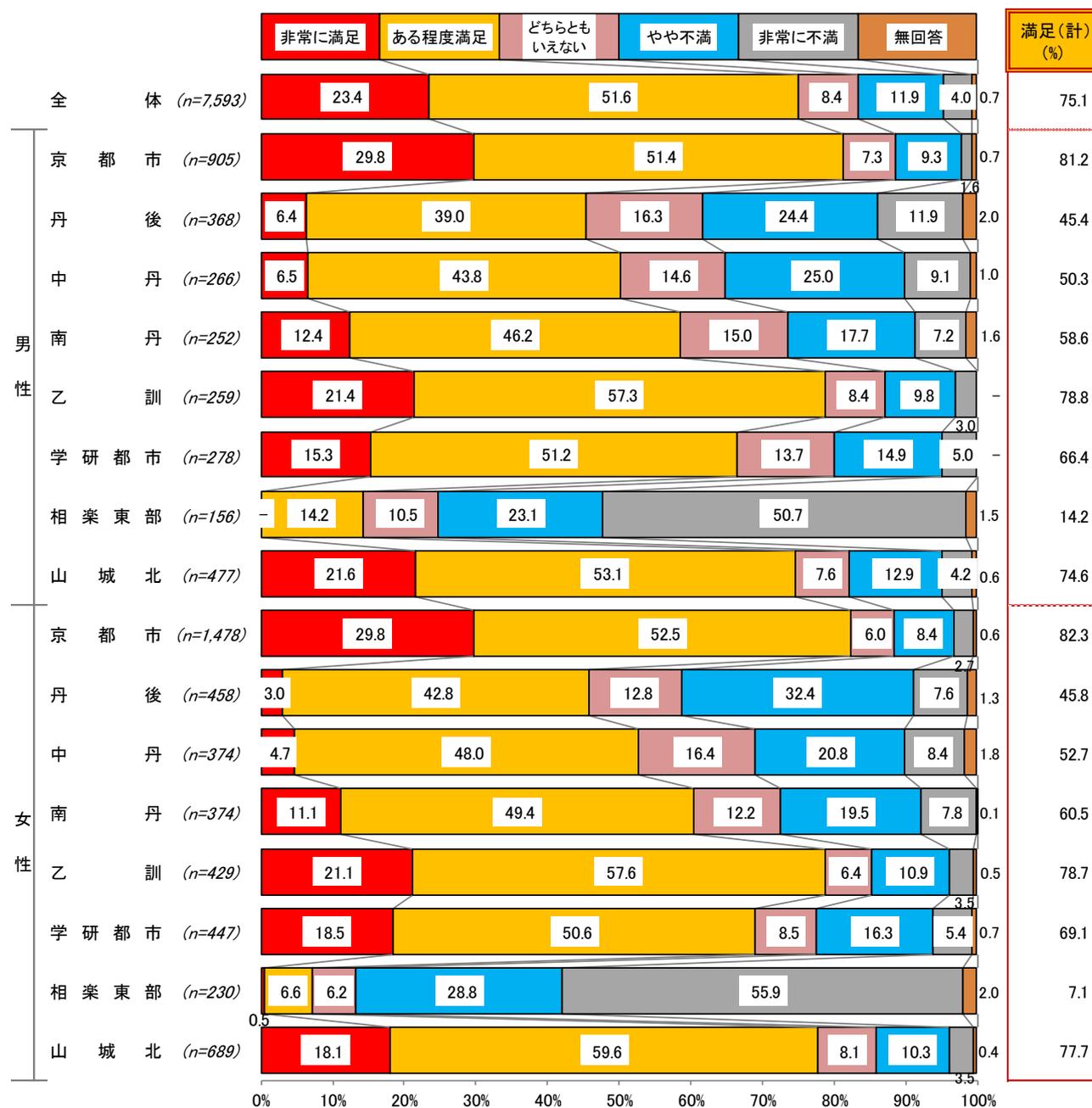


<子どもの学習環境>



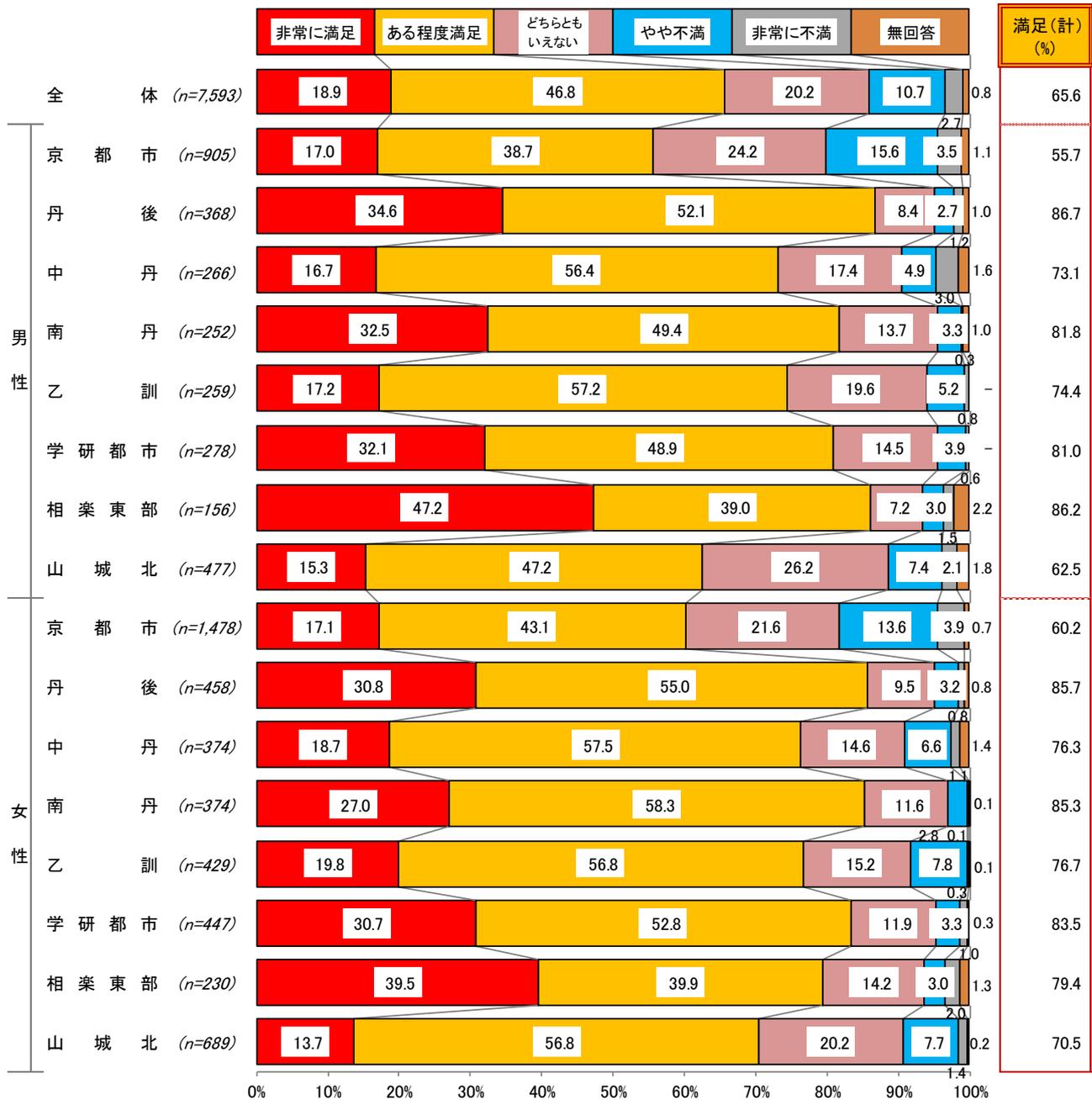
“買い物など日常の生活環境”への満足度を性・地域別にみると（図表 1-5-3）、京都市居住者で、男性 81.2%、女性 82.3%と高くなっている。これに対して、男女とも相楽東部居住者では、“買い物など日常の生活環境”に対する満足度（男性 14.2%、女性 7.1%）が低く、「非常に不満」（同 50.7%、55.9%）と強い不満を示す者が過半数を占めている。

図表 1-5-3 現居住地の満足度：“買い物など日常の生活環境”（性・地域別）



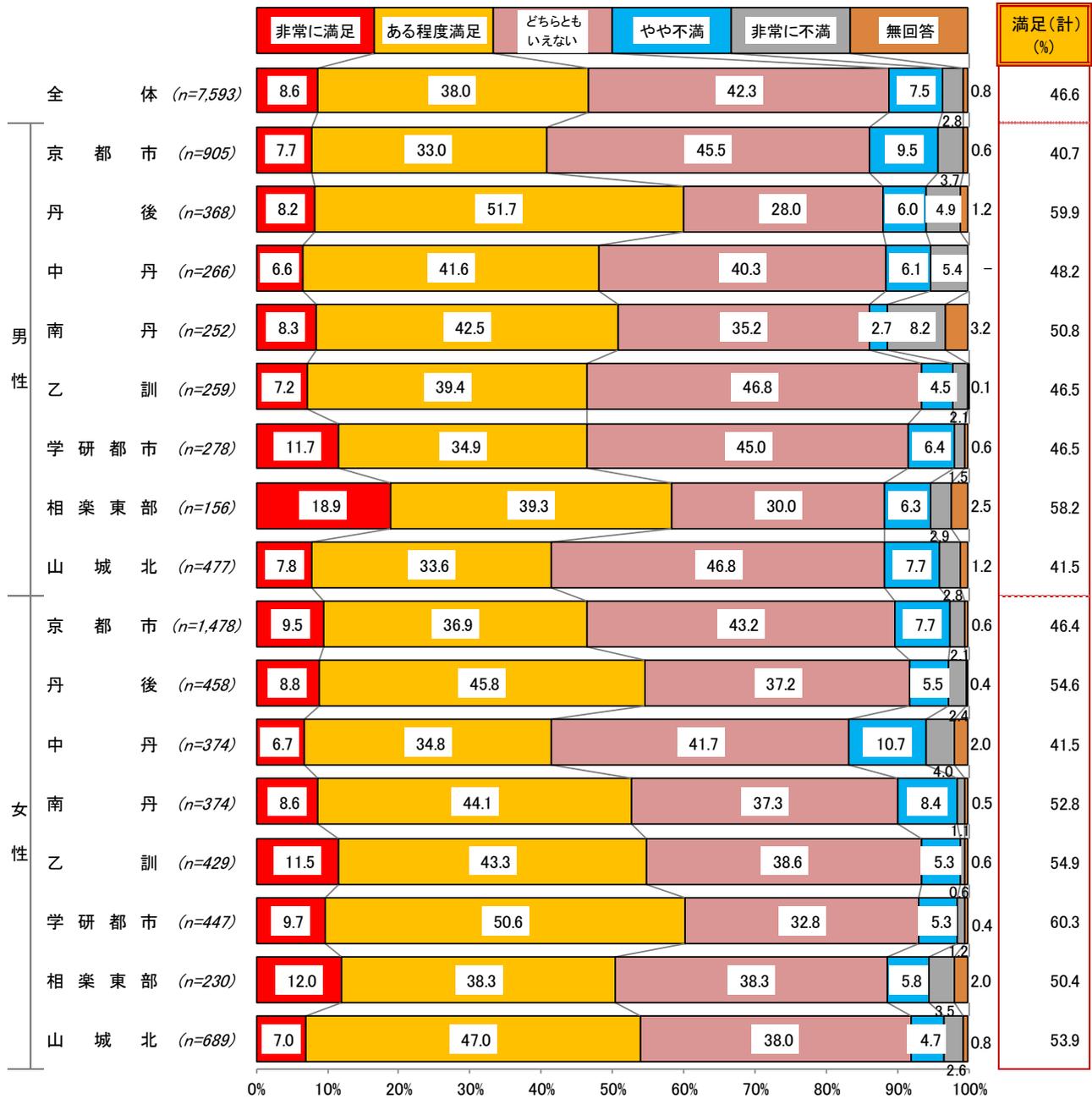
“自然環境”に対する満足度を性・地域別にみると（図表 1-5-4）、男女とも丹後（男性 86.7%、女性 85.7%）、南丹（同 81.8%、85.3%）、学研都市（同 81.0%、83.5%）では満足度が 8 割を上回っている。男性の相楽東部居住者も、86.2%が『満足』と回答している。

図表 1-5-4 現居住地の満足度：“自然環境”（性・地域別）



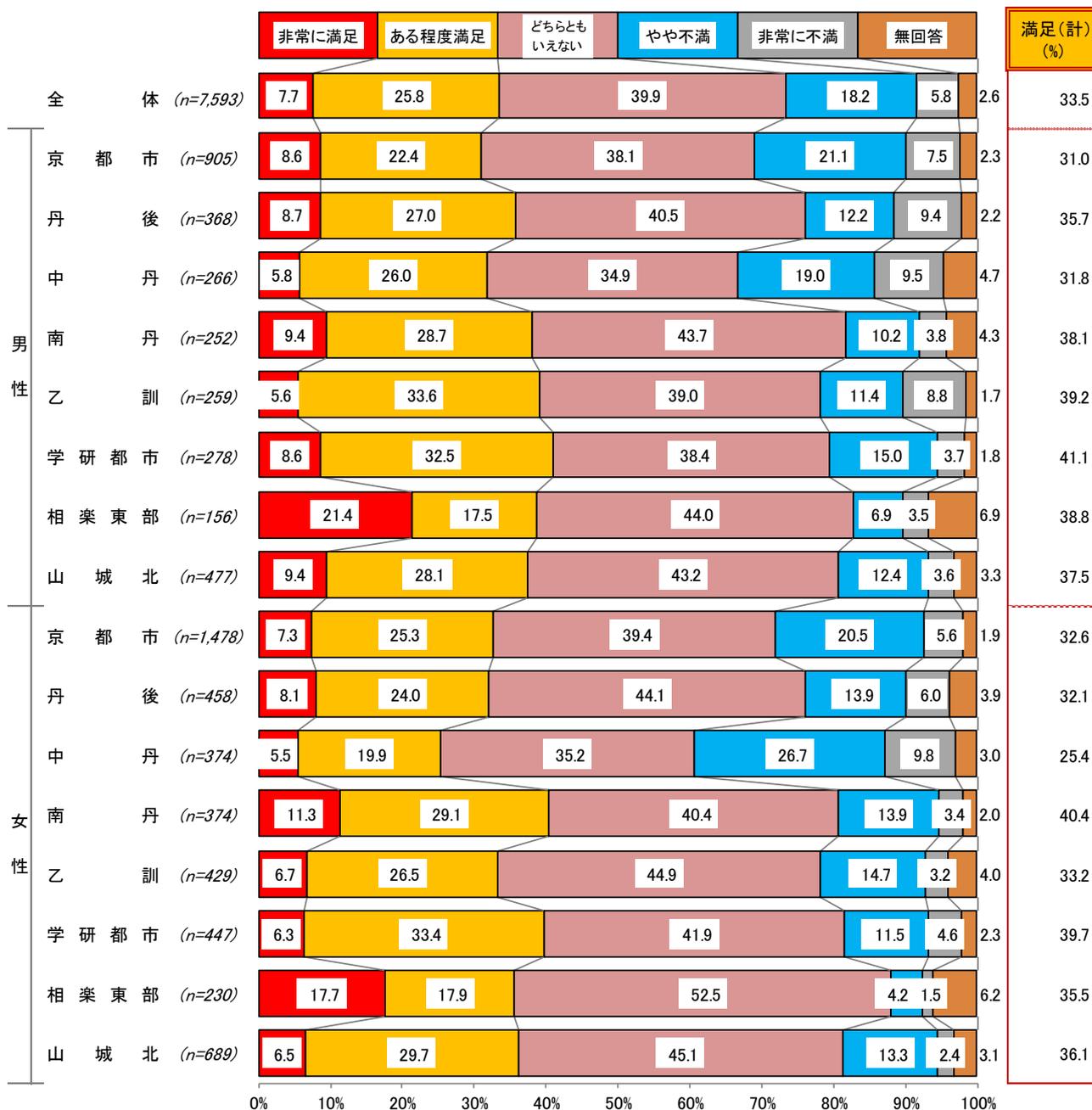
“地域の人とのつきあい”について性・地域別にみると（図表 1-5-5）、満足度が高いのは、男性では丹後（59.9%）と相楽東部（58.2%）の各居住者、女性では学研都市居住者（60.3%）と、男女差がみられる。

図表 1-5-5 現居住地の満足度：“地域の人とのつきあい”（性・地域別）



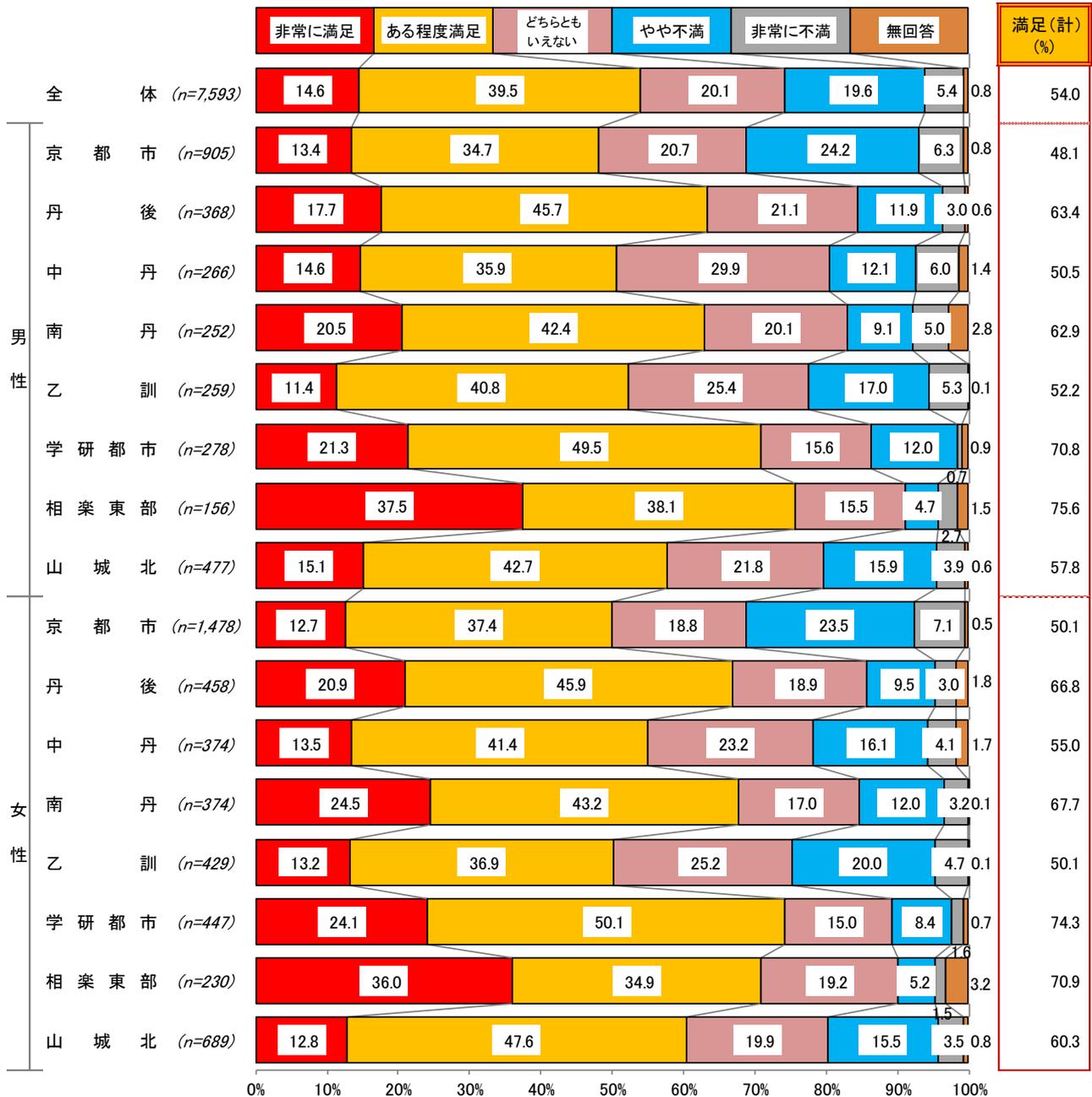
“家賃などの住居費”への満足度は（図表 1-5-6）、地域による差が小さいが、男性では学研都市（41.1%）、乙訓（39.2%）、相楽東部（38.8%）、南丹（38.1%）、山城北（37.5%）の各居住者で、他の地域よりやや満足度が高い。一方、女性では、南丹（40.4%）と学研都市（39.7%）の居住者に、満足度がやや高くなっている。

図表 1-5-6 現居住地の満足度：“家賃などの住居費”（性・地域別）



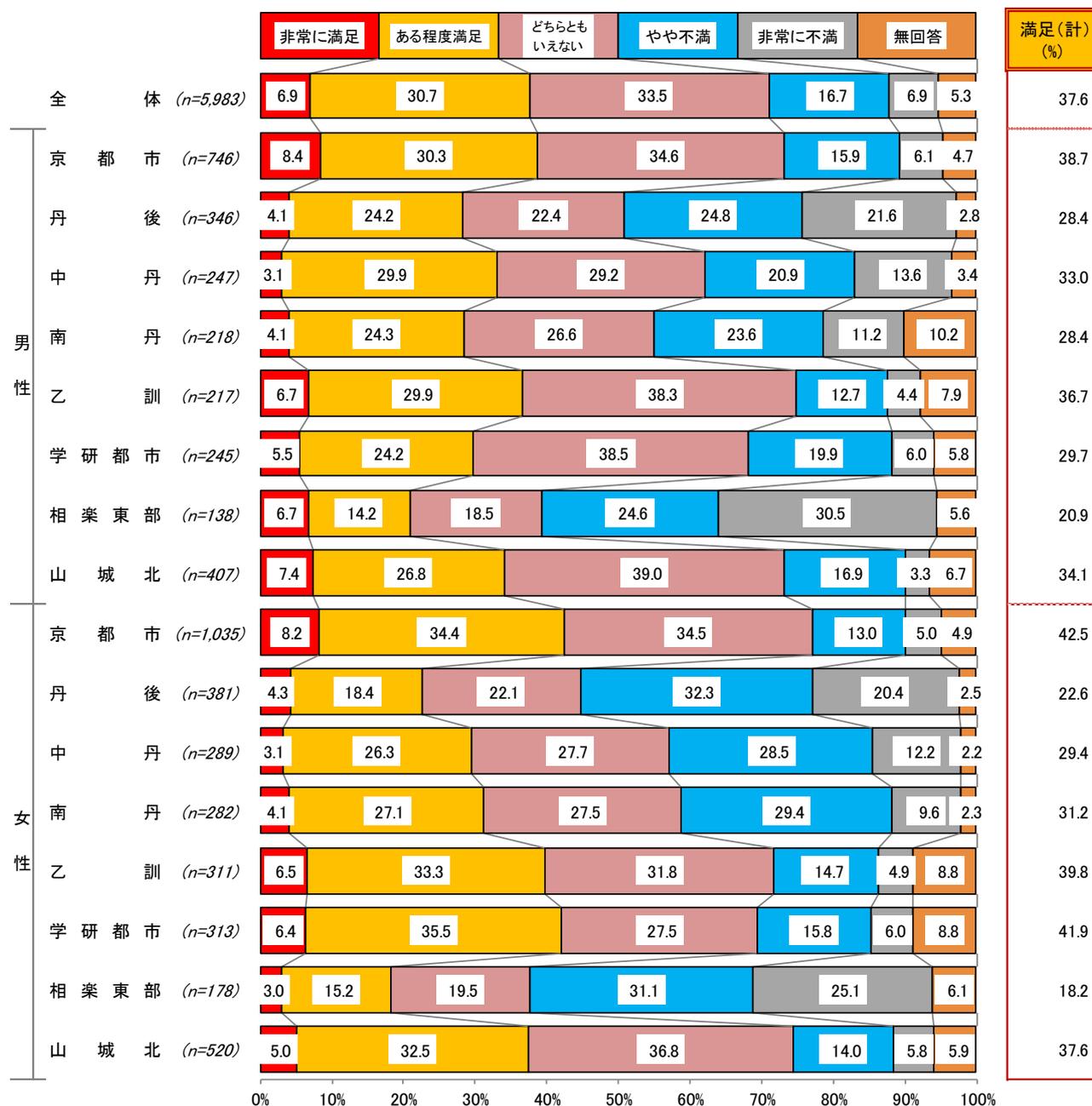
“住居の広さ”に対する満足度を性・地域別にみると(図表 1-5-7)、男女とも学研都市(男性 70.8%、女性 74.3%)と相楽東部(同 75.6%、70.9%)で、それぞれ満足度が7割を上回って高くなっている。これに対して、“買い物など日常の生活環境”への満足度の高い京都市居住者では、満足度(同 48.1%、50.1%)が5割程度と、他の地域より低くなっている。

図表 1-5-7 現居住地の満足度：“住居の広さ”(性・地域別)



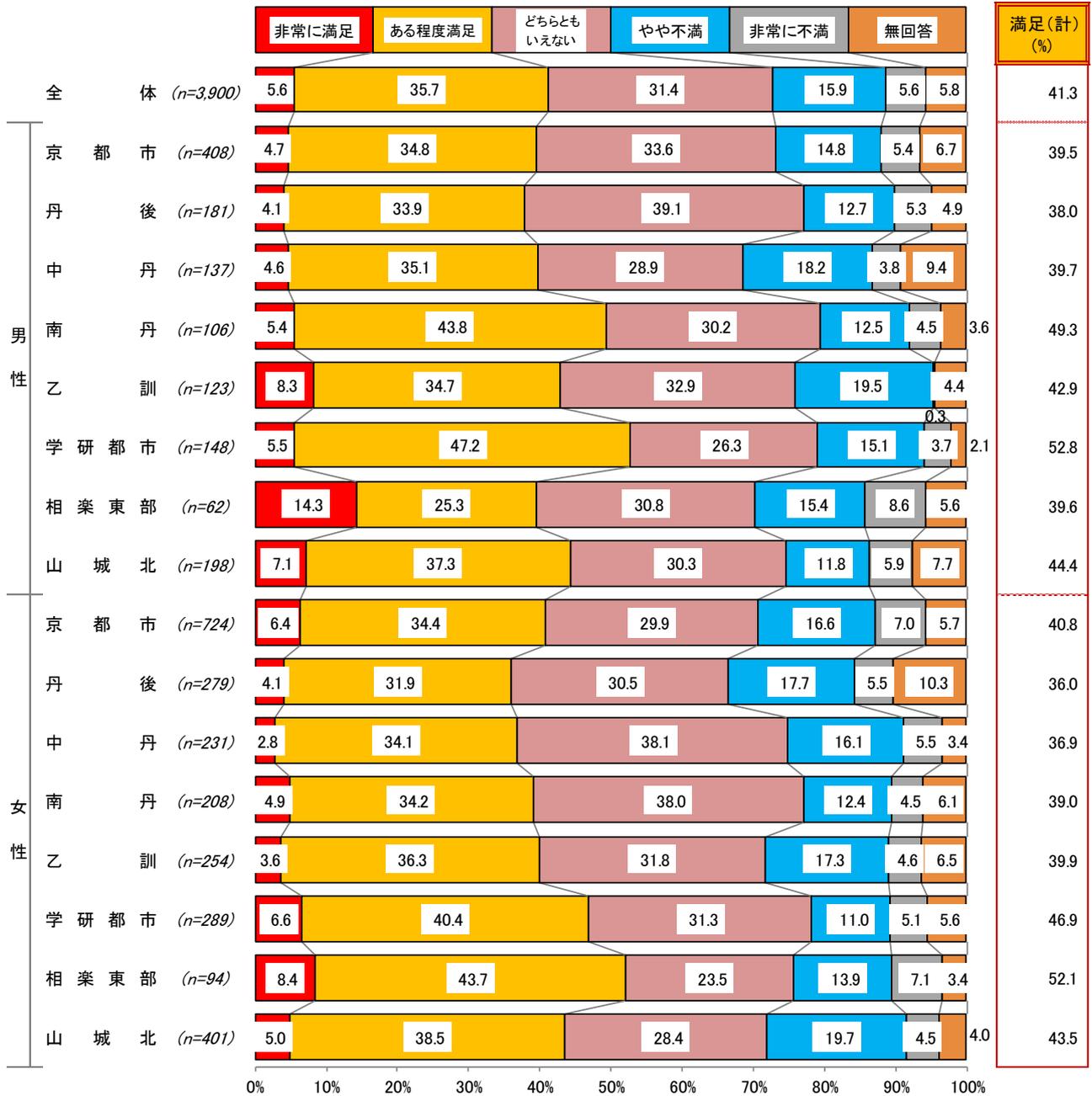
有職者（5,983人）の“就労環境”に対する満足度は（図表 1-5-8）、女性の京都市居住者（42.5%）と学研都市（41.9%）が4割を上回り、他の地域よりやや高くなっている。これに対して、男女とも相楽東部（男性 20.9%、女性 18.2%）と女性の丹後居住者（22.6%）では、満足度が低くなっている。

図表 1-5-8 現居住地の満足度：“就労環境”（性・地域別）



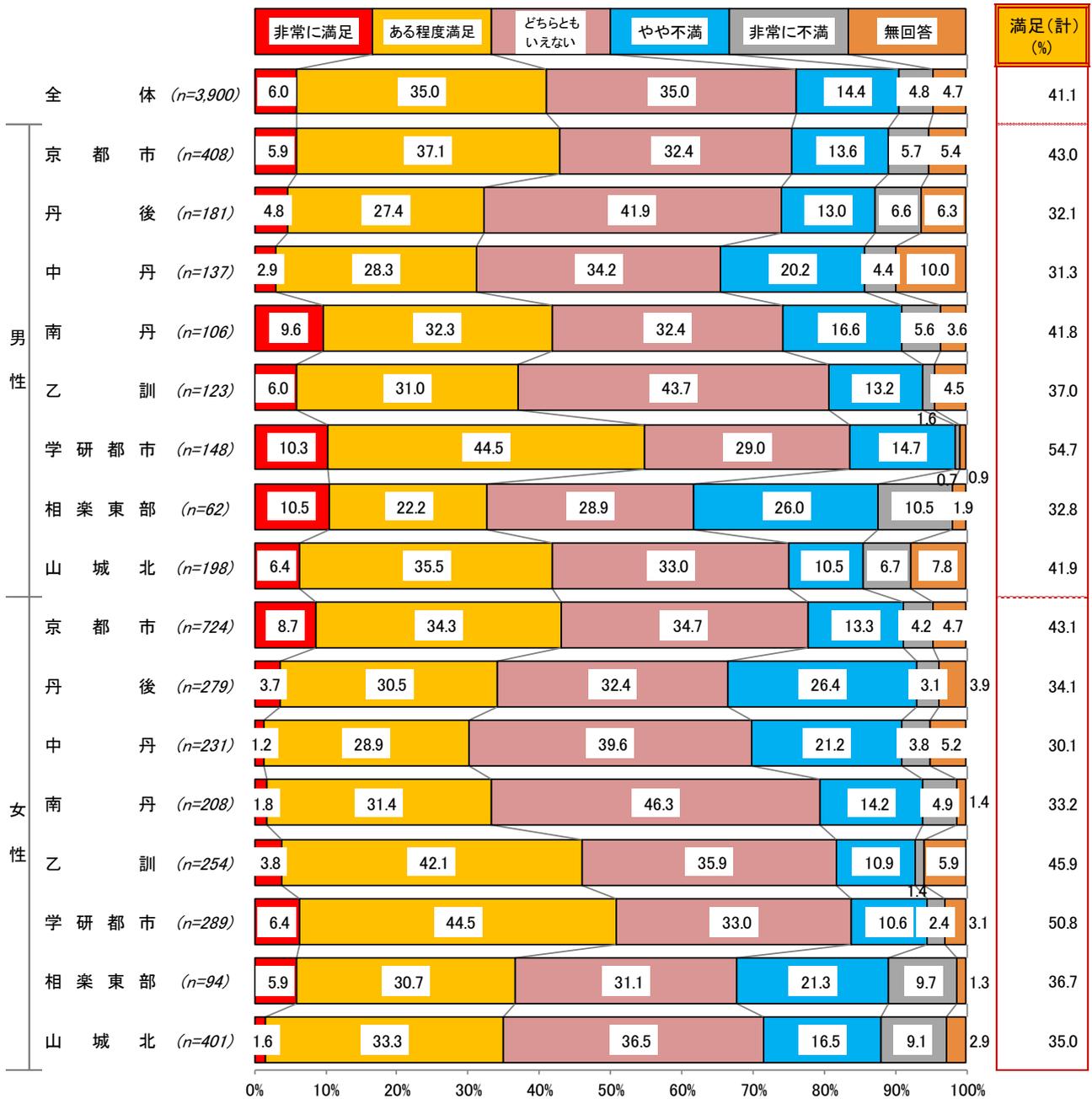
子どものいる人（3,900人）の“保育サービス”に対する満足度は（図表 1-5-9）、男性では学研都市居住者（52.8%）で、女性では相楽東部居住者（52.1%）で、それぞれ5割を上回り、他の地域より高くなっている。

図表 1-5-9 現居住地の満足度：“保育サービス”（性・地域別）



“子どもの学習環境”に対する満足度は（図表 1-5-10）、男女とも学研都市居住者（男性 54.7%、女性 50.9%）で他の地域より高くなっている。

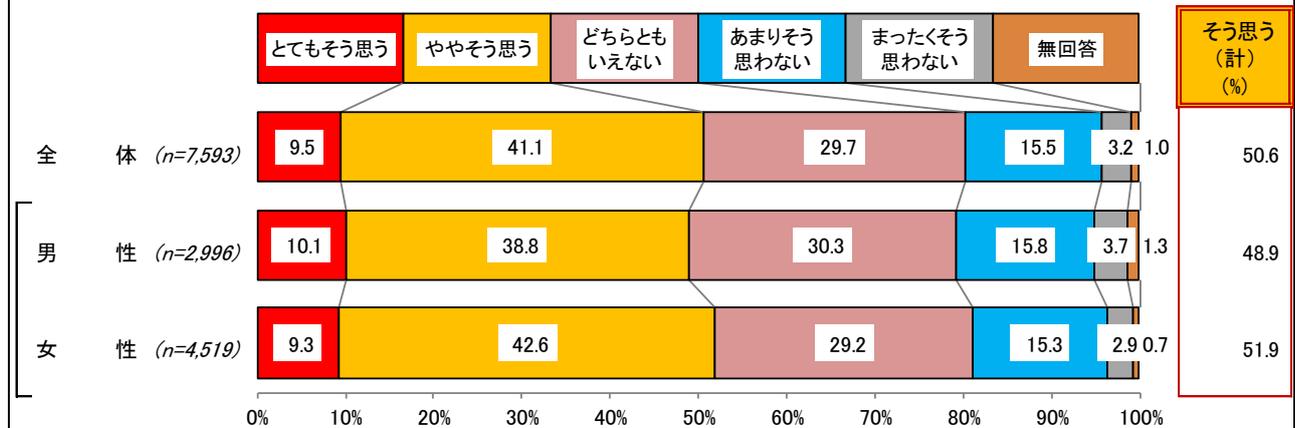
図表 1-5-10 現居住地の満足度：“子どもの学習環境”（性・地域別）



(6) 現居住地の子育て環境

問6 あなたがお住まいの市区町村は、一般的に子育てがしやすい環境だと思いますか。
あてはまるものを1つお選びください。

図表 1-6-1



現在居住する市区町村が、一般的に子育てがしやすい環境だと思うかを聞いたところ(図表 1-6-1)、「とてもそう思う」(9.5%)という者は約1割で、「ややそう思う」(41.1%)を合わせると、半数以上は、子育てしやすい環境であると評価している。

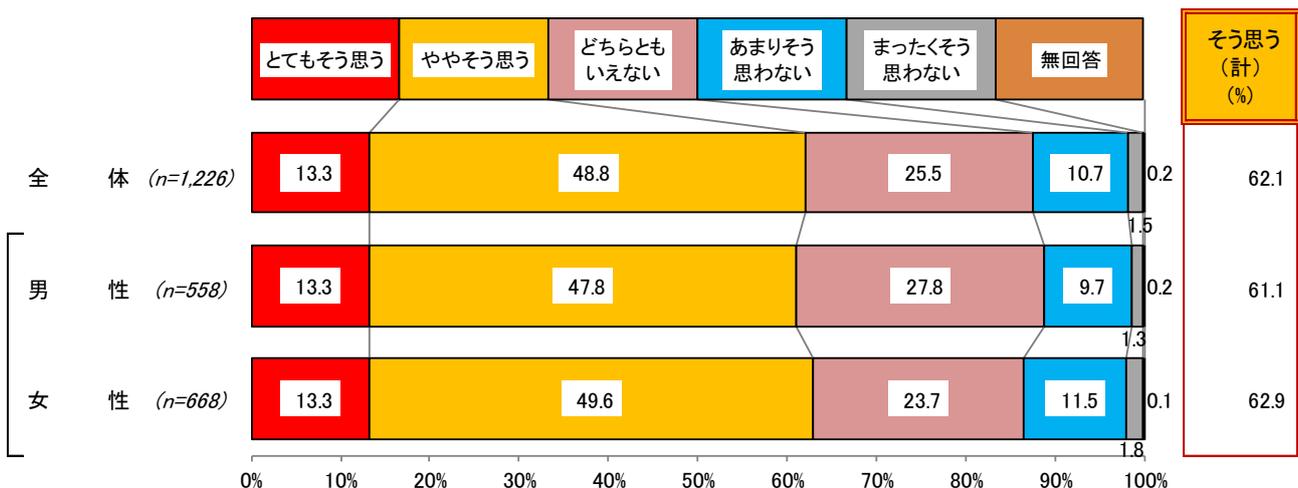
男女別にみても(図表 1-6-1)、大きな差はみられない。

〈参考：全国調査〉

全国調査では、現在居住する市区町村は、一般的に子育てしやすい環境であると評価(「とてもそう思う」13.3%+「ややそう思う」48.8%)している者は6割を上回り、府民調査よりも多くなっている。

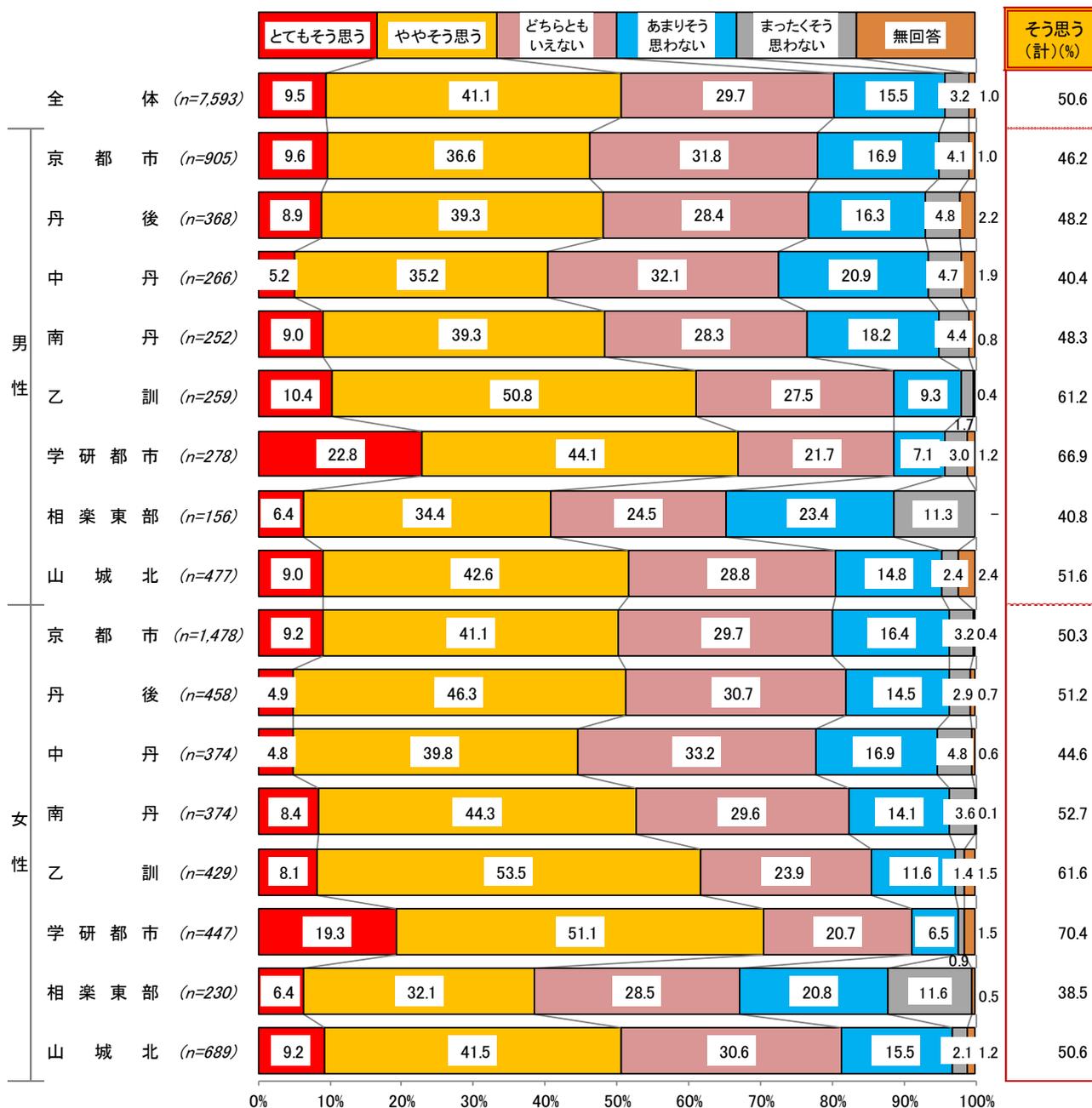
男女別の差はみられない。

参考 1-6 現居住地の子育て環境



性・地域別にみると（図表 1-6-2）、子育てのしやすさについて「とてもそう思う」もしくは「ややそう思う」と回答した、子育て環境を肯定的に評価する（『そう思う』）者が多いのは学研都市（男性 66.9%、女性 70.4%）と乙訓（同 61.2%、61.6%）で、特に学研都市居住の女性は 7 割が『そう思う』と回答している。これに対して、相楽東部居住者は、男女とも『そう思う』（同 40.8%、38.5%）と評価する者が 4 割前後で、他の地域より評価が低い。

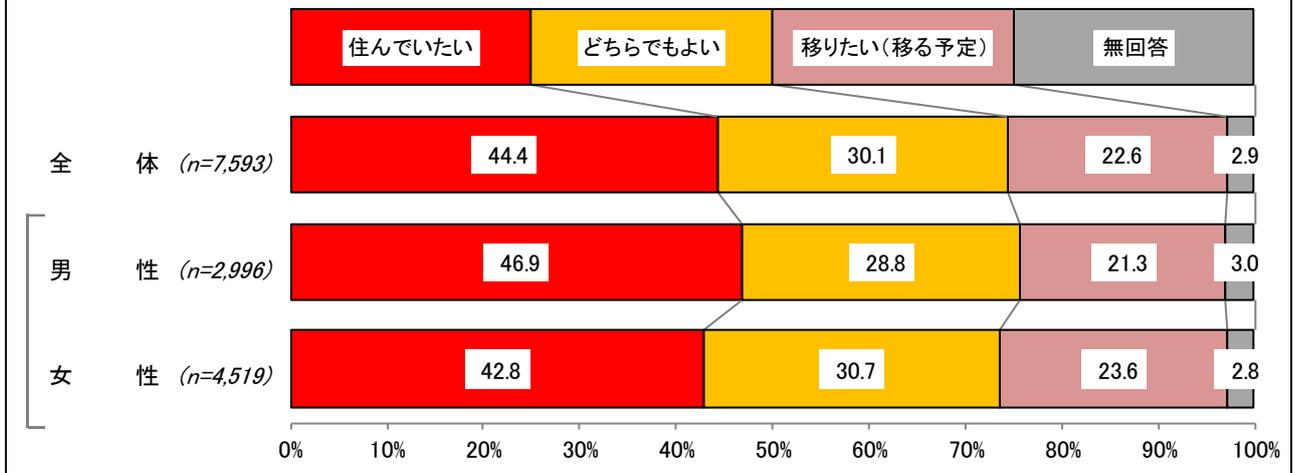
図表 1-6-2 現居住地の子育て環境（性・地域別）



(7) 定住意向

問7 あなたは、将来もずっと、現在お住まいの市区町村に住んでいたいと思いますか。あてはまるものを1つお選びください。

図表 1-7-1



現在の居住地に、将来もずっと「住んでいたい」という者は44.4%で、2割以上が「移りたい(移る予定)」(22.6%)と回答している(図表 1-7-1)。

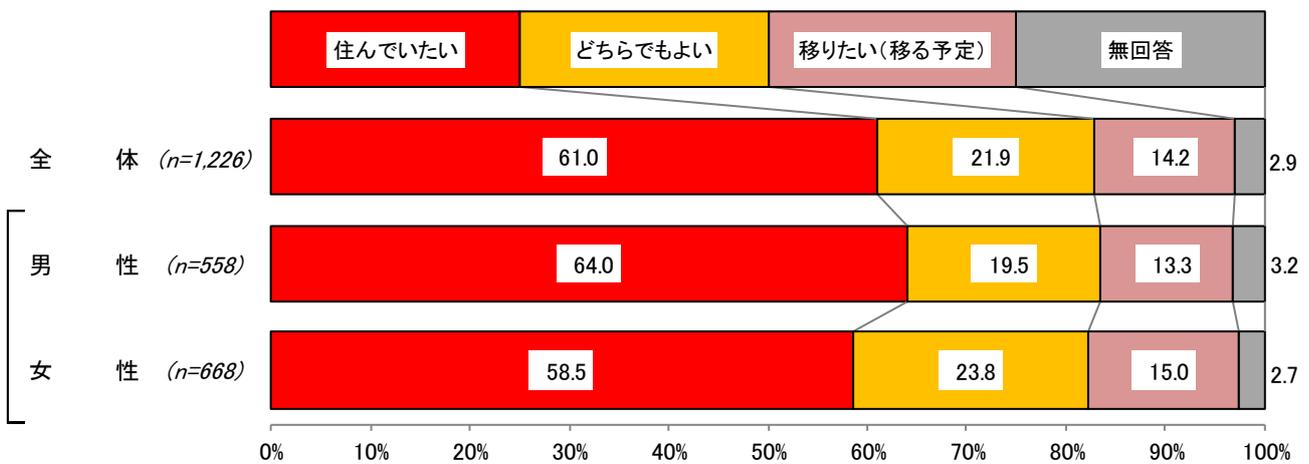
男女別にみると(図表 1-7-1)、将来もずっと「住んでいたい」(男性46.9%、女性42.8%)という者は、女性より男性に多い。

〈参考：全国調査〉

全国調査では、現在居住の市区町村に将来もずっと「住んでいたい」(61.0%)という者は約6割で、定住意向は府民より強い。

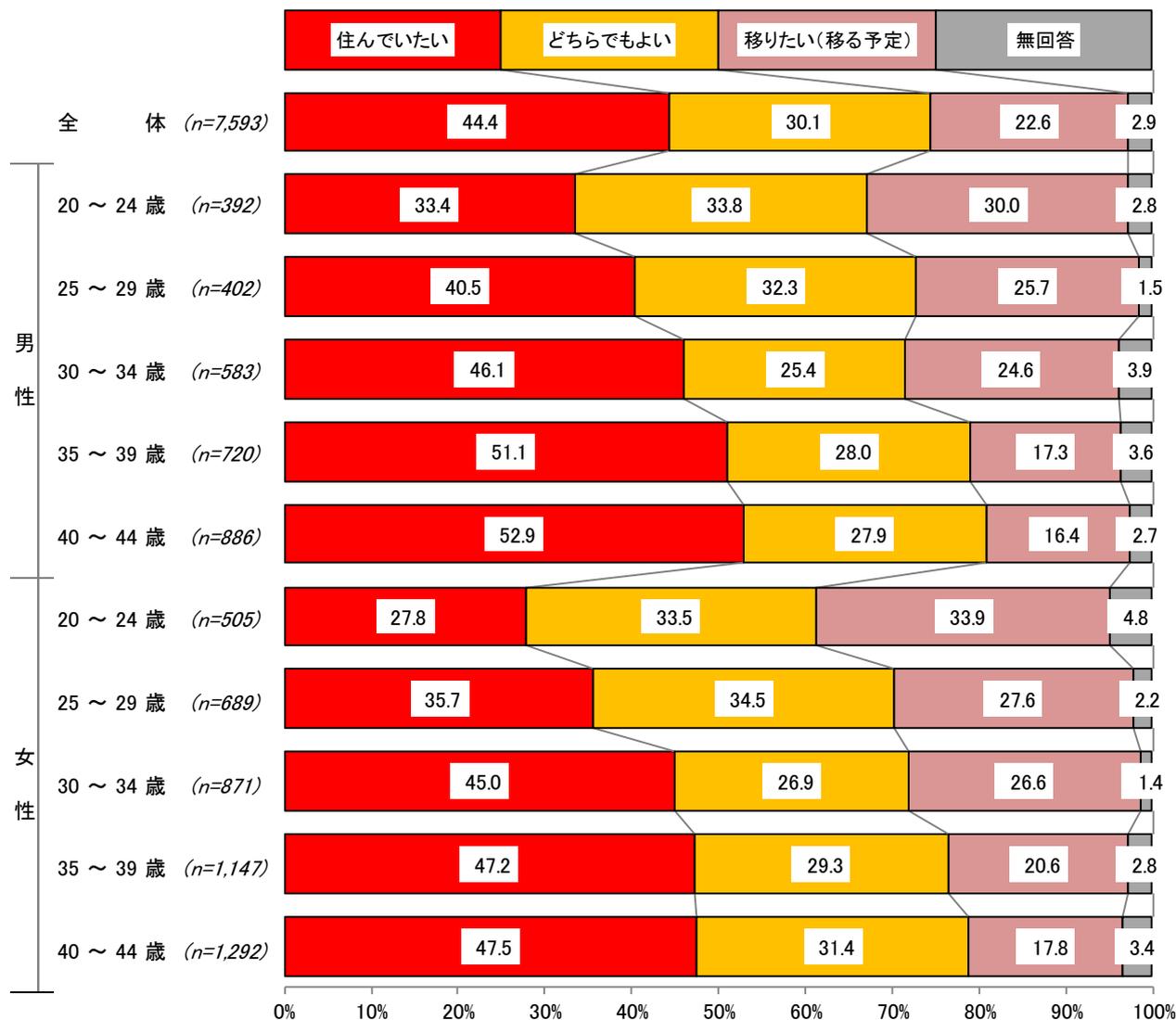
男女別にみると、将来も「住んでいたい」(男性64.0%、女性58.5%)という者は、女性より男性に多く、6割を上回っている。

参考 1-7 定住意向



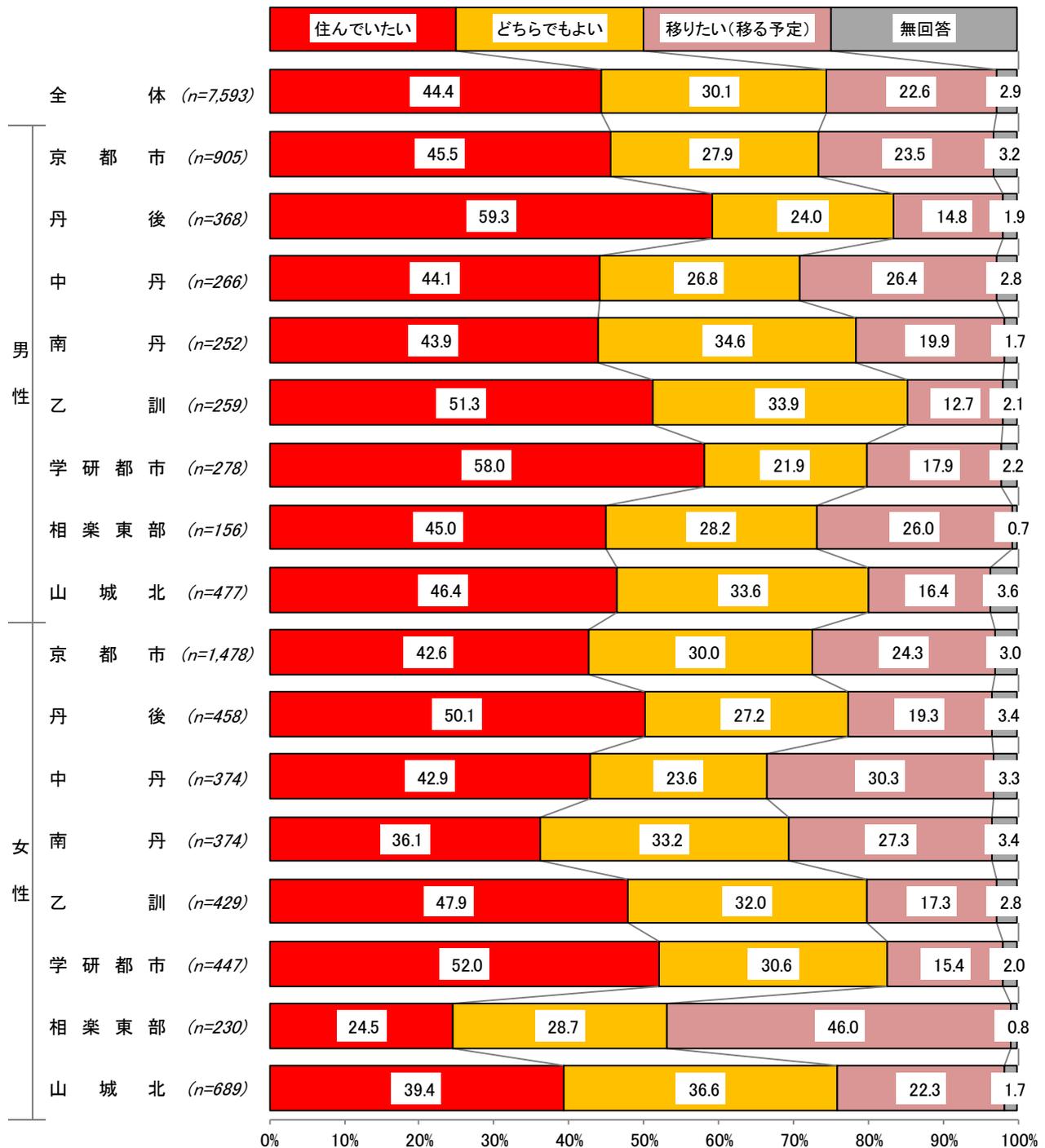
性・年代別にみると（図表 1-7-2）、男女とも年代の高い層ほど、将来もずっと「住んでいたい」という意向が強く、特に 35 歳以上の男性では過半数である。一方、男女とも 20～24 歳の年代では、それぞれ 3 割以上が「移りたい（移る予定）」（男性 30.0%、女性 33.9%）と回答している。

図表 1-7-2 定住意向（性・年代別）



性・地域別にみると（図表 1-7-3）、男性の丹後と学研都市居住者では、定住意向（「住んでいたい」丹後 59.3%、学研都市 58.0%）が 6 割近く、他の地域より強くなっている。

図表 1-7-3 定住意向（性・地域別）

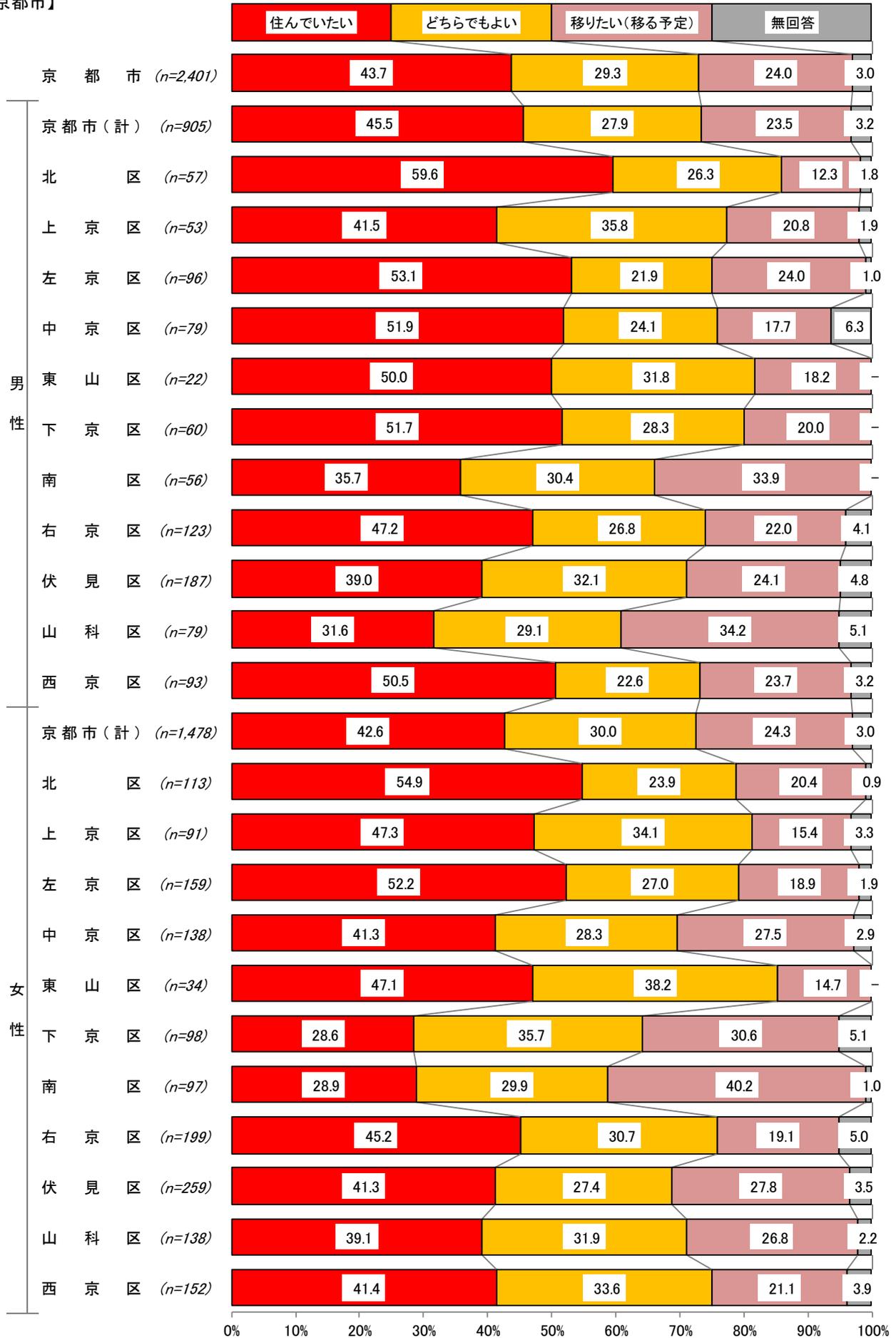


さらに性・市区町村別にみると（図表 1-7-4・47～51 ページ）、定住意向は、男性の伊根町（68.4%）、で 7 割弱、与謝野町（62.5%）、京丹後市（61.7%）、木津川市（60.7%）、京都市北区（59.6%）、精華町（58.5%）の各居住者で 6 割前後と他の地域より強い。

一方、女性では、京都市北区（54.9%）、精華町（54.9%）、与謝野町（52.4%）、左京区（52.2%）、京丹後市（52.0%）、長岡京市（51.8%）、京田辺市（51.4%）、木津川市（51.1%）などで、定住意向が 5 割台である。

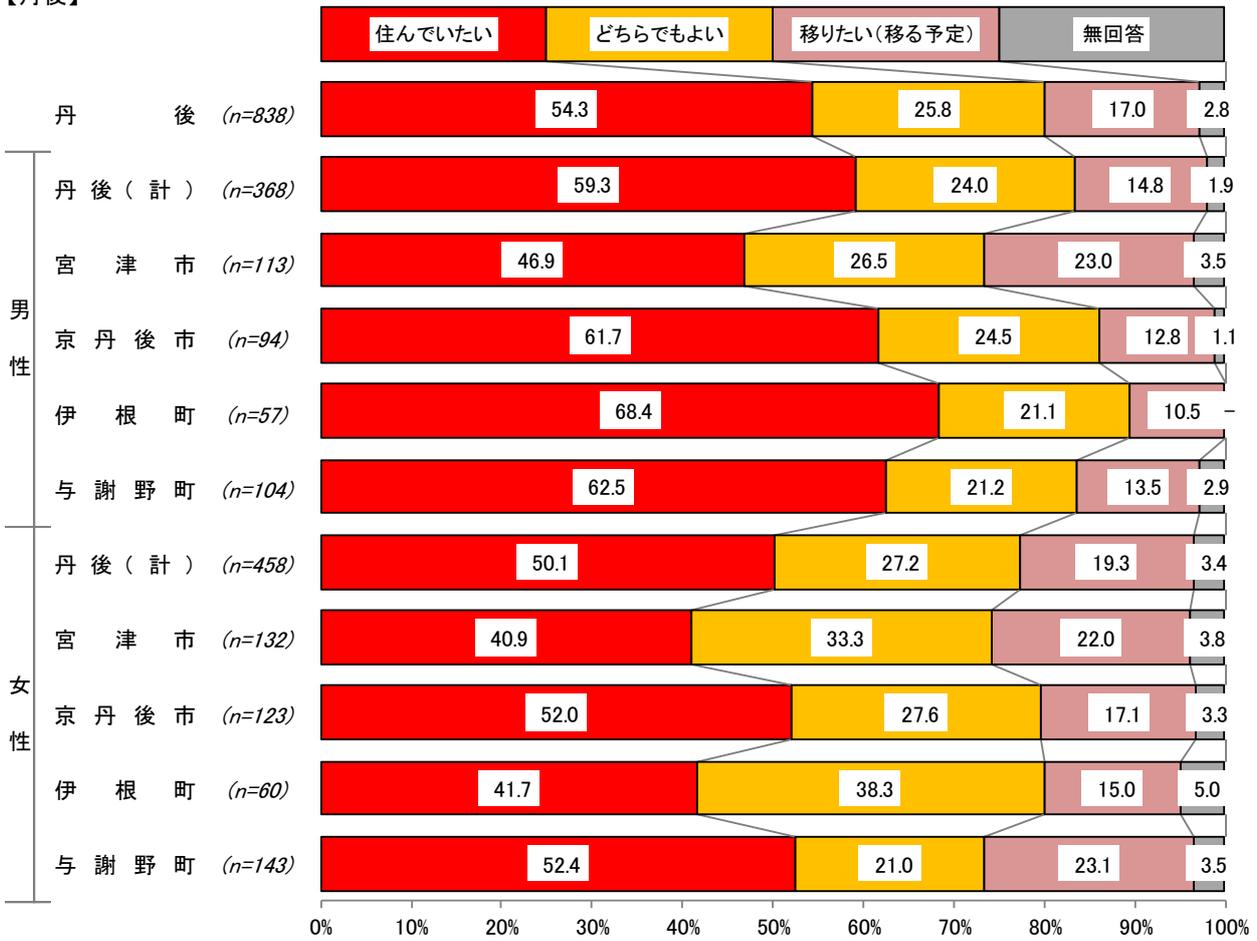
図表 1-7-4 定住意向（性・市区町村別）

【京都市】

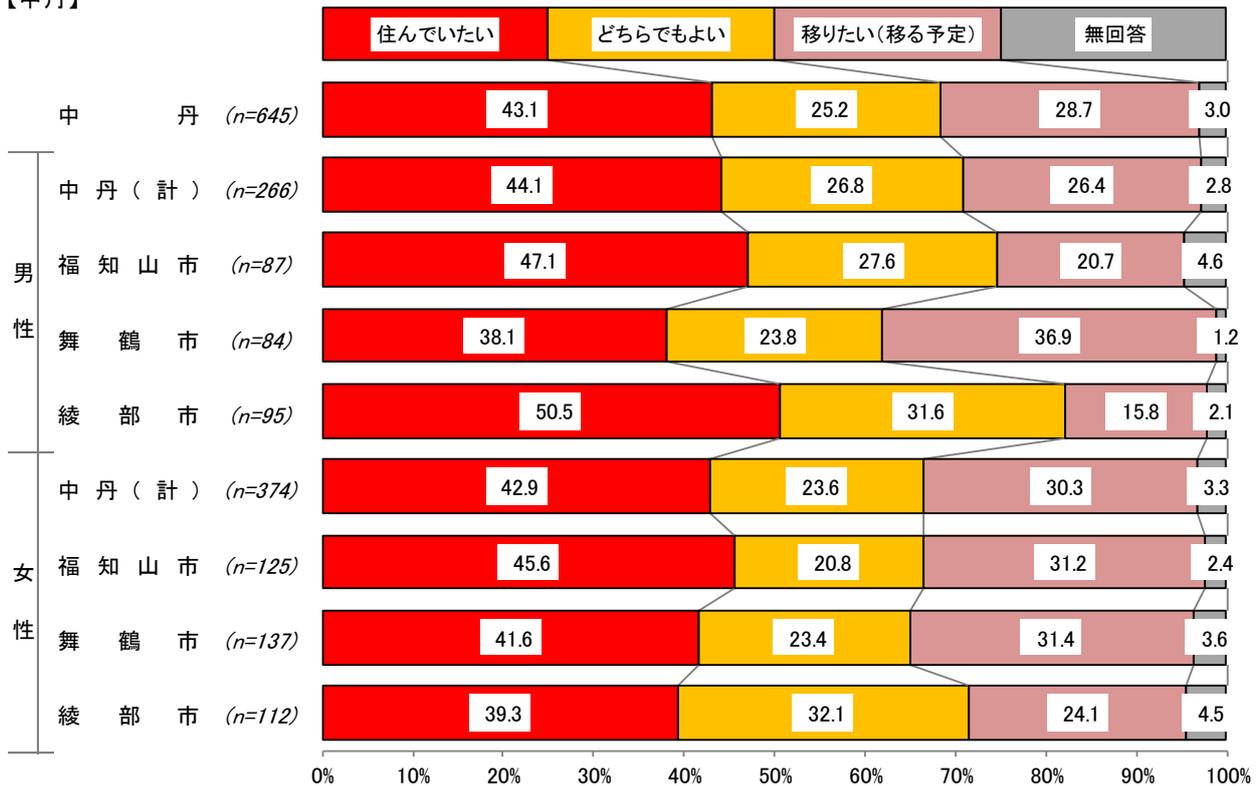


図表 1-7-4・つづき 定住意向（性・市区町村別）

【丹後】

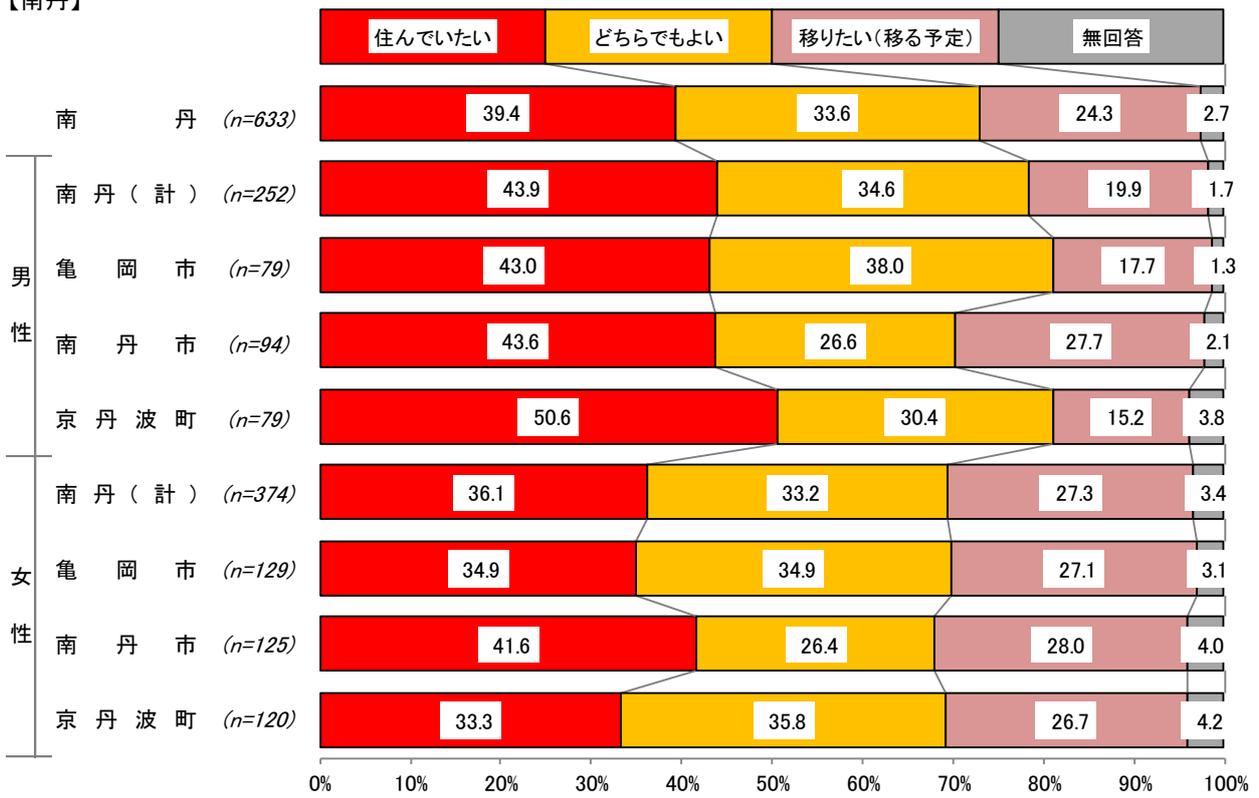


【中丹】

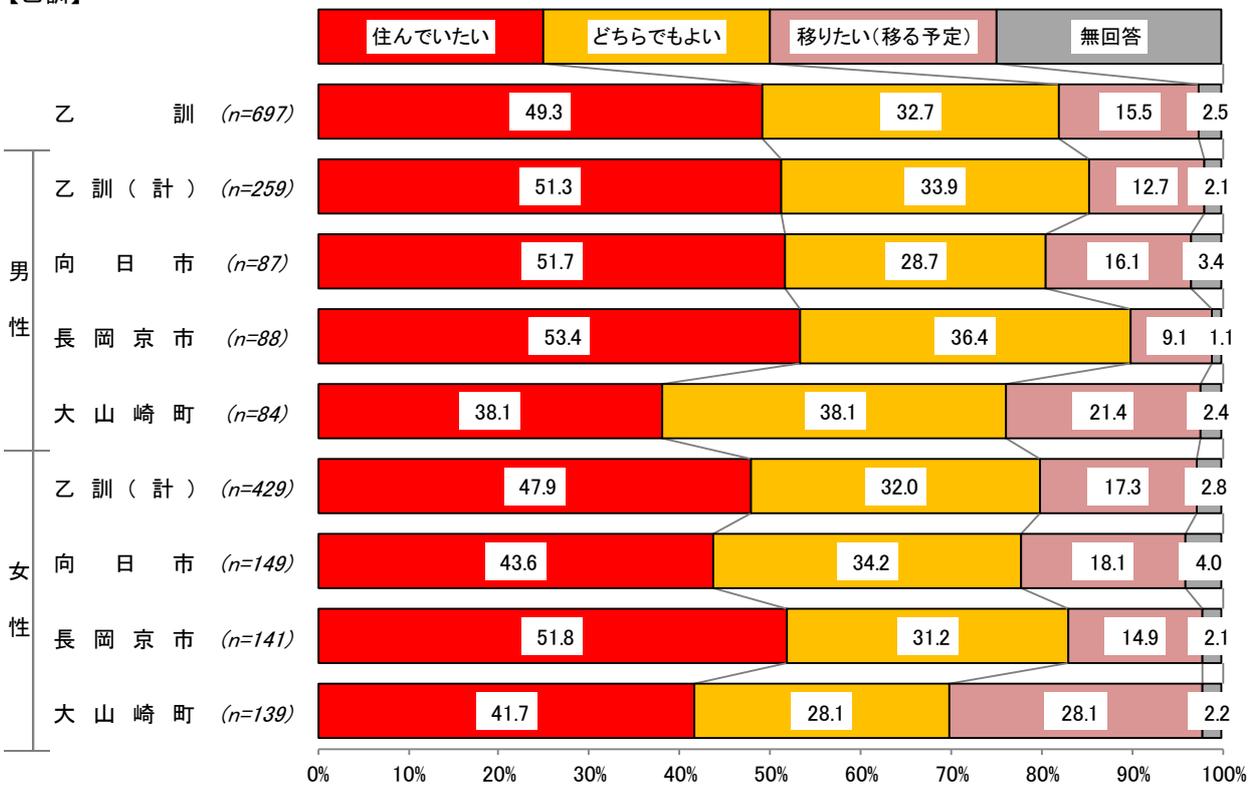


図表 1-7-4・つづき 定住意向（性・市区町村別）

【南丹】

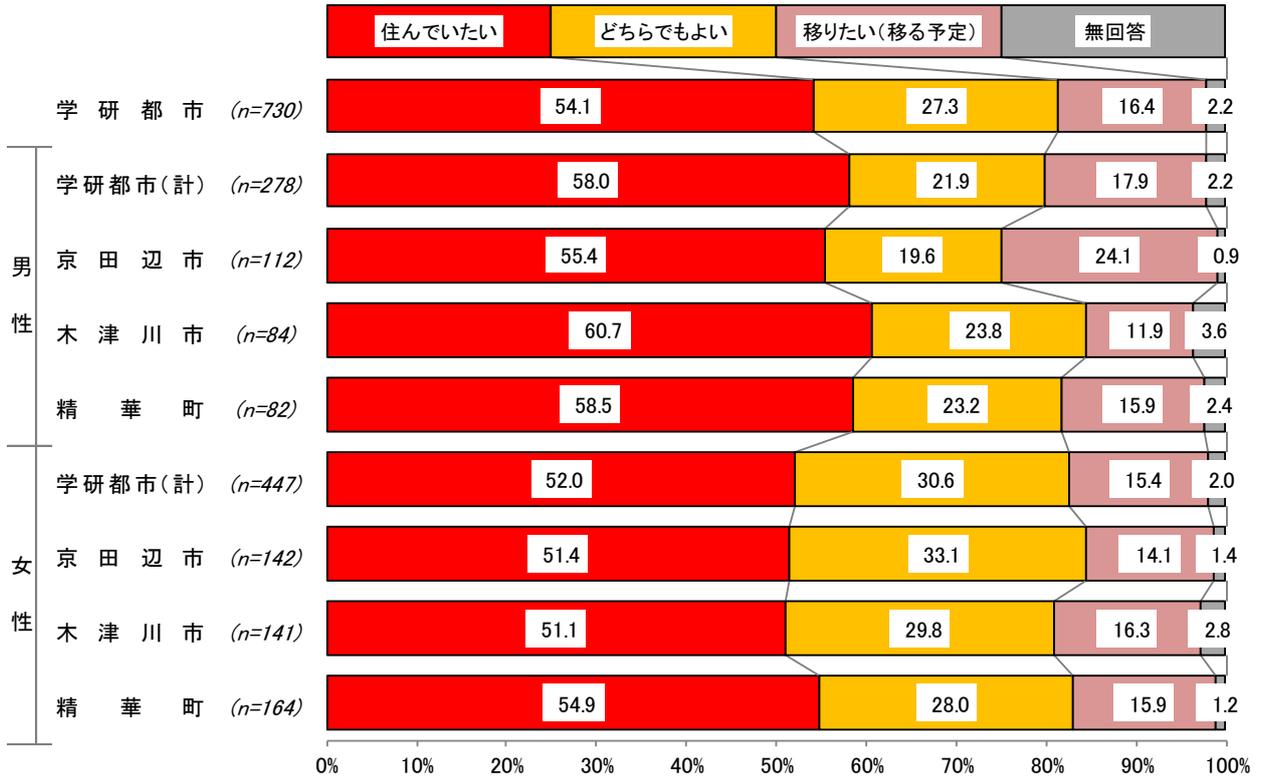


【乙訓】

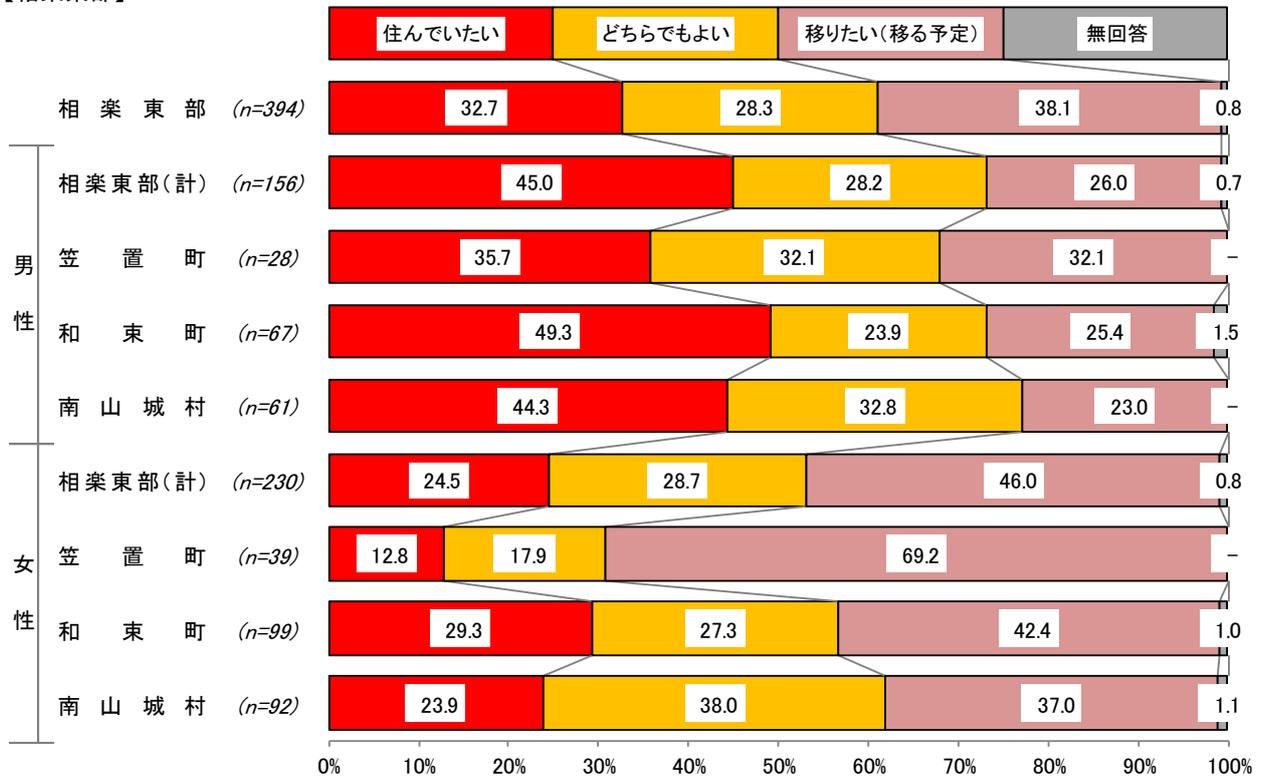


図表 1-7-4・つづき 定住意向（性・市区町村別）

【学研都市】

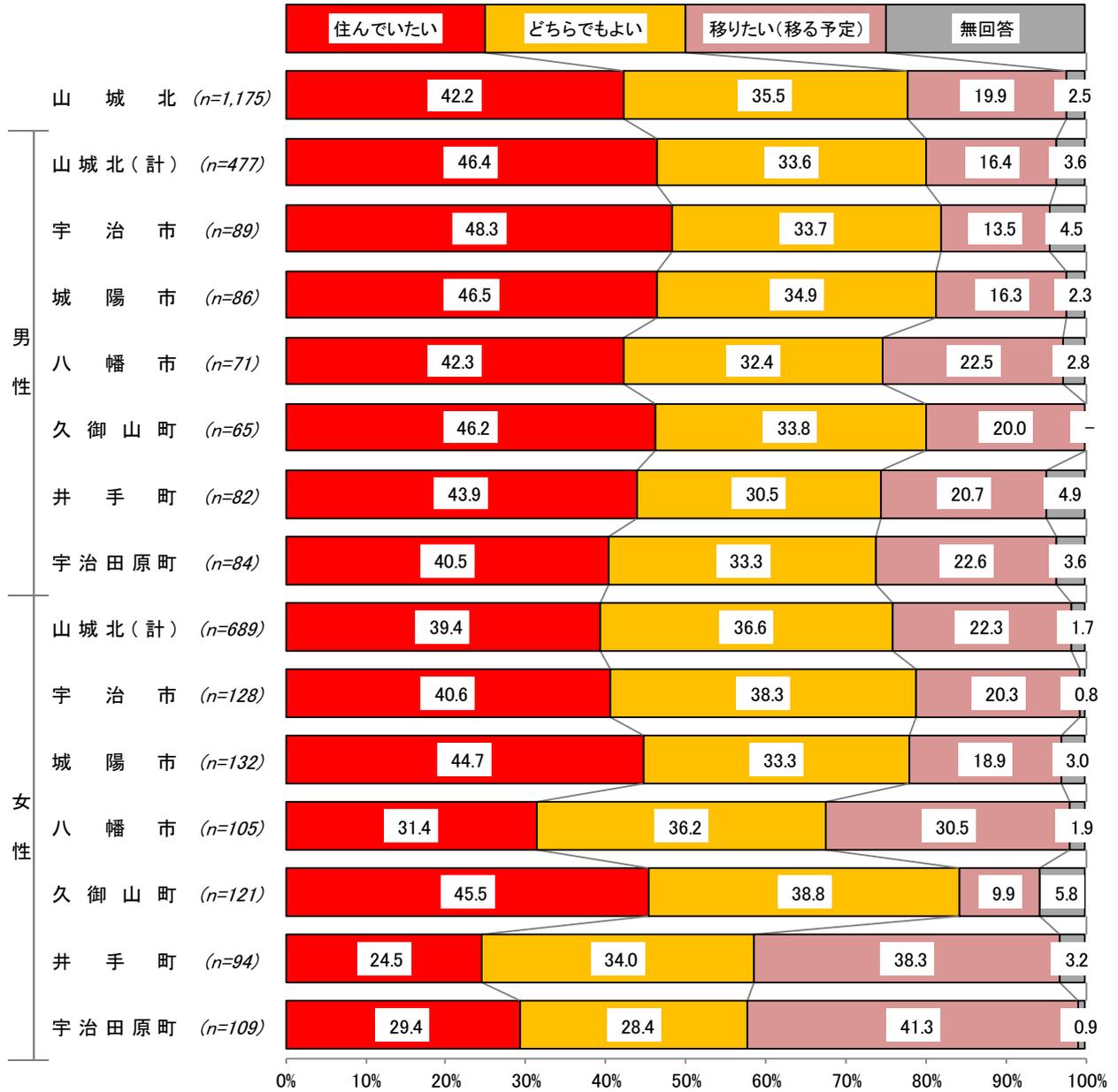


【相楽東部】



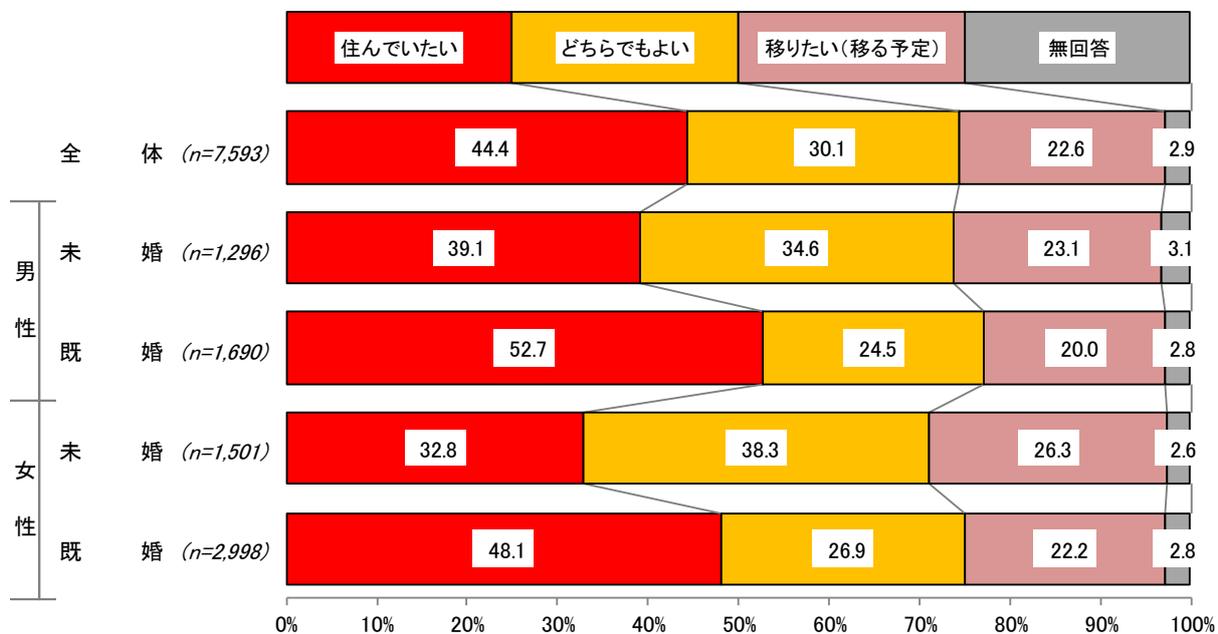
図表 1-7-4・つづき 定住意向（性・市区町村別）

【山城北】



性・婚姻状況別にみると（図表 1-7-5）、現在居住する市区町村に「住んでいたい」という定住意向は、男女とも未婚者（男性 39.1%、女性 32.8%）より既婚者（同 52.7%、48.1%）に強くなっている。女性の未婚者では、「どちらでもよい」（38.3%）という回答が 4 割弱で、将来の居住地に対する意向が薄い。

図表 1-7-5 定住意向（性・婚姻状況別）



(8) 転出意向理由

【問7で「2 移りたい(移る予定)」「3 どちらでもよい」と答えた方にお聞きします。】

問8 移りたい(もしくは移る予定がある)、どちらでもよいと思うのは、なぜですか。

あてはまるものを3つまでお選びください。

図表 1-8-1

		住 宅 事 情	通 勤 通 学 の 便	結 婚	豊 か な 自 然 環 境	子 ど も の 学 習 環 境	就 職	転 職	ど ろ 近 所 と の 付 き 合 い な 間 関 係	親 と 近 居 す る た め	転 勤	家 族 の 移 動 に 伴 っ て	親 と 同 居 す る た め	入 学 ・ 進 学	保 育 サ ー ビ ス の 利 用	健 康 上 の 理 由	家 業 継 承	離 婚	そ の 他	無 回 答
全 体	(n=4,007)	28.6	21.0	16.6	16.2	12.9	11.3	10.1	8.7	8.6	8.1	6.5	5.6	3.4	3.0	2.4	1.1	0.5	12.0	2.9
男 性	(n=1,473)	31.4	22.9	11.7	16.3	12.6	15.8	11.5	7.5	8.4	12.0	2.6	6.3	4.3	2.8	2.7	1.7	0.0	10.3	2.9
女 性	(n=2,491)	27.1	20.0	19.3	16.1	13.2	8.6	9.4	9.2	8.9	5.9	8.8	4.9	2.9	3.2	2.2	0.8	0.7	12.9	2.9

現在居住している市区町村から「移りたい(移る予定)」もしくは、住み続けても移っても「どちらでもよい」という者(4,007人)の理由としては(図表1-8-1)、「住宅事情」が28.6%で最も多く、以下、「通勤通学の便」(21.0%)、「結婚」(16.6%)、「豊かな自然環境」(16.2%)などの順にあげられている。

男女別にみると(図表1-8-1)、「住宅事情」(男性31.4%。女性27.1%)、「就職」(同15.8%、8.6%)、「転勤」(同12.0%、5.9%)は女性より男性に、「結婚」(同11.7%、19.3%)と「家族の移動に伴って」(同2.6%、8.8%)は男性より女性に、それぞれ多くあげられている。

〈参考：全国調査〉

全国調査で、現在の居住地からの転出意向のある者(442人)の理由としては、「通勤通学の便」が29.4%で最も多く、次いで「住宅事情」(24.7%)、「結婚」(16.5%)、「豊かな自然環境」(14.7%)、「近所との付き合いなど人間関係」(12.0%)、「就職」(11.8%)の順となっている。

男女別にみると、「住宅事情」(男性20.2%、女性27.8%)は、女性が男性を8ポイント上回り、府民とは逆の結果になっている。「結婚」(同12.0%、19.7%)と「家族の移動に伴って」(同2.2%、8.5%)も男性より女性に多くあげられている。一方、「豊かな自然環境」(同19.7%、11.2%)は、女性より男性に多くなっている。

参考 1-8 転出意向理由

		通 勤 通 学 の 便	住 宅 事 情	結 婚	豊 か な 自 然 環 境	ど ろ 近 所 と の 付 き 合 い な 間 関 係	就 職	転 職	子 ど も の 学 習 環 境	親 と 近 居 す る た め	転 勤	家 族 の 移 動 に 伴 っ て	保 育 サ ー ビ ス の 利 用	健 康 上 の 理 由	入 学 ・ 進 学	離 婚	家 業 継 承	そ の 他	無 回 答	
全 体	(n=442)	29.4	24.7	16.5	14.7	12.0	11.8	10.2	10.2	8.1	6.6	5.9	5.9	3.6	3.2	2.9	1.1	0.9	10.4	1.6
男 性	(n=183)	31.1	20.2	12.0	19.7	12.6	14.2	10.9	8.7	7.1	9.3	6.0	2.2	2.7	0.5	3.3	1.1	1.6	8.7	3.3
女 性	(n=259)	28.2	27.8	19.7	11.2	11.6	10.0	9.7	11.2	8.9	4.6	5.8	4.2	5.0	2.7	1.2	0.4	11.6	0.4	

性・年代別にみると（図表 1-8-2）、男性の 20～24 歳の年代では、「就職」が 53.1%と際立って多くあげられている。同年代の女性では、「結婚」（34.4%）と「就職」（32.1%）がともに 3 割台で上位である。女性の 25～29 歳の年代でも、「結婚」は 34.4%と、転出理由の第 1 位にあげられている。「住宅事情」は、男性の 35～39 歳で 42.0%と、他の年代よりも高くなっている。

図表 1-8-2 転出意向理由（性・年代別）

		住 宅 事 情	通 勤 通 学 の 便	結 婚	豊 か な 自 然 環 境	子 ど も の 学 習 環 境	就 職	転 職	ど の 近 所 と の 間 の 関 係 な い	親 と 近 居 す る た め	転 勤	家 族 の 移 動 に 伴 っ て	親 と 同 居 す る た め	入 学 ・ 進 学	保 育 サ ー ビ ス の 利 用	健 康 上 の 理 由	家 業 継 承	離 婚	そ の 他	無 回 答
全	体 (n=4,007)	28.6	21.0	16.6	16.2	12.9	11.3	10.1	8.7	8.6	8.1	6.5	5.6	3.4	3.0	2.4	1.1	0.5	12.0	2.9
男 性	20～24 歳 (n=252)	12.6	24.4	15.2	7.5	4.7	53.1	9.6	5.0	2.9	8.8	0.8	3.6	7.5	0.4	1.0	0.9	-	6.4	2.9
	25～29 歳 (n=230)	24.9	28.2	18.4	15.5	10.8	18.4	16.6	6.5	7.1	12.9	1.4	6.3	2.4	4.8	3.2	2.1	-	6.9	1.7
	30～34 歳 (n=286)	34.1	21.4	14.3	17.2	13.5	4.5	11.9	6.0	12.8	17.0	0.7	5.0	4.8	2.9	1.1	2.9	-	9.4	4.4
	35～39 歳 (n=333)	42.0	21.4	7.7	19.3	16.4	7.7	12.4	7.8	9.1	9.6	3.4	7.1	4.6	4.1	3.5	2.0	0.0	12.3	1.7
	40～44 歳 (n=368)	36.6	20.9	6.8	18.9	14.8	5.2	8.5	10.8	8.8	11.7	5.3	8.6	2.7	2.1	4.0	1.0	0.1	14.2	3.5
女 性	20～24 歳 (n=358)	13.5	24.4	34.4	8.4	5.5	32.1	7.2	4.6	3.9	4.8	6.3	3.1	1.7	1.0	1.3	-	-	10.6	3.7
	25～29 歳 (n=445)	24.7	23.0	34.4	16.9	10.8	9.6	16.5	6.3	8.7	6.6	6.8	2.8	2.6	3.8	1.7	0.2	0.1	8.6	2.1
	30～34 歳 (n=468)	30.6	18.7	19.5	16.2	13.8	2.4	13.7	8.8	8.5	8.5	11.3	6.1	3.2	5.3	0.9	0.9	1.2	10.1	3.2
	35～39 歳 (n=574)	26.8	20.1	11.7	20.1	19.0	3.7	5.6	11.3	11.8	5.0	9.3	5.5	3.4	3.8	2.6	1.3	0.4	16.1	2.6
	40～44 歳 (n=636)	34.2	16.6	7.1	15.8	13.4	4.2	5.6	12.0	9.4	4.7	9.4	6.0	3.1	1.6	3.5	1.0	1.5	15.9	3.1

性・地域別にみると（図表 1-8-3）、「住宅事情」は、男女とも京都市（男性 33.9%、女性 30.2%）と乙訓（同 36.9%、30.8%）、男性の山城北居住者（32.6%）で、3 割以上あげられている。

前述の現居住市区町村への満足度を聞いた設問の中で、“買い物など日常の生活環境”への満足度が低かった相楽東部居住者では、男女とも「通勤通学の便」（同 51.7%、65.0%）が、転出意向理由の第 1 位にあげられ、特に女性では 6 割以上にのぼる。相楽東部居住の男性では、「就職」も 25.0%と、他の地域に比べ高くなっている。

「結婚」は、男性の南丹市居住者（21.1%）と、女性の相楽東部（23.5%）、乙訓（22.9%）、京都市（20.2%）、南丹（19.6%）、山城北（18.8%）の居住者で 2 割前後あげられている。

「豊かな自然環境」は、京都市居住者（男性 19.2%、女性 20.8%）で 2 割前後となっている。中丹の男性では、「転勤」（25.3%）が他の地域より多い。

図表 1-8-3 転出意向理由（性・地域別）

		住 宅 事 情	通 勤 通 学 の 便	結 婚	豊 か な 自 然 環 境	子 ど も の 学 習 環 境	就 職	転 職	ど の 近 所 と の 間 の 関 係	親 と 近 居 す る た め	転 勤	家 族 の 移 動 に 伴 っ て	親 と 同 居 す る た め	入 学 ・ 進 学	保 育 サ ー ビ ス の 利 用	健 康 上 の 理 由	家 業 継 承	離 婚	そ の 他	無 回 答
全	体 (n=4,007)	28.6	21.0	16.6	16.2	12.9	11.3	10.1	8.7	8.6	8.1	6.5	5.6	3.4	3.0	2.4	1.1	0.5	12.0	2.9
男 性	京 都 市 (n=463)	33.9	20.4	9.0	19.2	14.0	16.7	10.4	7.1	8.8	10.7	1.7	6.8	4.9	2.7	3.0	1.9	-	8.3	2.9
	丹 後 (n=145)	18.8	23.4	13.1	7.1	10.3	15.3	11.4	21.0	4.4	14.7	4.0	3.7	3.4	4.9	1.4	1.0	0.4	11.6	4.2
	中 丹 (n=138)	26.3	11.1	7.2	8.8	12.1	10.1	14.2	11.7	9.0	25.3	3.4	10.1	4.3	2.5	2.2	1.8	-	23.3	4.0
	南 丹 (n=131)	17.5	32.1	21.1	11.7	6.2	12.8	12.3	13.6	8.1	8.1	3.6	5.8	2.6	3.3	5.2	2.5	0.5	15.7	3.4
	乙 訓 (n=129)	36.9	21.2	15.6	13.4	12.8	9.4	15.9	2.4	6.3	16.9	2.0	5.7	2.2	4.6	2.2	0.2	-	9.2	3.6
	学 研 都 市 (n=111)	28.5	30.5	17.0	15.4	3.7	16.8	9.3	4.8	9.5	9.4	1.9	6.7	5.8	-	1.0	0.5	-	8.9	1.9
	相 楽 東 部 (n=85)	13.5	51.7	18.5	2.7	16.3	25.0	8.2	8.2	1.3	4.0	2.7	0.9	5.0	6.3	3.1	5.0	-	19.4	0.9
	山 城 北 (n=249)	32.6	31.4	17.7	14.4	12.9	15.7	12.9	5.1	8.5	10.8	5.4	3.2	3.2	3.3	2.0	1.8	-	11.1	1.2
	女 性	京 都 市 (n=802)	30.2	17.1	20.2	20.8	12.7	8.4	9.9	9.7	8.6	5.2	8.2	5.3	2.5	2.9	1.7	0.6	0.5	11.7
丹 後 (n=223)	11.2	16.6	16.2	4.1	13.9	14.2	15.3	14.4	6.9	5.9	9.7	2.6	8.5	2.5	3.0	0.5	0.4	17.3	6.4	
中 丹 (n=203)	15.9	11.9	14.2	8.4	19.6	5.7	13.4	12.3	10.3	12.2	13.7	4.5	3.3	1.2	4.1	-	1.7	20.0	4.7	
南 丹 (n=223)	22.0	32.6	19.6	9.7	8.3	16.9	8.1	11.7	10.5	5.2	5.3	6.4	1.8	4.8	2.8	1.2	0.1	15.1	0.4	
乙 訓 (n=221)	30.8	23.7	22.9	15.4	8.9	5.0	4.7	6.1	13.6	9.5	8.1	5.3	1.7	2.6	1.7	1.7	0.8	16.6	2.4	
学 研 都 市 (n=204)	18.2	23.9	15.9	8.5	11.1	10.0	8.1	4.9	13.8	6.9	9.9	3.5	2.2	2.3	2.7	1.9	0.8	14.9	4.0	
相 楽 東 部 (n=172)	8.8	65.0	23.5	5.6	16.7	17.2	4.9	10.6	1.3	3.8	1.6	2.2	4.2	5.6	5.7	1.6	-	13.6	1.3	
山 城 北 (n=417)	27.1	27.4	18.8	8.7	16.0	7.3	7.2	5.9	6.2	4.4	10.7	4.1	4.1	5.1	2.1	0.7	1.3	10.3	4.4	

性・婚姻状況別にみると（図表 1-8-4）、未婚女性では「結婚」が 43.0%で、未婚男性（20.1%）を大きく上回っている。未婚男性の場合は、「通勤通学の便」（29.4%）、「就職」（29.3%）などが上位にあげられている。

一方、男女とも既婚者では「住宅事情」（男性 40.4%、女性 32.6%）が第 1 位にあげられ、特に男性では 4 割と高くなっている。

図表 1-8-4 転出意向理由（性・婚姻状況別）

		（%）																		
		住宅事情	通勤通学の便	結婚	豊かな自然環境	子どもの学習環境	就職	転職	近所との付き合いがない	親と同居するため	通勤	家族の移動に伴って	親と同居するため	入学・進学	保育サービスの利用	健康上の理由	家業継承	離婚	その他	無回答
全	体 (n=4,007)	28.6	21.0	16.6	16.2	12.9	11.3	10.1	8.7	8.6	8.1	6.5	5.6	3.4	3.0	2.4	1.1	0.5	12.0	2.9
男	未婚 (n=740)	21.9	29.4	20.1	10.9	4.2	29.3	16.4	6.8	3.8	11.7	2.2	4.1	3.3	1.4	3.4	1.1	-	8.4	2.9
	既婚 (n=728)	40.4	16.5	3.8	21.3	20.7	2.7	6.9	8.2	12.8	12.3	3.0	8.4	5.2	4.2	1.9	2.3	0.1	12.2	2.9
女	未婚 (n=1,021)	19.2	26.1	43.0	12.3	3.2	17.1	16.9	7.0	4.1	4.8	3.7	3.6	0.9	0.9	1.8	0.1	-	10.9	3.7
	既婚 (n=1,464)	32.6	15.8	2.6	18.8	20.2	2.7	4.1	10.8	12.3	6.6	12.4	5.9	4.3	4.8	2.4	1.3	1.2	14.2	2.3

性・子どもの有無別にみると（図表 1-8-5）、「住宅事情」は、子どものいる男性の 41.8%がを転出理由としてあげているが、子どものいる女性では 30.2%で、子どものいない既婚女性（40.6%）の方が多くあげている。

また、男女とも子どもがいる層では、「豊かな自然環境」（男性 22.1%、女性 19.8%）と「子どもの学習環境」（同 23.4%、23.3%）も、子どものいない層より多くあげられている。

図表 1-8-5 転出意向理由（性・子どもの有無別）

		（%）																			
		住宅事情	通勤通学の便	結婚	豊かな自然環境	子どもの学習環境	就職	転職	近所との付き合いがない	親と同居するため	通勤	家族の移動に伴って	親と同居するため	入学・進学	保育サービスの利用	健康上の理由	家業継承	離婚	その他	無回答	
全	体 (n=4,007)	28.6	21.0	16.6	16.2	12.9	11.3	10.1	8.7	8.6	8.1	6.5	5.6	3.4	3.0	2.4	1.1	0.5	12.0	2.9	
男	子どもがいない	未婚 (n=689)	22.3	29.2	19.8	10.8	4.0	29.4	16.3	6.3	4.1	12.1	2.2	4.0	1.4	3.6	1.2	-	8.7	2.5	
	子どもがいない	既婚 (n=171)	37.0	17.5	4.5	18.3	13.0	2.9	9.4	5.4	12.7	16.3	1.3	14.3	2.0	4.2	3.1	2.3	-	16.6	2.8
	子どもがいる	(n=546)	41.8	16.3	3.6	22.1	23.4	3.0	6.2	8.8	12.9	11.0	3.6	6.0	6.5	3.9	1.5	2.0	0.1	10.1	2.9
女	子どもがいない	未婚 (n=952)	19.0	26.5	42.7	12.5	3.2	17.4	16.6	6.6	3.8	4.7	3.8	3.4	1.0	0.8	1.9	0.1	-	11.1	3.6
	子どもがいない	既婚 (n=289)	40.6	17.5	7.0	14.4	8.0	1.3	7.2	11.9	12.0	6.7	12.9	4.0	0.3	4.8	3.7	1.6	0.5	14.9	1.3
	子どもがいる	(n=1,162)	30.2	15.6	1.6	19.8	23.3	3.1	3.4	10.7	12.5	6.5	12.3	6.5	5.1	5.0	2.1	1.2	1.5	13.8	2.7

転出意向のある者の転出希望状況を全体的にみると（図表 1-9-3）、「京都市内移動」（11.4%）や「府内他地域へ転出」（9.3%）を希望する者は 1 割前後で、『府内移動』希望者が 23.3%である。一方、全体の 2 割は『京都府外』（20.2%）への転出を希望している。

転出希望先に、男女差はみられない（図表 1-9-3）。

図表 1-9-3 転出希望状況（男女別）

		京都市内					京都府外									
		転出意向なし	府内移動（計）	京都市内移動	同一地域へ転出	府内他地域へ転出	他府県へ転出（計）	滋賀県内の市町村	大阪府内の市区町村	兵庫県内の市区町村	奈良県内の市町村	福井県内の市町村	三重県内の市町村	その他都道府県の市区町村	無回答	
全体	(n=7,593)	44.4	23.3	11.4	2.6	9.3	20.2	2.9	4.4	2.3	0.8	0.4	0.4	9.0	12.1	
男性	(n=2,996)	46.9	22.7	10.8	2.3	9.7	19.4	3.2	4.0	2.0	0.6	0.6	0.5	8.5	11.0	
女性	(n=4,519)	42.8	23.7	11.8	2.7	9.2	20.8	2.8	4.7	2.6	0.9	0.2	0.3	9.3	12.7	

性・年代別にみると（図表 1-9-4）、男女とも若い年代ほど転出意向が強い。特に、男女とも 20～24 歳は、「他府県へ転出」（男性 24.1%、女性 27.1%）を希望する者が、他の性・年代層より多くなっている。

図表 1-9-4 転出希望状況（性・年代別）

		京都市内					京都府外									
		転出意向なし	府内移動（計）	京都市内移動	同一地域へ転出	府内他地域へ転出	他府県へ転出（計）	滋賀県内の市町村	大阪府内の市区町村	兵庫県内の市区町村	奈良県内の市町村	福井県内の市町村	三重県内の市町村	その他都道府県の市区町村	無回答	
全体	(n=7,593)	44.4	23.3	11.4	2.6	9.3	20.2	2.9	4.4	2.3	0.8	0.4	0.4	9.0	12.1	
男性	20～24 歳	33.4	26.7	14.0	2.1	10.6	24.1	2.1	4.5	1.0	0.6	0.8	1.4	13.7	15.8	
	25～29 歳	40.5	31.5	13.4	2.6	15.5	18.8	1.9	4.0	1.8	0.8	0.8	0.6	8.8	9.2	
	30～34 歳	46.1	20.1	10.5	1.4	8.3	20.3	5.0	4.1	2.5	0.6	1.4	0.3	6.4	13.5	
	35～39 歳	51.1	20.4	9.8	2.9	7.8	17.9	2.8	4.5	1.9	0.8	0.2	0.5	7.2	10.6	
	40～44 歳	52.9	20.6	9.2	2.3	9.1	18.1	3.3	3.1	2.5	0.4	0.2	0.3	8.4	8.4	
女性	20～24 歳	27.8	29.9	15.0	2.7	12.1	27.1	2.0	9.2	3.5	0.8	0.7	0.1	10.6	15.3	
	25～29 歳	35.7	31.3	16.0	2.9	12.4	21.7	2.0	5.9	4.2	0.5	0.5	0.3	8.4	11.4	
	30～34 歳	45.0	22.3	11.2	3.0	8.1	21.2	2.4	4.1	2.1	1.3	0.1	0.4	10.9	11.6	
	35～39 歳	47.2	22.7	11.1	2.8	8.8	18.6	3.0	3.8	2.0	0.6	0.1	0.5	8.6	11.5	
	40～44 歳	47.5	19.1	9.3	2.4	7.4	19.4	3.6	3.6	2.2	1.1	0.1	0.1	8.7	14.1	

性・地域別に転出希望状況をみると(図表 1-9-5)、男性の丹後地域及び学研都市居住者の約 6 割(丹後 59.3%、学研都市 58.0%)は転出意向がなく、定住意向が強い。女性では、学研都市(52.0%)、丹後(50.1%)、乙訓(47.9%)の各居住者の定住意向が 5 割前後となっている。

これに対して、相楽東部の女性は定住意向が低く、「府内他地域へ転出」希望者が 34.9%、「他府県へ転出」希望者が 30.1%である。他府県の転出先としては、「奈良県内の市町村」(12.3%)を 1 割以上が希望している。

図表 1-9-5 転出希望状況(性・地域別)

(%)

		京都府内					京都府外								無 回 答
		転 出 意 向 な し	府 内 移 動 (計)	京 都 市 内 移 動	同 一 地 域 へ 転 出	府 内 他 地 域 へ 転 出	他 府 県 へ 転 出 (計)	滋 賀 県 内 の 市 町 村	大 阪 府 内 の 市 区 町 村	兵 庫 県 内 の 市 区 町 村	奈 良 県 内 の 市 町 村	福 井 県 内 の 市 町 村	三 重 県 内 の 市 町 村	そ の 他 都 道 県 の 市 区 町 村	
全	体 (n=7,593)	44.4	23.3	11.4	2.6	9.3	20.2	2.9	4.4	2.3	0.8	0.4	0.4	9.0	12.1
男 性	京 都 市 (n=905)	45.5	24.7	19.3	-	5.3	19.3	4.3	3.2	1.3	0.1	0.6	0.6	9.1	10.5
	丹 後 (n=368)	59.3	19.0	-	6.3	12.7	12.1	0.2	3.2	2.4	0.6	0.6	0.6	4.5	9.6
	中 丹 (n=266)	44.1	16.4	-	5.2	11.2	28.1	0.7	6.0	7.7	1.0	1.0	1.0	10.7	11.4
	南 丹 (n=252)	43.9	28.0	-	10.9	17.0	16.3	2.8	4.2	3.3	1.1	-	-	4.9	11.9
	乙 訓 (n=259)	51.3	15.3	-	2.8	12.5	19.7	4.9	4.8	1.3	0.4	1.1	-	7.2	13.7
	学 研 都 市 (n=278)	58.0	13.5	-	2.6	10.8	22.6	3.1	4.7	1.8	4.7	0.4	0.5	7.4	5.9
	相 楽 東 部 (n=156)	45.0	25.5	-	1.5	24.0	21.6	0.5	6.4	1.2	5.4	-	2.7	5.4	7.9
	山 城 北 (n=477)	46.4	26.6	-	5.4	21.1	17.9	0.8	5.4	1.8	0.3	0.4	0.6	8.7	9.1
	女 性	京 都 市 (n=1,478)	42.6	24.9	20.4	-	4.6	20.2	3.5	4.0	2.0	0.4	0.2	0.3	9.7
丹 後 (n=458)	50.1	17.4	-	4.4	13.0	15.3	0.6	3.6	4.4	0.5	0.5	0.3	5.6	17.2	
中 丹 (n=374)	42.9	19.5	-	7.3	12.3	27.5	0.9	6.9	6.2	-	1.3	-	12.1	10.1	
南 丹 (n=374)	36.1	28.9	-	6.2	22.7	20.6	2.2	4.2	4.6	1.1	-	0.2	8.2	14.4	
乙 訓 (n=429)	47.9	21.5	-	6.7	14.8	22.1	3.4	8.2	3.7	0.2	-	0.3	6.2	8.6	
学 研 都 市 (n=447)	52.0	14.5	-	5.4	9.1	22.3	1.2	5.2	1.1	5.4	-	0.6	8.8	11.2	
相 楽 東 部 (n=230)	24.5	36.6	-	1.7	34.9	30.1	2.2	5.8	1.0	12.3	-	2.5	6.3	8.8	
山 城 北 (n=689)	39.4	26.6	-	7.3	19.2	20.8	1.9	5.8	2.5	1.2	-	-	9.3	13.3	

性・婚姻状況別にみると（図表 1-9-6）、未婚女性は現居住地からの転出意向が強く、「京都市内での移動」（16.2%）や「府内他地域へ転出」（11.3%）など、『府内移動』の希望者が3割（30.4%）である。「他府県へ転出」希望者は23.4%となっている。

図表 1-9-6 転出希望先（性・婚姻状況別）

		京都府内					京都府外									
		転出意向なし	府内移動（計）	京都市内移動	同一地域へ転出	府内他地域へ転出	他府県へ転出（計）	滋賀県内の市町村	大阪府内の市区町村	兵庫県内の市区町村	奈良県内の市町村	福井県内の市町村	三重県内の市町村	その他都道府県の市区町村	無回答	
全体	(n=7,593)	44.4	23.3	11.4	2.6	9.3	20.2	2.9	4.4	2.3	0.8	0.4	0.4	9.0	12.1	
男性	未婚	39.1	25.3	11.9	2.1	11.3	21.8	3.4	5.2	1.4	0.4	0.7	0.7	9.8	13.8	
	既婚	52.7	20.7	9.8	2.4	8.5	17.7	3.1	3.0	2.5	0.7	0.5	0.4	7.5	8.9	
女性	未婚	32.8	30.4	16.2	2.9	11.3	23.4	1.8	6.6	3.3	0.8	0.3	0.1	10.5	13.4	
	既婚	48.1	20.2	9.5	2.6	8.1	19.4	3.3	3.8	2.2	0.9	0.2	0.4	8.6	12.2	

性・子どもの有無別にみると（図表 1-9-7）、男女とも婚姻状況にかかわらず子どものいない人は、「他府県への転出」希望者が2割を上回り、子どものいる人よりも多くなっている。

子どもがいる者は、現居住地から「転出意向なし」（男性56.5%、女性50.7%）という者が過半数である。

図表 1-9-7 転出希望先（性・子どもの有無別）

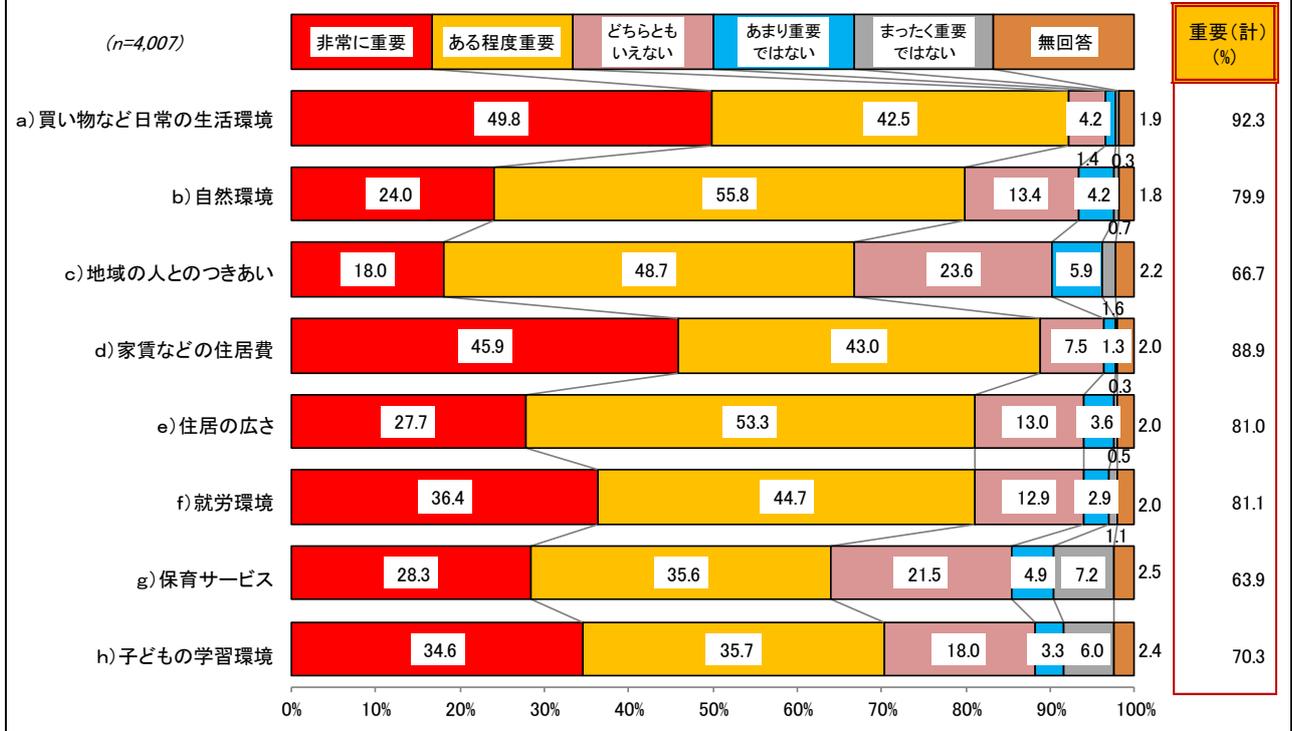
		京都府内					京都府外									
		転出意向なし	府内移動（計）	京都市内移動	同一地域へ転出	府内他地域へ転出	他府県へ転出（計）	滋賀県内の市町村	大阪府内の市区町村	兵庫県内の市区町村	奈良県内の市町村	福井県内の市町村	三重県内の市町村	その他都道府県の市区町村	無回答	
全体	(n=7,593)	44.4	23.3	11.4	2.6	9.3	20.2	2.9	4.4	2.3	0.8	0.4	0.4	9.0	12.1	
男性	子どもがいない	38.9	24.9	11.6	2.1	11.2	22.6	3.6	5.4	1.5	0.5	0.8	0.8	10.2	13.5	
	子どもがいる	56.5	18.4	8.3	2.3	7.8	16.1	3.1	3.0	2.3	0.5	0.1	0.3	6.9	9.0	
	既婚	37.2	29.5	16.1	2.5	10.9	24.5	2.8	3.4	3.2	1.9	2.3	0.6	10.3	8.8	
女性	子どもがいない	32.0	31.1	16.7	2.8	11.6	24.2	1.8	7.0	3.3	0.8	0.4	0.1	10.9	12.7	
	子どもがいる	50.7	18.9	8.2	2.7	8.0	18.4	3.4	3.3	2.3	0.8	0.2	0.4	8.0	12.0	
	既婚	36.6	27.2	15.8	2.5	8.9	22.9	3.2	5.6	2.1	1.2	-	0.1	10.8	13.3	

(10) 転出先に重要な点

【問7で「2 移りたい (移る予定)」「3 どちらでもよい」と答えた方にお聞きします。】

問10 現在お住まいの市区町村から移る先として、重要なのはどんな点ですか。下記のa)～h)について、あてはまるものをそれぞれ1つずつお選びください。

(図表 1-10-1)



現在居住している市区町村から「移りたい (移る予定)」もしくは、住み続けても移っても「どちらでもよい」という者(4,007人)が現居住地から転出する場合、「買い物など日常生活環境」「自然環境」「地域の人とのつきあい」「家賃などの住居費」「住居の広さ」「就労環境」「保育サービス」「子どもの学習環境」の8項目が、それぞれどの程度重要であるかを聞いた(図表 1-10-1)。

どの項目も、「非常に重要」あるいは「ある程度重要」と回答した『重要』であると考えてる人が多数を占めるが、特に「買い物など日常生活環境」については、半数が「非常に重要」(49.8%)と回答しており、「ある程度重要」(42.5%)を合わせると、9割以上が『重要』(92.3%)であると回答している。また、現状での満足度の低い「家賃などの住居費」も「非常に重要」という人が45.9%で、「ある程度重要」(43.0%)を合わせると、『重要』と考える者(88.9%)が9割近い。

“就労環境”の重要度(「非常に重要」と「ある程度満足」の計)は81.1%、“住居の広さ”の重要度は81.0%、“自然環境”の重要度は79.9%で並んでいる。

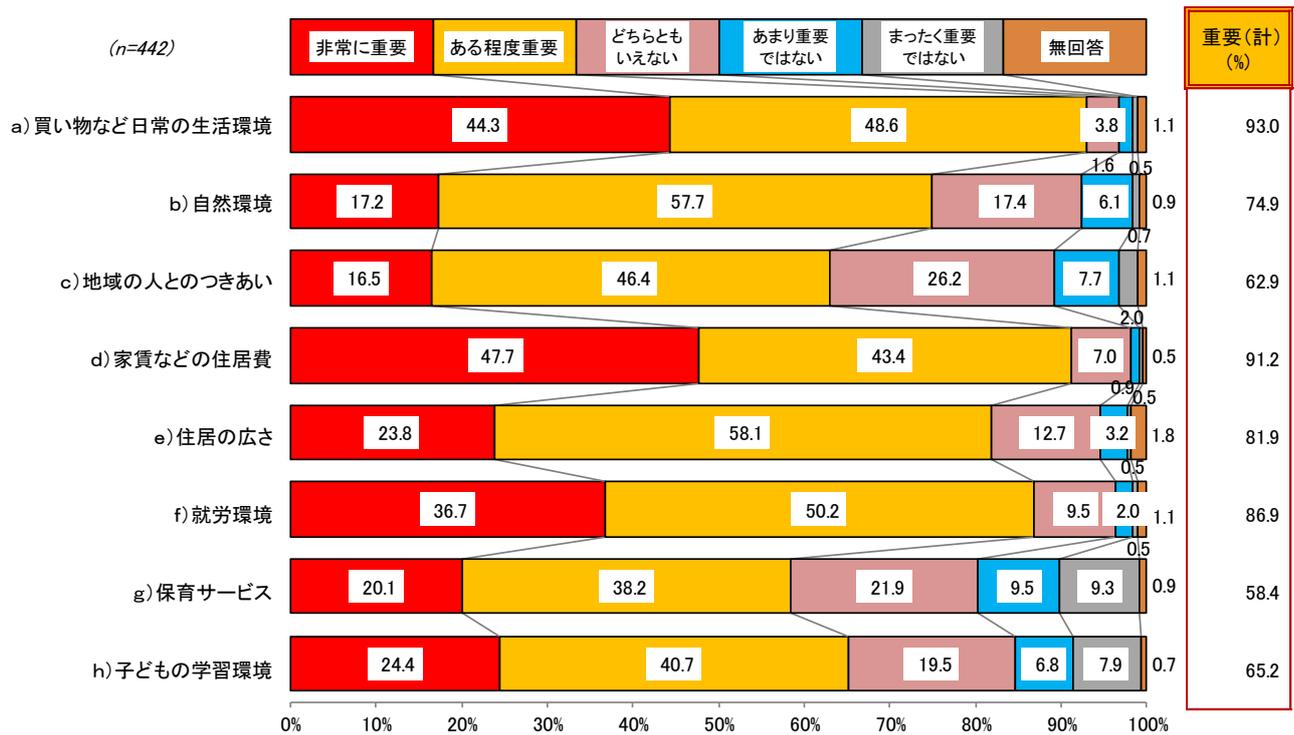
〈参考：全国調査〉

全国調査で、現在の市区町村からの転出意向のある者（442人）にとっての重要な点としても、“買い物など日常の生活環境”（93.0%）と“家賃などの住居費”（91.2%）が、ともに9割以上が『重要』であると回答している。

“就労環境”（86.9%）と“住居の広さ”（81.9%）の重要度はともに8割台だが、“自然環境”の重要度は74.9%で、府民調査よりはやや低くなっている。

“子どもの学習環境”（65.2%）、“地域の人とのつきあい”（62.9%）、“保育サービス”（58.4%）なども、府民よりは重要度が低い。

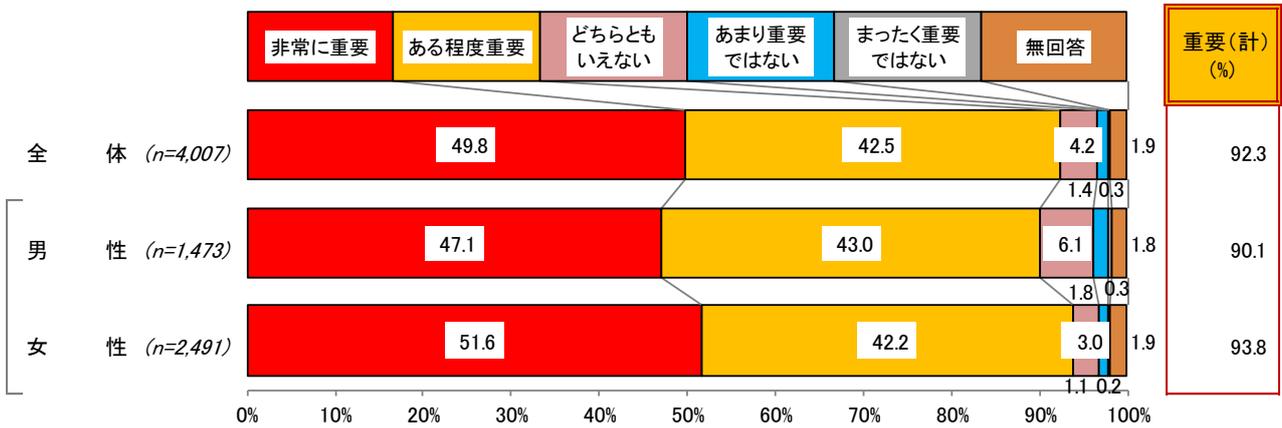
参考 1-10 転出先に重要な点



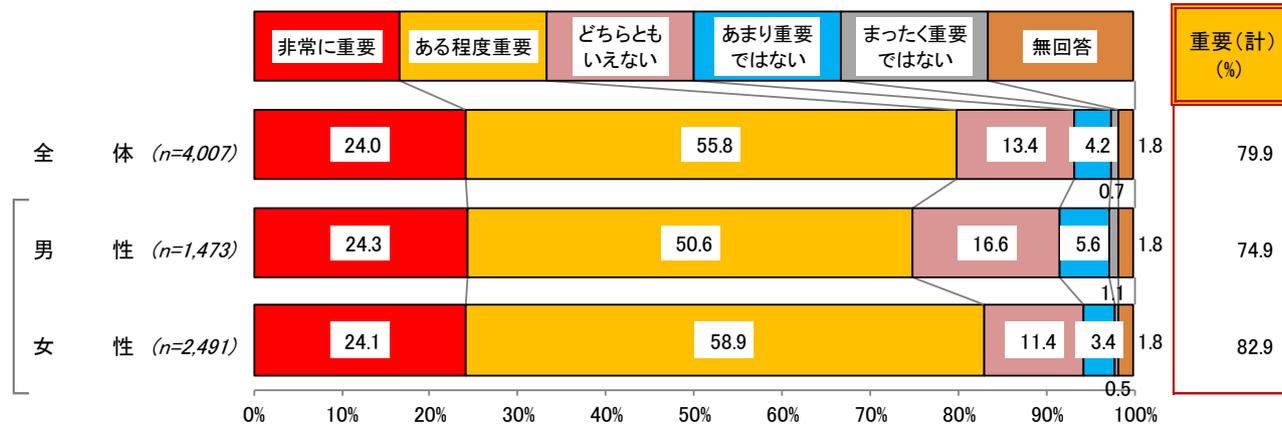
男女別にみると（図表 1-10-2・63～65 ページ）、「買い物など日常の生活環境」は男女とも 9 割以上が『重要』（男性 90.1%、女性 93.8%）であると考えており、男女差はみられない。それ以外の項目も、男女とも『重要』であると考えてる者が多数を占めているが、男性より女性の方が強く意識している。

図表 1-10-2 転出先に重要な点（男女別）

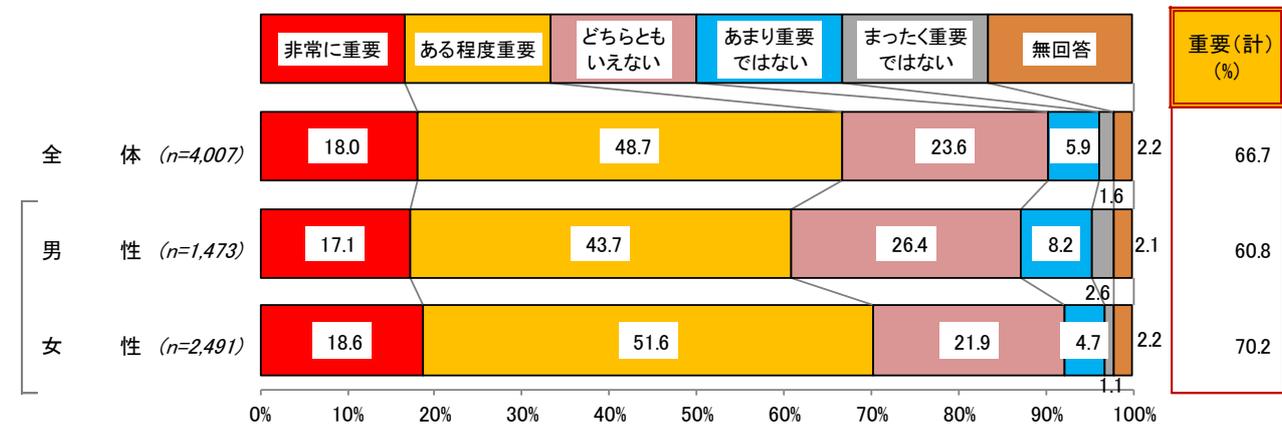
<買い物など日常の生活環境>



<自然環境>

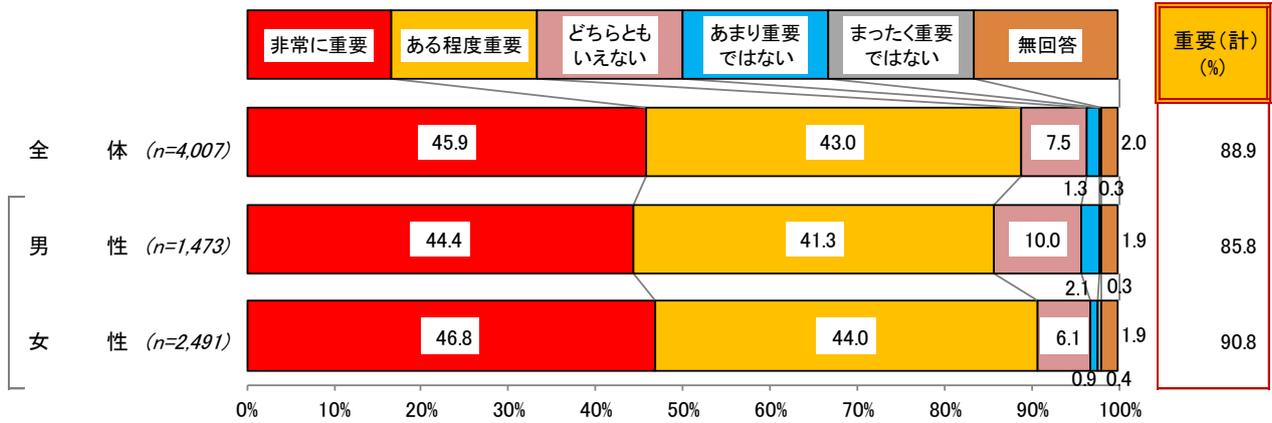


<地域の人とのつきあい>

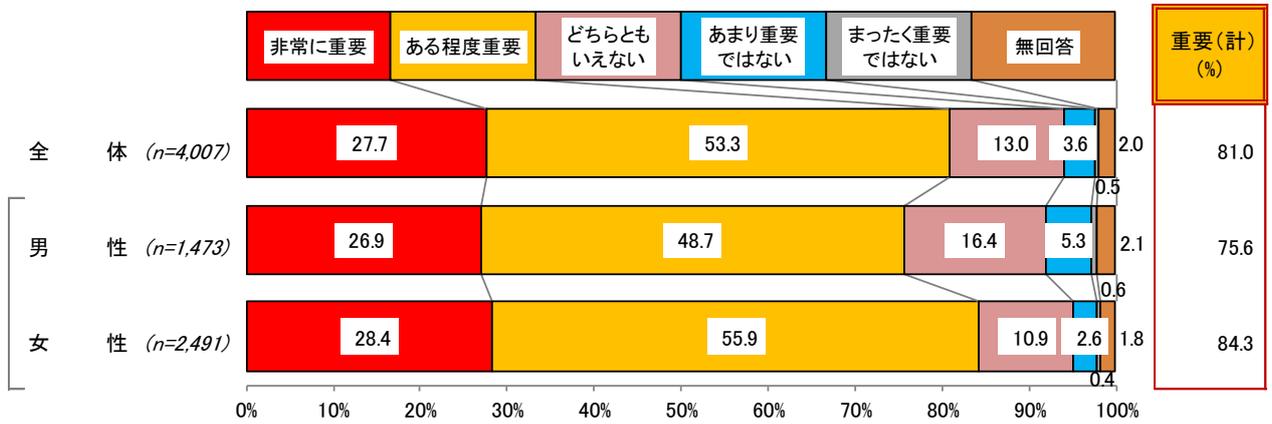


図表 1-10-2・つづき 転出先に重要な点（男女別）

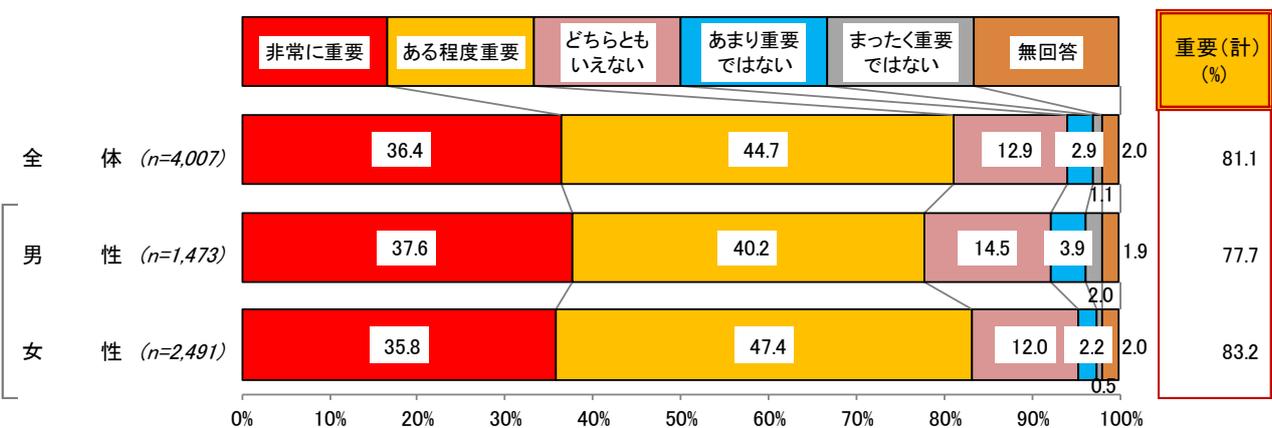
<家賃などの住居費>



<住居の広さ>

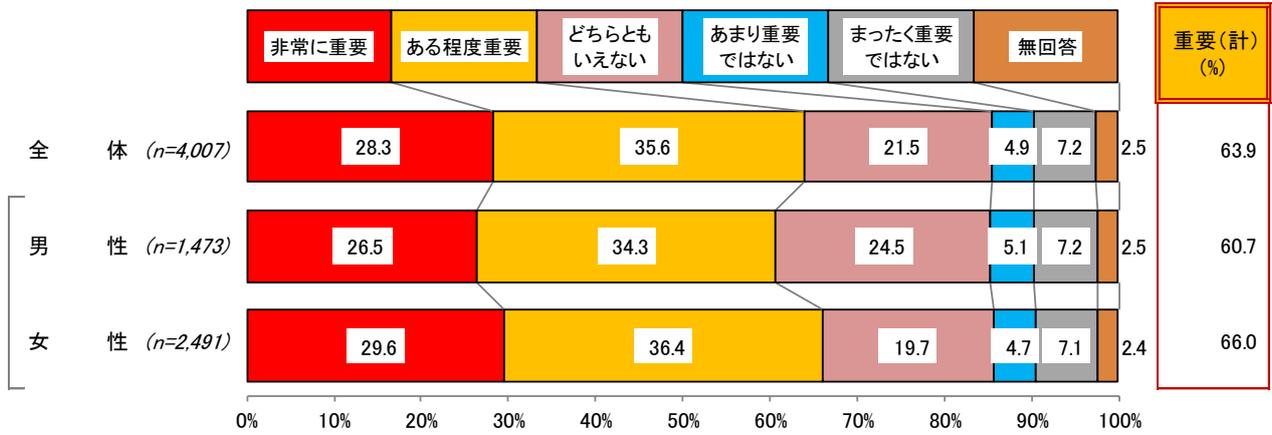


<就労環境>

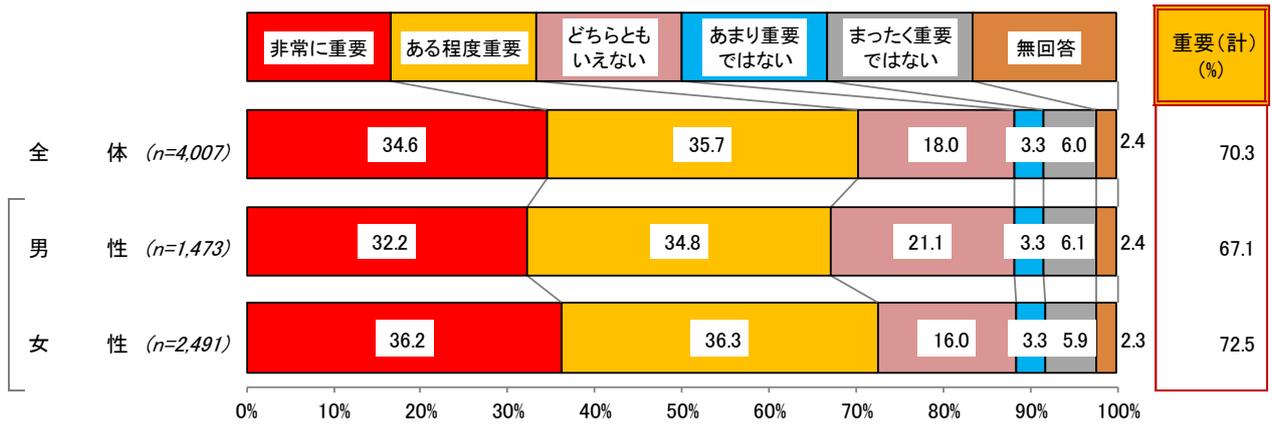


図表 1-10-2・つづき 転出先に重要な点（男女別）

<保育サービス>

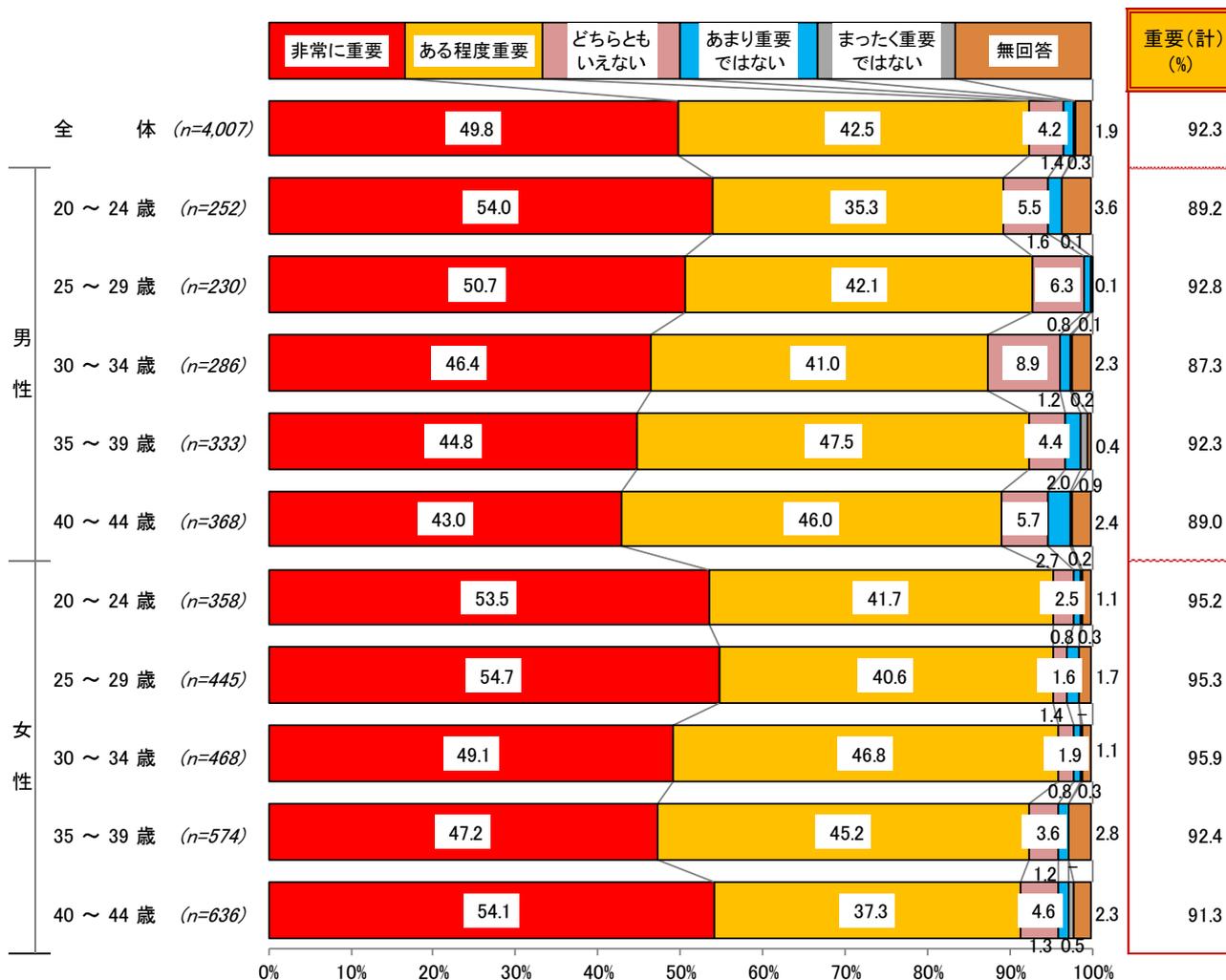


<子どもの学習環境>



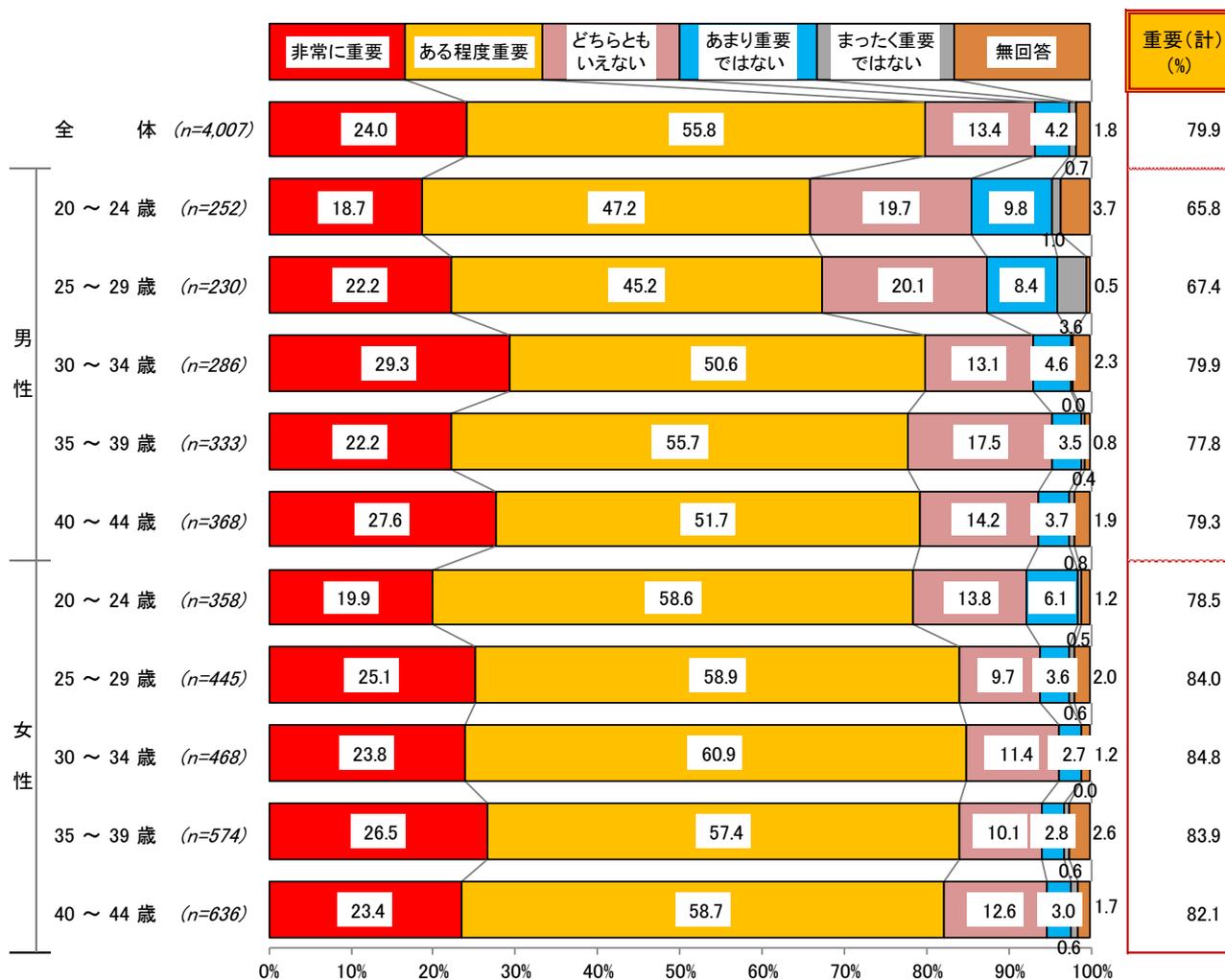
転出先に重要な点として“買い物など日常の生活環境”を性・年代別にみると（図表 1-10-3）、いずれの性・年代層でも、『重要』であると考えている者が9割前後を占めている。中でも、男女とも20歳代と女性の40～44歳では、「非常に重要」という者が過半数を占めている。

図表 1-10-3 転出先に重要な点：買い物など日常の生活環境（性・年代別）



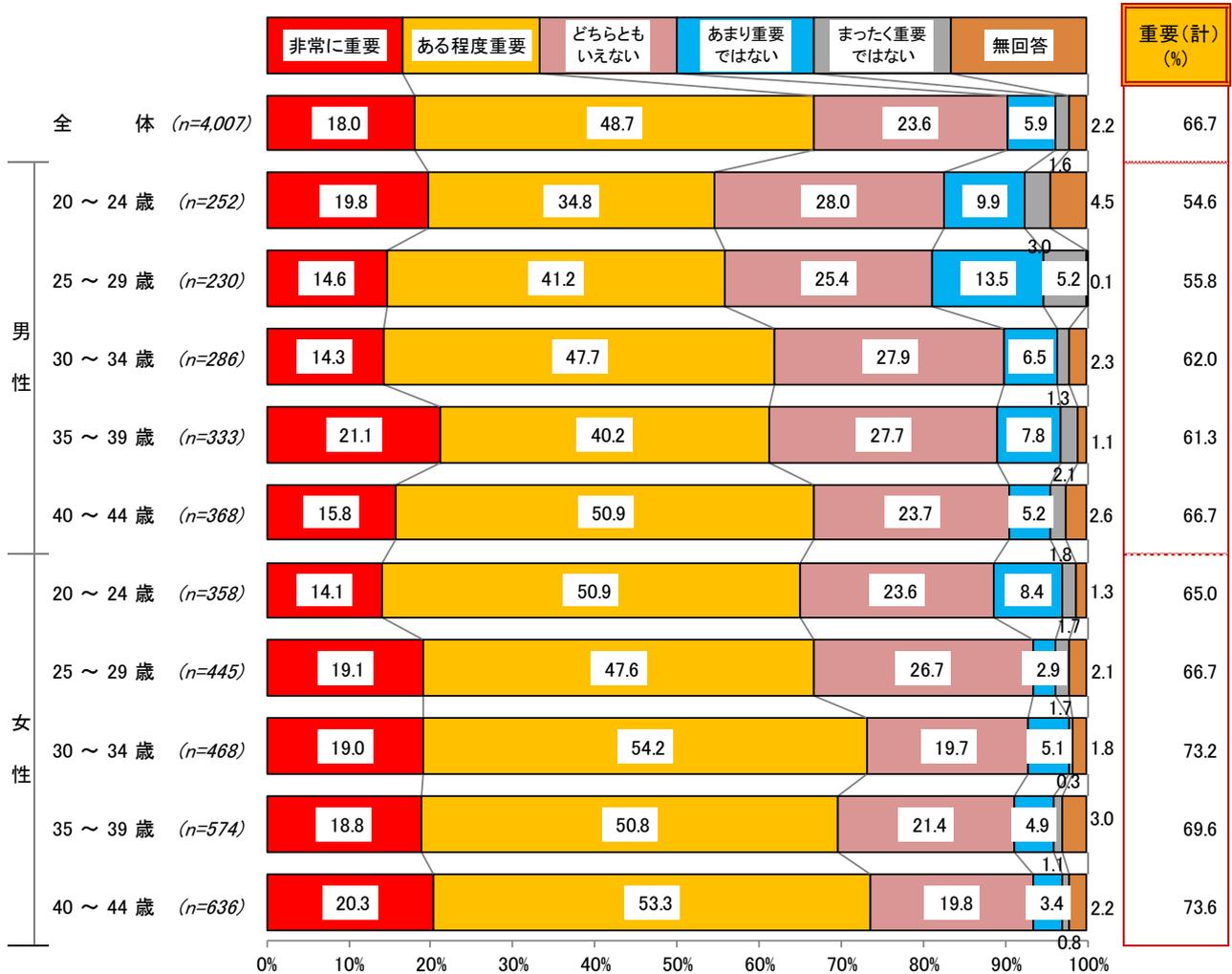
転出先の“自然環境”については（図表 1-10-4）、男性の 20 代では『重要』という回答者が 6 割台だが、30 歳以上になると 8 割近くと多くなっている。一方、女性では、25 歳以上の年代で 8 割以上が『重要』であると回答している。

図表 1-10-4 転出先に重要な点：自然環境（性・年代別）



“地域の人とのつきあい”を性・年代別にみると（図表 1-10-5）、男性は年代の高い層ほど『重要』であると考えている者が多くなっている。一方、女性では、40～44歳（73.6%）と30～34歳（73.2%）で、7割以上が『重要』であると考えている。

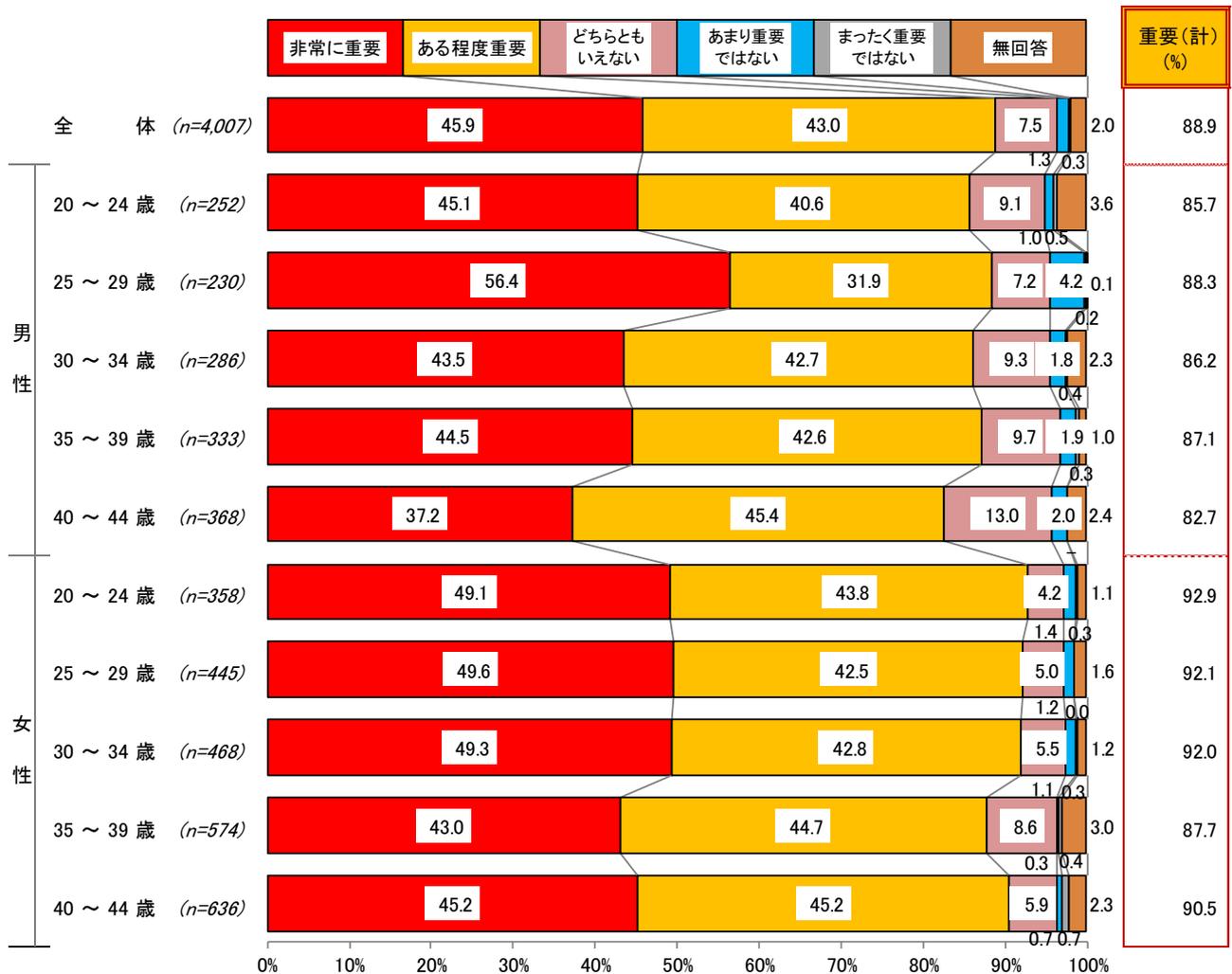
図表 1-10-5 転出先に重要な点：地域の人とのつきあい（性・年代別）



“家賃などの住居費”については（図表 1-10-6）、男性の 25～29 歳で「非常に重要」（56.4%）という者が、特に多くなっている。

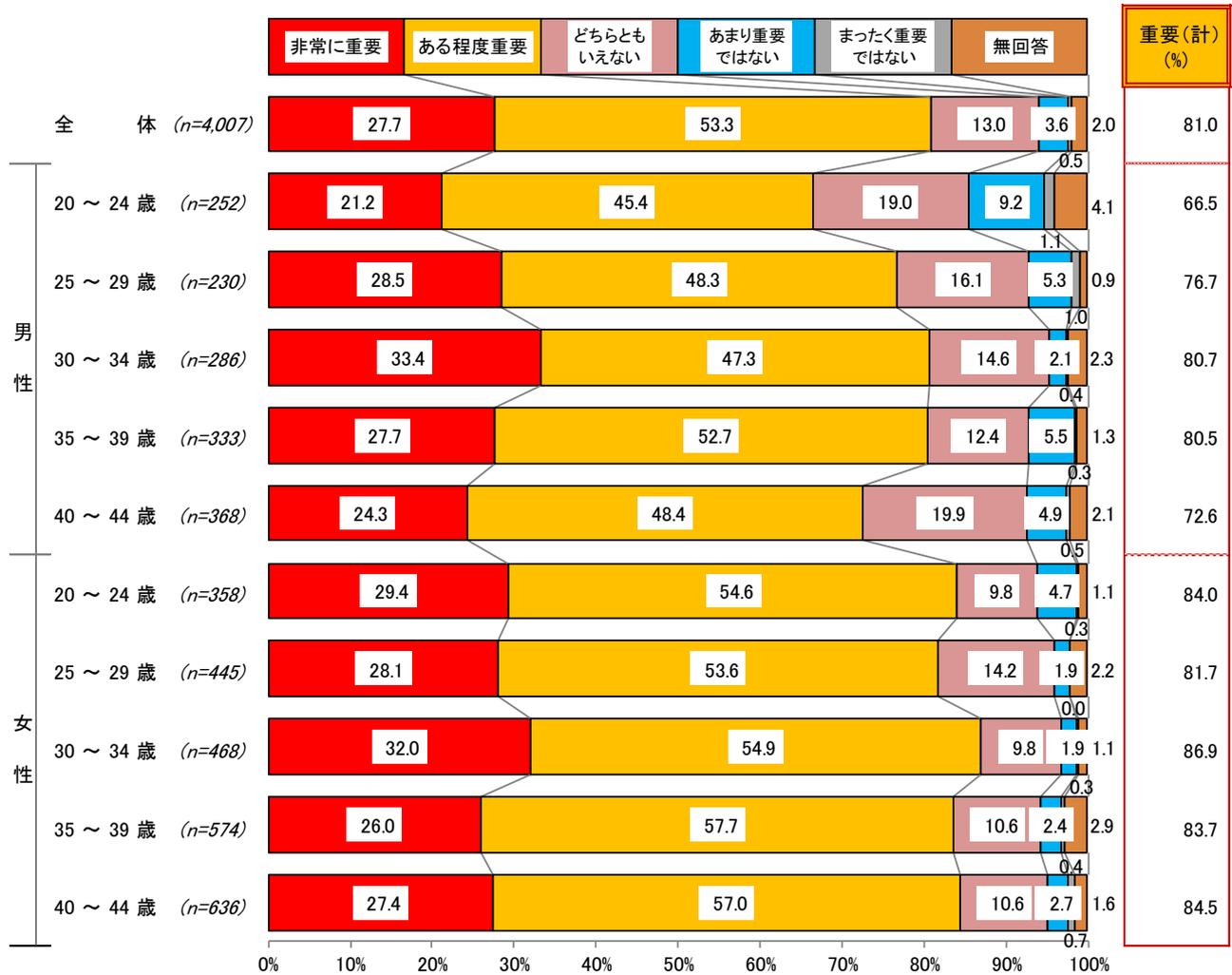
「ある程度重要」という者を合わせると、女性の 20 歳代から 34 歳までの年代と 40～44 歳で、9 割以上が『重要』であると考えている。

図表 1-10-6 転出先に重要な点：家賃などの住居費（性・年代別）



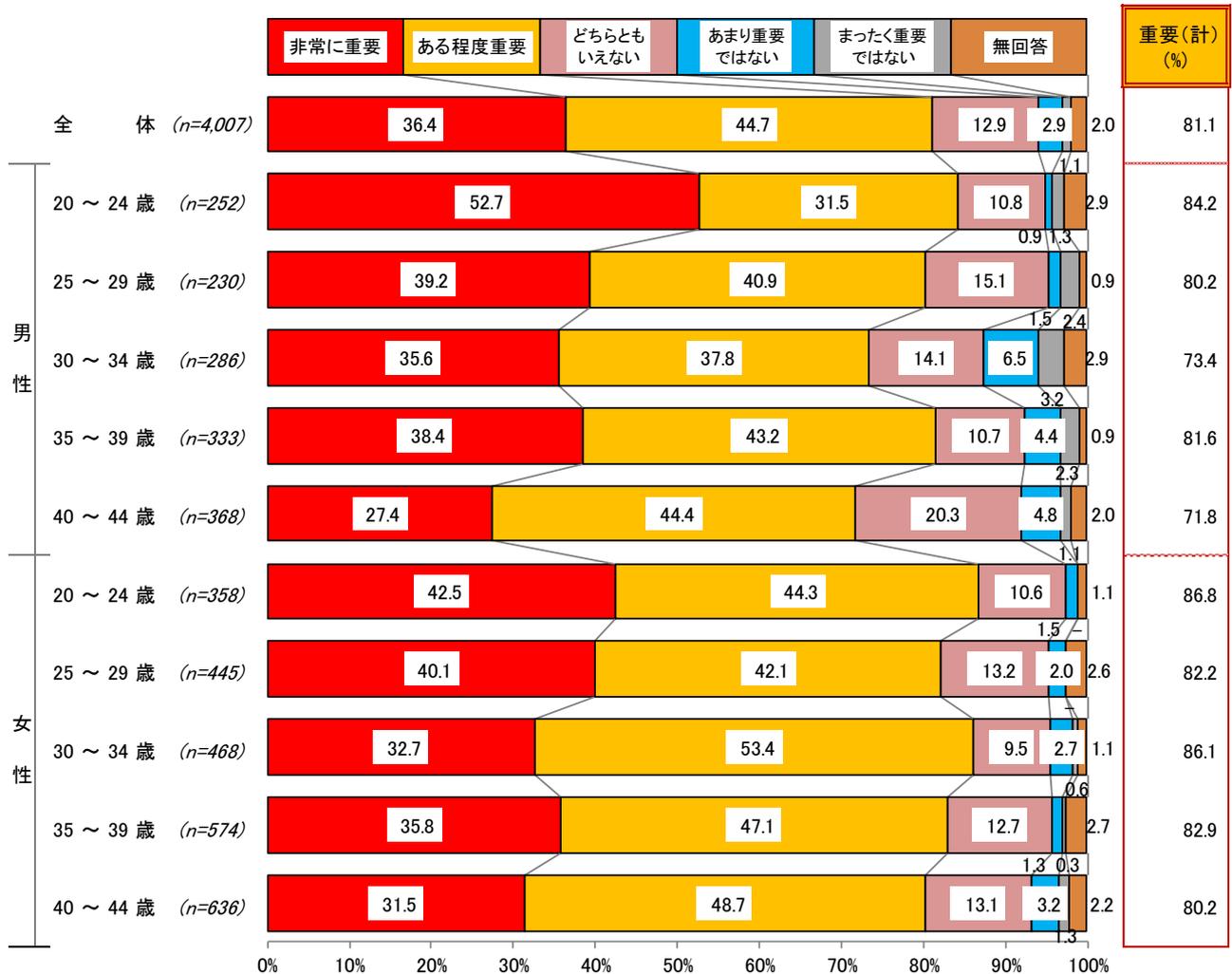
“住居の広さ”については（図表 1-10-7）、女性の 30～34 歳で『重要』であるとする者が 86.9%と、他の性・年代層より多くなっている。男性の 20～24 歳では 66.5%で、同年代の女性（84.0%）との差が大きい。また、男性の 40～44 歳でも“住居の広さ”を『重要』であるとする者は 72.6%で、同年代の女性（84.5%）との差が大きい。

図表 1-10-7 転出先に重要な点：住居の広さ（性・年代別）



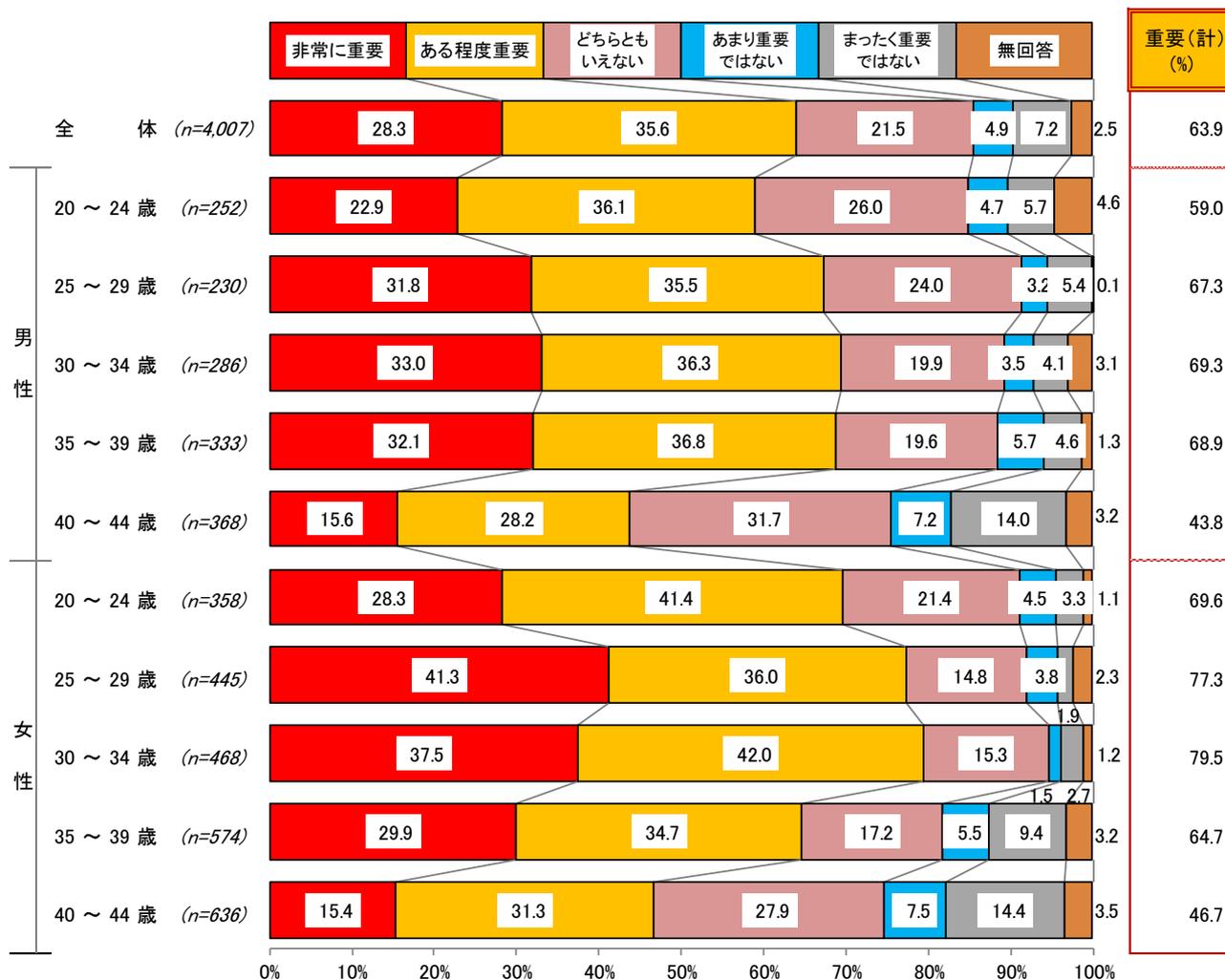
“就労環境”について性・年代別にみると（図表 1-10-8）、「非常に重要」という者は、男女とも若い年代ほど多い傾向があり、特に男性の 20～24 歳（52.7%）では過半数を占める。

図表 1-10-8 転出先に重要な点：就労環境（性・年代別）



転出先の“保育サービス”については（図表 1-10-9）、女性の 25～34 歳で「非常に重要」（25～29 歳 41.3%、30～34 歳 37.5%）であるという者が他の性・年代層より多く、特に、30～34 歳の年代では 8 割が『重要』（79.5%）であると回答している。一方、男女とも 40～44 歳では「どちらともいえない」（男性 31.7%、女性 27.9%）という者が 3 割前後で、転出先として『重要』であると考える者は半数に満たない。

図表 1-10-9 転出先に重要な点：保育サービス（性・年代別）



“子どもの学習環境”については（図表 1-10-10）、女性の 25～34 歳で「非常に重要」（25～29 歳 42.3%、30～34 歳 44.2%）であるという者が他の性・年代層より多く、特に 30～34 歳では『重要』であるとする者が 8 割を上回っている（82.4%）。

図表 1-10-10 転出先に重要な点：子どもの学習環境（性・年代別）

